

2026年8月の地震活動の評価

1. 主な地震活動

- 8月1日に熊本県熊本地方でマグニチュード (M) 4.7 の地震が発生し、熊本県で最大震度5弱を観測した。
- 8月23日に茨城県南部でM5.9の地震が発生した。この地震により茨城県、埼玉県、千葉県、東京都で最大震度5弱を観測し、負傷者が出るなど被害を生じた。また、埼玉県、千葉県、東京都で長周期地震動階級2を観測した。

2. 各領域別の地震活動

(1) 北海道地方

- 8月2日に日高地方東部の深さ約50 kmでM4.9の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。
- 8月23日に浦河沖の深さ約40 kmでM6.0の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

(2) 東北地方

- 8月1日に青森県東方沖の深さ約75 kmでM5.7の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。
- 8月9日に岩手県沖の深さ約40 kmでM5.6の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

この地震の震央周辺では、6月25日にM7.2の地震が発生して以降、地震活動が継続している。

今回の地震活動域の南東側では、2025年11月9日の三陸沖 (M6.9)、2026年4月20日の三陸沖 (M7.7) の地震活動が見られ、これら一連の地震活動域では、8月中に震度1以上を観測した地震が17回発生した。これらの地震活動域の東側では、2025年11月4日の三陸沖の地震 (M5.3) が発生して以降、微動活動が断続的に継続している。

G N S S観測によると、4月20日の三陸沖の地震 (M7.7) の後、およそ4か月間で、岩手県の久慈観測点が東南東方向に約7 cm 変動するなど、岩手県を中心に余効変動と考えられる水平変動が観測されている。余効変動から推定される余効すべりは、M7.7の地震活動域とその西側及び今回の地震活動域の東側で継続していると考えられる。また、その周辺では、繰り返し地震の解析から、非地震性すべりが継続していると考えられる。

今回の地震を含む、6月25日以降の地震活動は、「平成6年 (1994年) 三陸はるか沖地震」 (M7.6) の震源域の西端付近における最大余震 (1995年1月7

日の M7.2) の震央付近で発生している。なお、これらの地震活動域を含む 2025 年 11 月からの三陸沖から岩手県沖にかけての一連の地震活動域、「平成 6 年 (1994 年) 三陸はるか沖地震」の震源域及び 2025 年 12 月 8 日の青森県東方沖 (M7.5) の地震活動域は、「1968 年十勝沖地震」(M7.9) の震源域内のそれぞれ南部、中部及び北部に位置する。

6 月 25 日の M7.2 の地震は、地震調査委員会が「日本海溝沿いの地震活動の長期評価 (平成 31 年 2 月 26 日公表)」で想定していた「青森県東方沖及び岩手県沖北部」の領域で発生する「ひとまわり小さいプレート間地震」(M7.0~M7.5 程度)であり、30 年以内に発生する確率はⅢランク (高い) (※1) に該当する。これは、海溝型地震の中では、地震発生確率が最も高いものと位置づけられる。なお、「平成 6 年 (1994 年) 三陸はるか沖地震」は「青森県東方沖及び岩手県沖北部」の「ひとまわり小さいプレート間地震」とされ、また、「1968 年十勝沖地震」は同領域の「プレート間巨大地震」(M7.9 程度)とされているが、どちらも、30 年以内に発生する確率はⅢランク (高い) に該当する。

(3) 関東・中部地方

○ 8 月 21 日に八丈島東方沖の深さ約 65 km で M5.4 の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。

○ 8 月 23 日に茨城県南部の深さ約 70 km で M5.9 の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震である。

G N S S 観測によると、今回の地震に伴う有意な地殻変動は観測されていない。

○ 8 月 30 日に千葉県東方沖の深さ約 35 km で M4.8 の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に張力軸を持つ型であった。

(4) 近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

(5) 九州・沖縄地方

○ 7 月 28 日 16 時 27 分に熊本県熊本地方で M7.1 の地震が発生した後、発生前に比べ地震回数は多い状態が継続しているが、大局的には緩やかに減少している。7 月 28 日 16 時から 8 月 31 日までに最大震度 1 以上を観測した地震は 735 回 (震度 7 : 1 回、震度 5 弱 : 5 回、震度 4 : 23 回、震度 3 : 71 回) 発生した。8 月に最大震度を観測した地震は 1 日 21 時 47 分に発生した M4.7 の地震 (深さ約 10 km、最大震度 5 弱) である。

今回の地震活動域付近には布田川断層帯、日奈久断層帯が存在している。

G N S S 観測によると、7 月 28 日の M7.1 の地震の後、日奈久断層帯の日奈久区間の南西部を中心に、熊本県及びその周辺で余効変動と考えられる地殻変動が観測されている。

地震調査委員会は、日奈久断層帯の高野一白旗区間及び日奈久区間について、活動時にそれぞれ M6.8 程度、M7.5 程度の地震が発生する可能性があり、30 年以内の地震発生確率はそれぞれ X ランク (不明)、S* ランク (高い) (※2) と評価していた。また、日奈久断層帯を含む九州南部の区域では、M6.8 以上の地

震の発生確率は7-18%と評価していた。

今後2週間程度、最大震度5弱程度以上の地震に注意が必要である。なお、最大震度5強程度以上の地震についても、平常時と比べると依然として発生しやすい状況である。地震活動域は広範囲であり、地震の規模や震源との位置関係によってはM7.1の地震による揺れよりも強く揺れる可能性がある。また、海底で規模の大きな地震が発生した場合、津波に注意する必要がある。

- 8月2日に日向灘の深さ約20 kmでM5.3の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。
- 8月17日に福岡県福岡地方の深さ約5 kmでM4.2の地震が発生した。この地震は地殻内で発生した地震である。

(6) 南海トラフ周辺

- 南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。

※1：海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明（すぐに地震が起きることを否定できない）を「Xランク」と表記している。

※2：活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1～3%未満を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難）を「Xランク」と表記している。地震後経過率（※3）が0.7以上である活断層については、ランクに「*」を付記している。Zランクでも、活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示す。

※3：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。

2026年8月の地震活動の評価についての補足説明

令和8年9月9日
地震調査委員会

1. 主な地震活動について

2026年8月の日本及びその周辺域におけるマグニチュード(M)別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上及びM5.0以上の地震の発生は、それぞれ106回(7月は128回)及び13回(7月は17回)であった。また、M6.0以上の地震の発生は1回(7月は5回)であった。

- (参考) M4.0以上の月回数 81回 (69-104回)
(1998-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)
M5.0以上の月回数 10回 (7-14回)
(1973-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)
M6.0以上の月回数 1回 (0-2回)
(1919-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)
M6.0以上の年回数 16回 (12-21回)
(1919-2017年の年回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)

2025年8月以降2026年7月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあつた。

ー	トカラ列島近海	2025年9月17日	M4.7
ー	根室半島南東沖	2025年10月25日	M5.8 (深さ約40 km)
ー	三陸沖	2025年11月9日	M6.9 (深さ約15 km)
ー	熊本県阿蘇地方	2025年11月25日	M5.8 (深さ約10 km)
ー	青森県東方沖	2025年12月8日	M7.5 (深さ約55 km)
ー	島根県東部	2026年1月6日	M6.4 (深さ約10 km)
ー	茨城県南部	2026年4月1日	M5.0 (深さ約50 km)
ー	長野県北部	2026年4月18日	M5.0 (深さ約10 km)
ー	長野県北部	2026年4月18日	M5.1 (深さ約10 km)
ー	三陸沖	2026年4月20日	M7.7 (深さ約20 km)
ー	十勝地方南部	2026年4月27日	M6.2 (深さ約85 km)
ー	宮城県沖	2026年5月15日	M6.4 (深さ約45 km)
ー	沖縄本島近海	2026年5月20日	M5.9 (深さ約50 km)
ー	フィリピン諸島、ミンダナオ	2026年6月8日	Mw7.7
ー	茨城県南部	2026年6月16日	M5.5 (深さ約50 km)
ー	岩手県沖	2026年6月25日	M7.2 (深さ約45 km)
ー	山梨県東部・富士五湖	2026年6月26日	M5.6 (深さ約20 km)
ー	令和8年熊本地震	2026年7月28日	M7.1 (深さ約15 km)

2. 各領域別の地震活動

(1) 北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

(2) 東北地方

東北地方では特に補足する事項はない。

(3) 関東・中部地方

ー G N S S 観測によると、2022 年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されている。これは、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのフィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。すべりの中心は渥美半島周辺から浜名湖の東側に移動している。

(4) 近畿・中国・四国地方

ー 2025 年 2 月から、山口県北部の地殻下部の深さ 25 km から 35 km 程度でまとまった微小地震活動が継続している。これら一連の微小地震活動に伴って、わずかな地殻変動が観測されている。また、2025 年半ば頃から、山口県北部の地殻内の深さ 5 km 程度から 20 km 程度でまとまった微小地震活動が継続している。

ー 四国西部で 7 月 29 日から 8 月 11 日にかけて、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で深部低周波地震（微動）を観測している。ひずみ及び傾斜データによると、その周辺では深部低周波地震（微動）とほぼ同期してわずかな地殻変動を観測している。これらは、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における短期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。

(5) 九州・沖縄地方

九州・沖縄地方では特に補足する事項はない。

(6) 南海トラフ周辺

ー「南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。」：

（なお、これは、9 月 7 日に開催された定例の南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会における見解（参考参照）と同様である。）

（参考）南海トラフ地震関連解説情報についてー最近の南海トラフ周辺の地殻活動ー（令和 8 年 9 月 7 日気象庁地震火山部）

「現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（M8 から M9 クラス）は、「平常時」においても今後 30 年以内に発生する確率が高い（詳細は「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）」参照）と評価されており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約 80 年が経過していることから切迫性の高い状態です。

1. 地震の観測状況

（顕著な地震活動に関する現象）

8 月 2 日 0 4 時 1 0 分に日向灘の深さ 21 km を震源とする M5.3 の地震が発生しました。この地震は、発震機構が東西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部で発生しました。

（ゆっくりすべりに関係する現象）

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震（微動）のうち、主なものは以下のとおりです。

- (1) 四国西部：7月29日から8月11日
 - (2) 紀伊半島西部：8月8日から8月13日
 - (3) 四国東部：8月9日から8月15日
 - (4) 四国東部：8月21日から継続中
 - (5) 紀伊半島中部：8月24日から8月27日
- これらとは別にプレート境界付近で浅部超低周波地震を観測しています。
- (6) 日向灘及びその周辺域：8月中旬

2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)から(5)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しています。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られています。

GNSS観測によると、2022年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。

(長期的な地殻変動)

GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

3. 地殻活動の評価

(顕著な地震活動に关系する現象)

8月2日に発生した日向灘の地震は、フィリピン海プレート内部で発生した地震で、その規模から南海トラフ沿いのプレート間の固着状態の特段の変化を示すものではないと考えられます。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)から(5)の深部低周波地震(微動)と地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

2022年初頭からの静岡県西部から愛知県東部にかけての地殻変動は、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。この長期的ゆっくりすべりは、すべりの中心が渥美半島周辺から、浜名湖の東側に移動しています。

これらの深部低周波地震(微動)、短期的ゆっくりすべり、及び長期的ゆっくりすべりは、それぞれ、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

上記(6)の浅部超低周波地震は従来からも観測されてきた現象で、これまでの観測結果や研究成果から想定震源域のプレート境界浅部において発生したゆっくりすべりに起因する可能性があります。この現象の発生頻度・規模等発生様式については今後も観測・研究が必要です。

(長期的な地殻変動)

御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺で見られる長期的な沈降傾向はフィリピン海プレートの沈み込みに伴うもので、その傾向に大きな変化はありません。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。」

参考1 「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安

① M6.0以上または最大震度が4以上のもの。②内陸M4.5以上かつ最大震度が3以上のもの。

③海域 M5.0 以上かつ最大震度が 3 以上のもの。

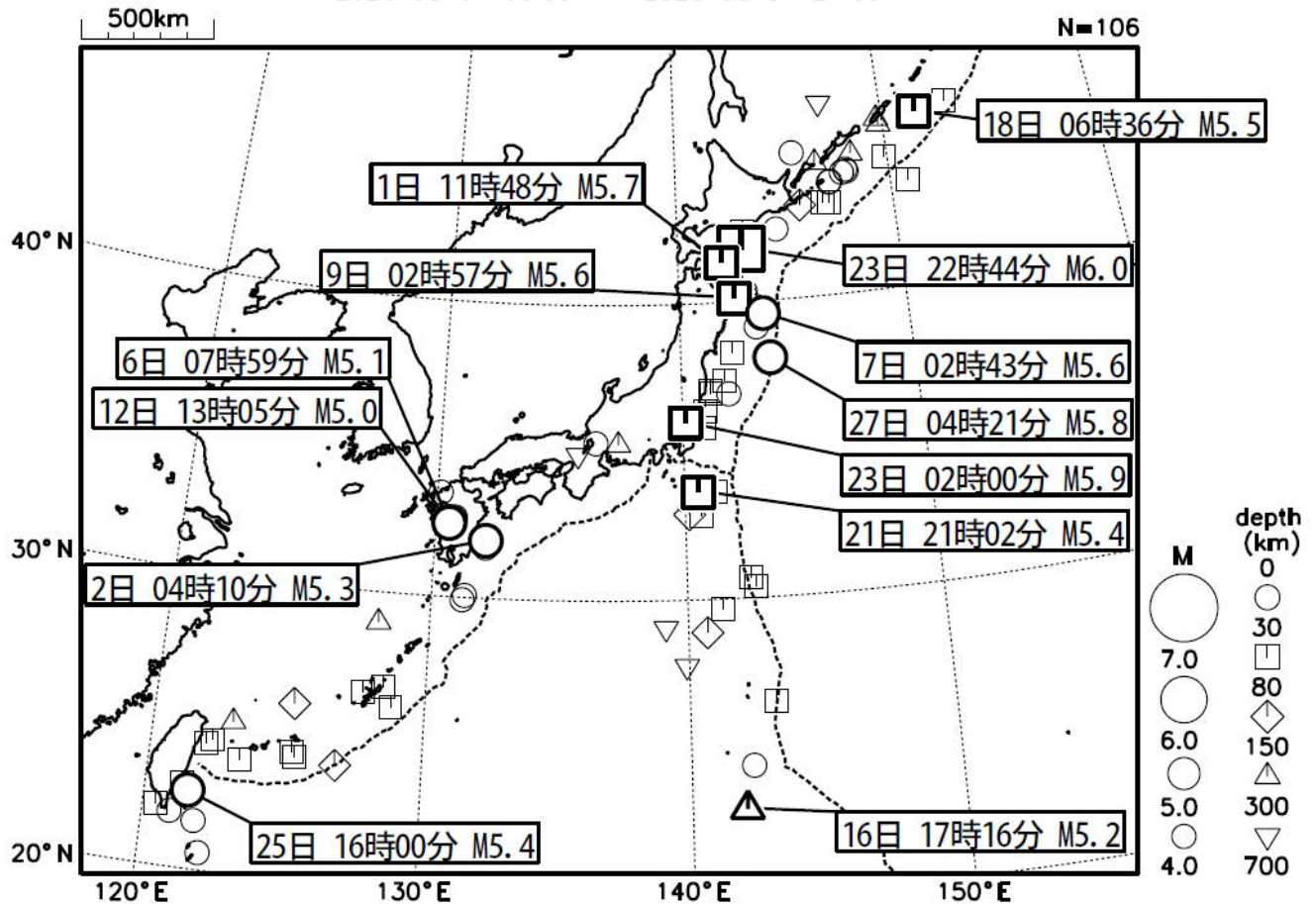
参考 2 「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安

- 1 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
- 2 「主な地震活動」として記述された地震活動（一年程度以内）に関連する活動。
- 3 評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。
- 4 一連で M6.0 以上が推定されたゆっくりすべりとそれに伴って発生した低周波地震(微動)。

2026 年 8 月の地震活動の評価に関する資料

2026 年 8 月の全国の地震活動 (マグニチュード 4.0 以上)

2026 08 01 00:00 -- 2026 08 31 24:00



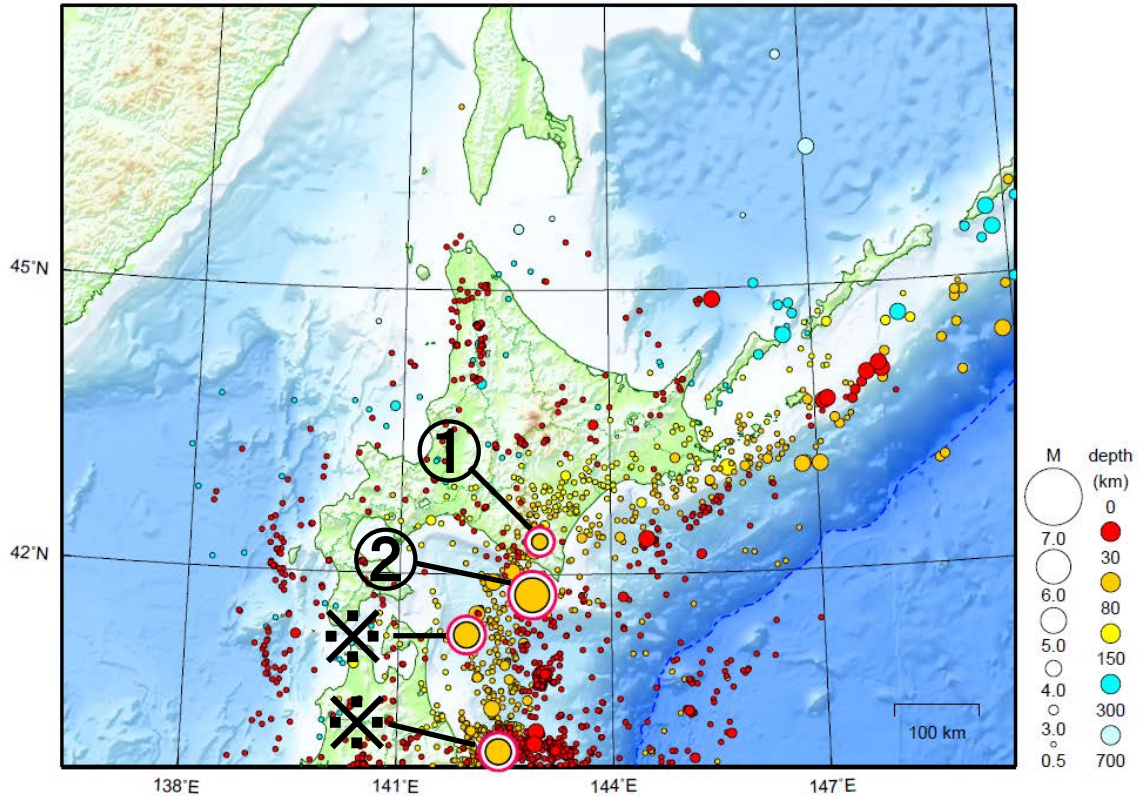
- ・ 8 月 1 日 21 時 47 分に熊本県熊本地方で M4.7 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。
- ・ 8 月 23 日 02 時 00 分に茨城県南部で M5.9 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。
- ・ 8 月 23 日 22 時 44 分に浦河沖で M6.0 の地震（最大震度 4）が発生した。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。
また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。]

北海道地方

2026/08/01 00:00 ~ 2026/08/31 24:00

N=2741



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

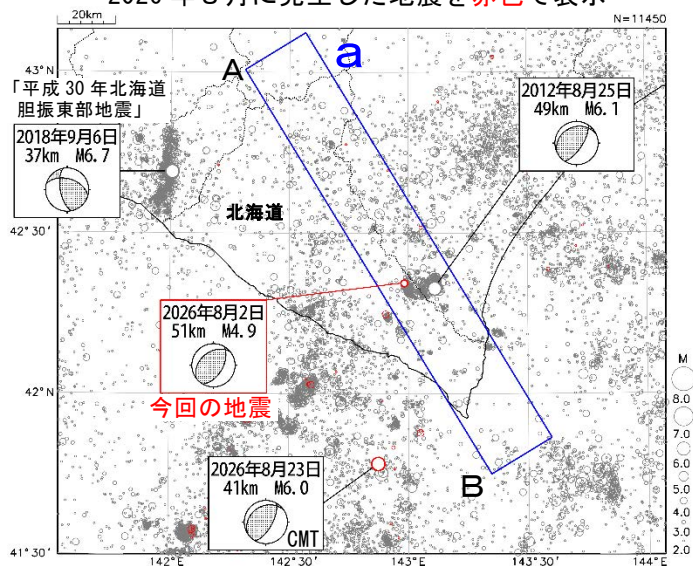
- ① 8月2日に日高地方東部で M4.9 の地震(最大震度3)が発生した。
- ② 8月23日に浦河沖で M6.0 の地震(最大震度4)が発生した。

※で示した地震については東北地方の資料を参照。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

8月2日 日高地方東部の地震

震央分布図
(2001年10月1日～2026年8月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 2.0$)
2026年8月に発生した地震を赤色で表示

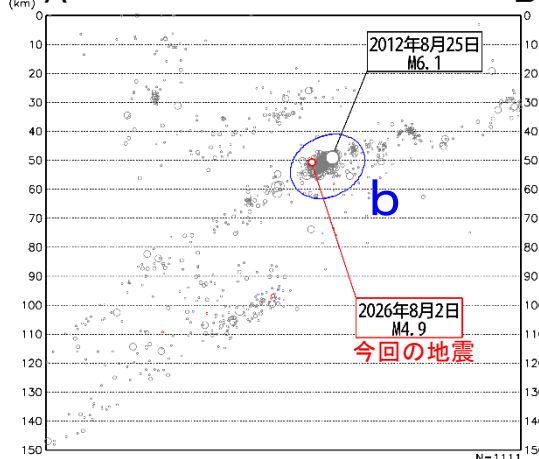


2026年8月2日23時49分に日高地方東部の深さ51kmで $M4.9$ の地震 (最大震度3) が発生した。この地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

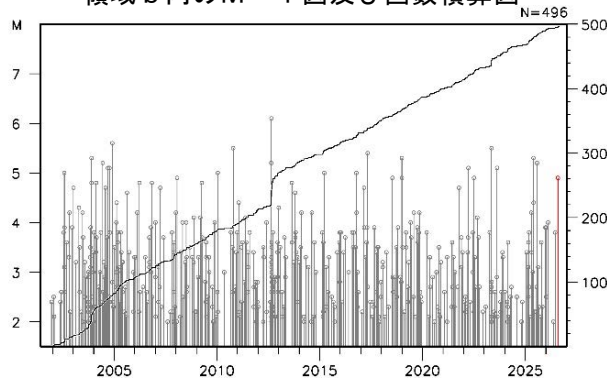
2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、 $M5.0$ 以上の地震がしばしば発生しており、2012年8月25日には $M6.1$ の地震 (最大震度5弱) が発生した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、 $M6.0$ 以上の地震が2回発生しており、1970年1月21日に発生した $M6.7$ の地震 (最大震度5) により、負傷者32人、住家被害148棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

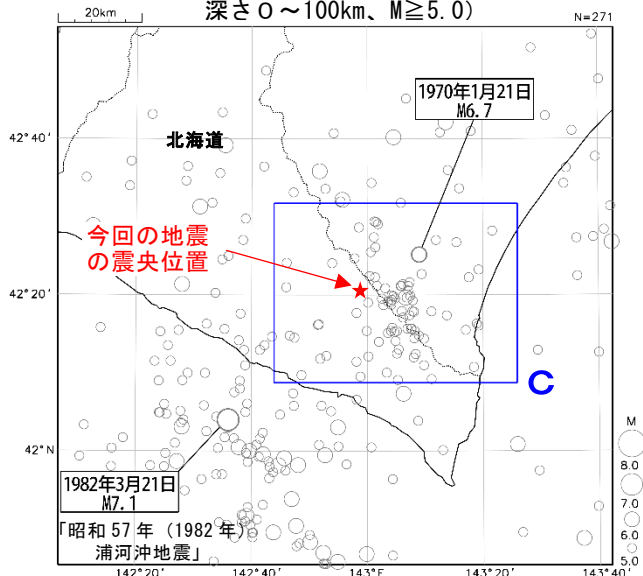
A 領域a内の断面図 (A-B投影) B



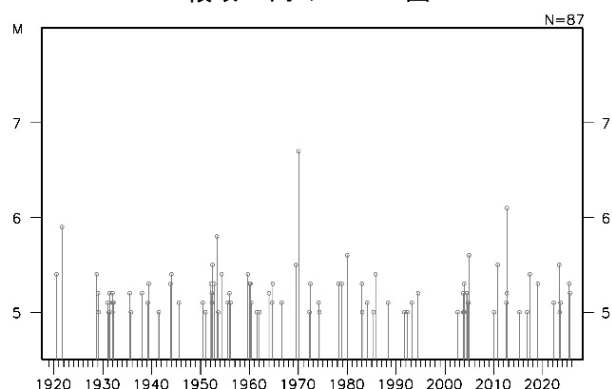
領域b内のM-T図及び回数積算図



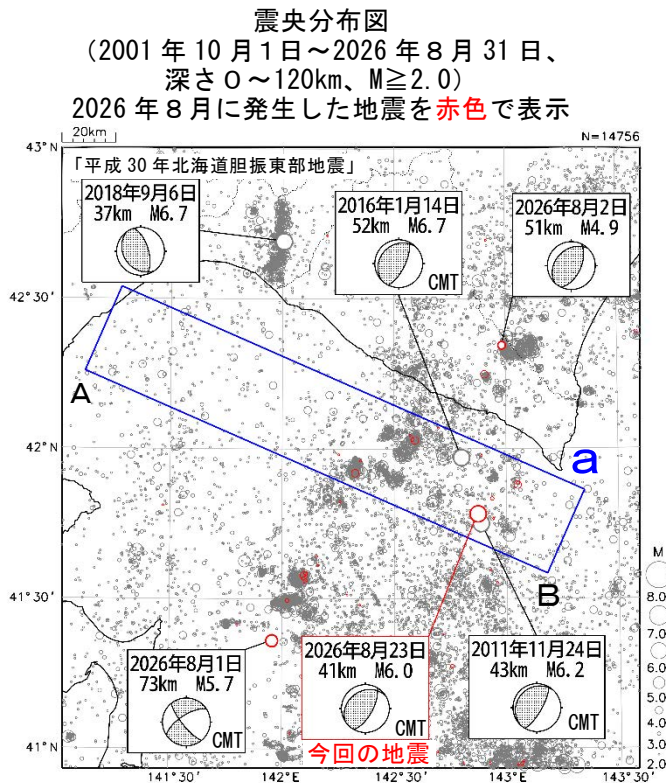
震央分布図
(1919年1月1日～2026年8月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



領域c内のM-T図



8月23日 浦河沖の地震

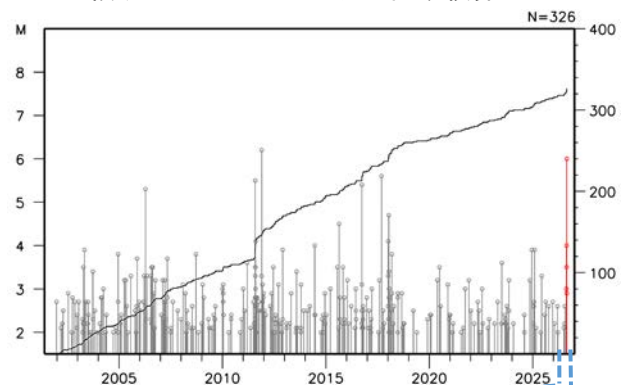
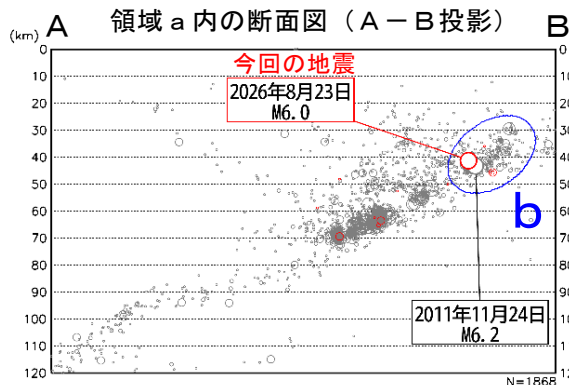


2026年8月23日22時44分に浦河沖の深さ41kmで $M 6.0$ の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

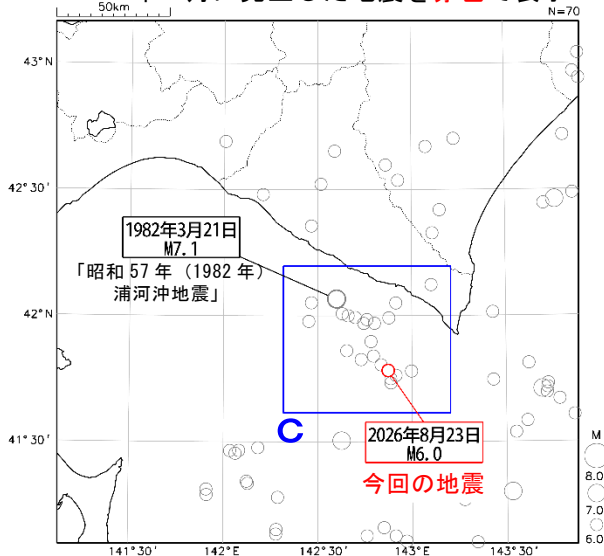
2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、 $M 5.0$ 以上の地震が時々発生しており、2011年11月24日には $M 6.2$ の地震（最大震度5弱）が発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、 $M 6.0$ 以上の地震がしばしば発生している。「昭和57年（1982年）浦河沖地震」（ $M 7.1$ 、最大震度6）では、北海道浦河で78cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波など、北海道と東北地方の太平洋沿岸で津波を観測した（「験震時報第47巻」による）。また、負傷者167人、建物被害210棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

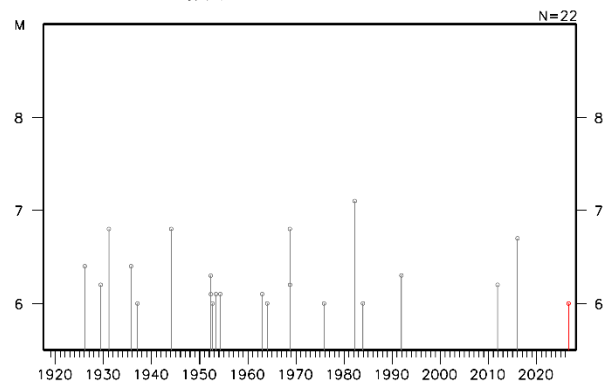
領域b内のM－T図及び回数積算図



震央分布図
(1919年1月1日～2026年8月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 6.0$)
2026年8月に発生した地震を赤色で表示

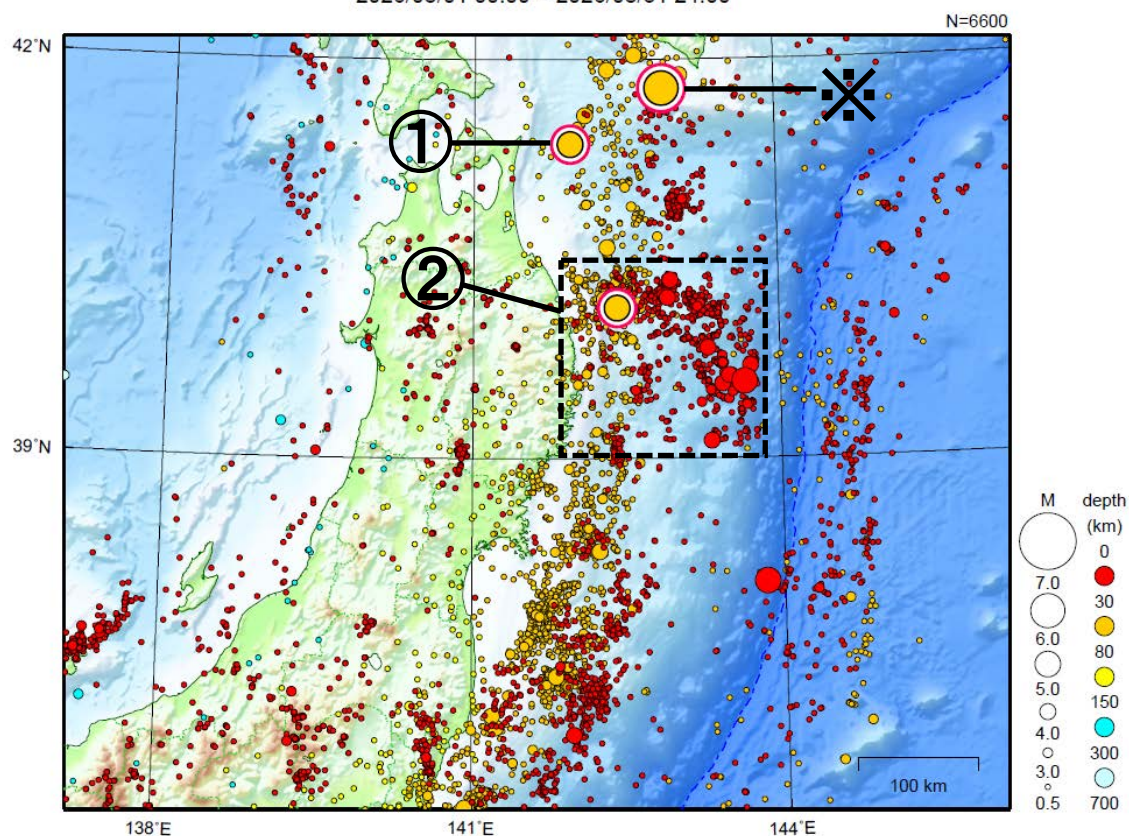


領域c内のM－T図



東北地方

2026/08/01 00:00 ~ 2026/08/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 8月1日に青森県東方沖で M5.7 の地震(最大震度 4)が発生した。
- ② 8月9日に岩手県沖で M5.6 の地震(最大震度 4)が発生した。2025 年 11 月以降の三陸沖から岩手県沖にかけての地震活動域では、8 月中に震度 1 以上を観測した地震が 17 回 (震度 4 : 1 回、震度 2 : 2 回、震度 1 : 14 回) 発生した。

※で示した地震については北海道地方の資料を参照。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

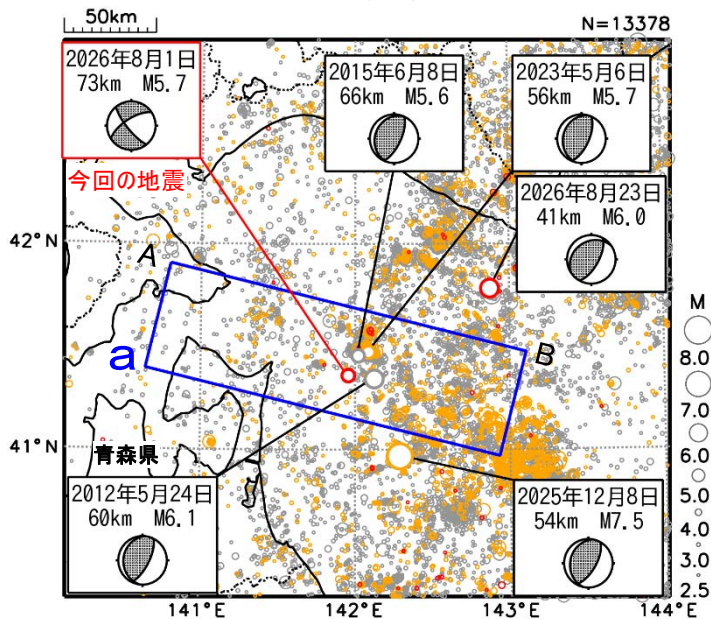
8月1日 青森県東方沖の地震

震央分布図

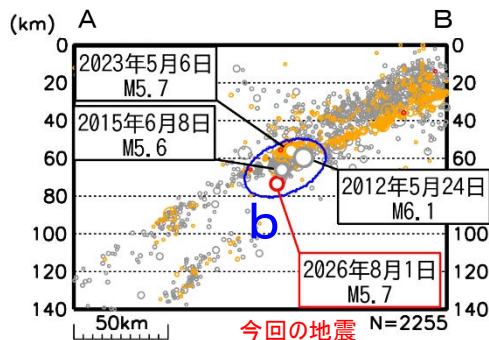
(1997年10月1日～2026年8月31日、深さ0～140km、 $M \geq 2.5$)

○1997年10月1日～2020年8月31日 ○2020年9月1日～2026年7月31日

●2026年8月1日以降 図中の発震機構はCMT解を示す



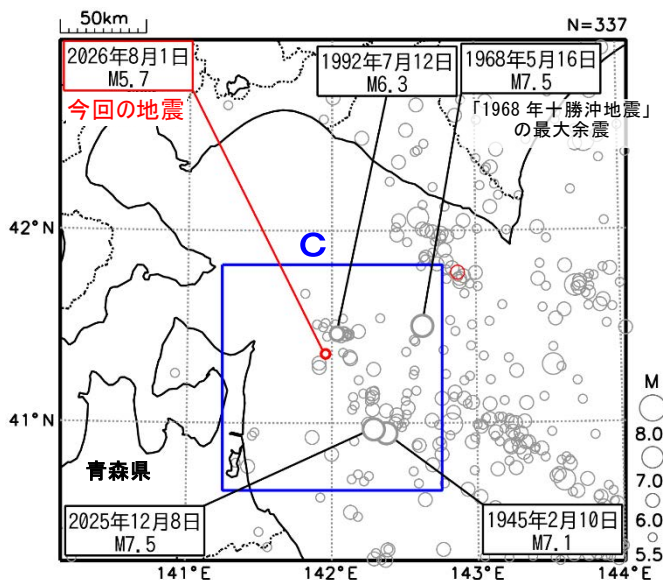
領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1919年1月1日～2026年8月31日、深さ0～100km、 $M \geq 5.5$)

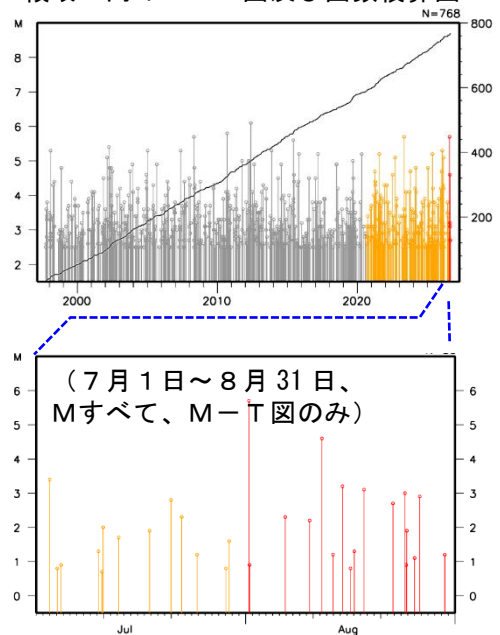
○1919年1月1日～2026年7月31日 ●2026年8月1日以降



2026年8月1日11時48分に青森県東方沖の深さ73kmで $M5.7$ の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構 (CMT解) は、東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

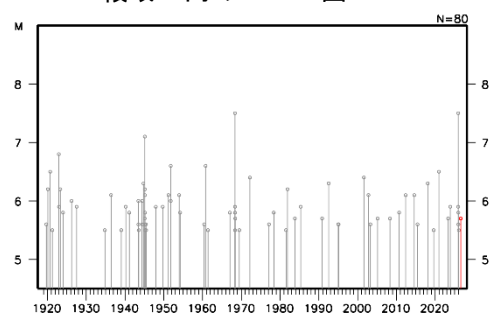
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域b) では $M5$ を超える地震がしばしば発生している。2012年5月24日には $M6.1$ の地震 (最大震度5強) が発生し、施設のガラス破損等の被害が生じた (被害は総務省消防庁による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図



1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では2025年12月8日に $M7.5$ の地震が発生するなど、 $M7$ を超える地震が時々発生している。1945年2月10日には $M7.1$ の地震 (最大震度5) で死者2人、家屋倒壊2棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域c内のM-T図



8月9日 岩手県沖の地震

(2025年11月以降の三陸沖から岩手県沖にかけての地震活動)

2026年8月9日02時57分に岩手県沖の深さ40kmでM5.6の地震(最大震度4)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

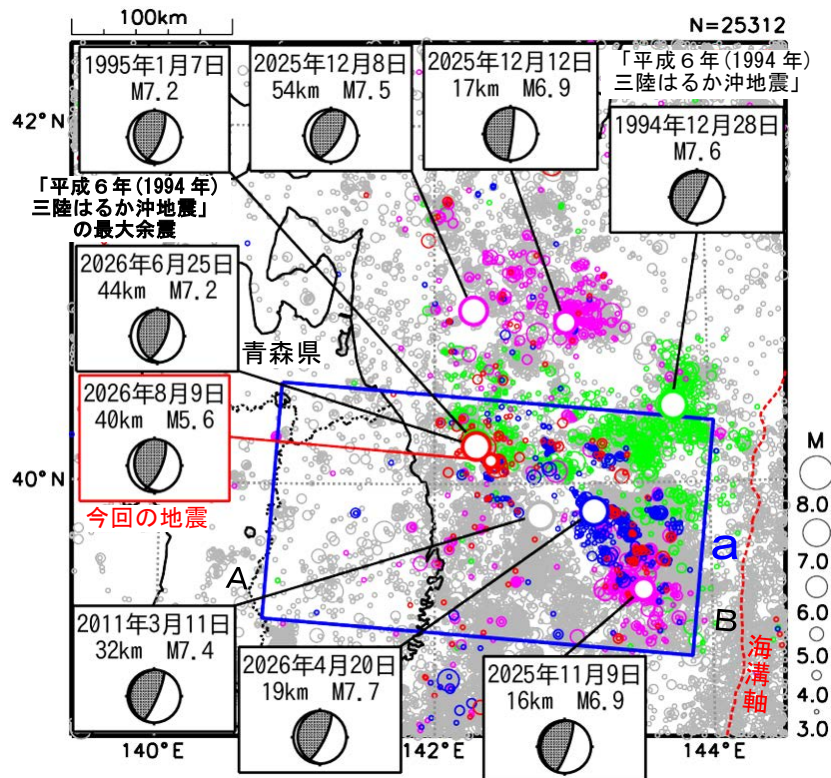
2020年9月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域b)では、2025年11月4日からまとまった地震活動が見られるようになり、11月9日にM6.9の地震(最大震度4)が発生した。その後、この地震の北西側で2026年4月20日にM7.7の地震(最大震度5強)が発生すると、地震活動はさらに活発となった。2026年6月25日にはM7.2の地震(最大震度6強)が発生し、その近傍で今回の地震が発生した。

1994年12月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近では、1995年1月7日にM7.2の地震(最大震度5、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の最大余震)が発生している。

震央分布図

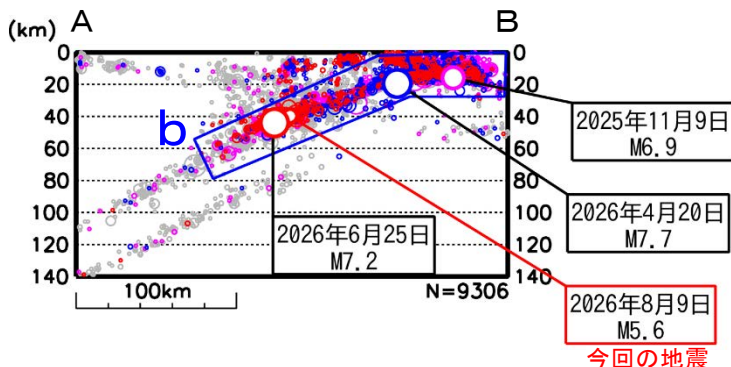
(1994年12月1日～2026年8月31日、深さ0～140km、M≥3.0)

- 1994年12月1日～1995年1月31日
 - 1995年2月1日～2025年10月31日
 - 2025年11月1日～2026年4月19日
 - 2026年4月20日～2026年6月24日
 - 2026年6月25日以降
- 図中の発震機構はCMT解を示す

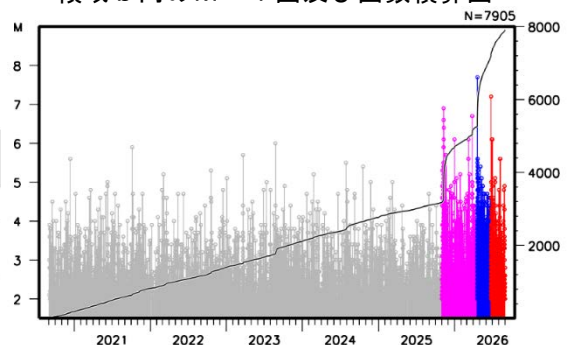


領域a内の断面図 (A-B投影)

(2020年9月1日～2026年8月31日、M≥2.0)



領域b内のM-T図及び回数積算図



2025年11月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、2026年4月20日に発生したM7.7の地震以降、地震活動域が北西側に広がり、6月25日のM7.2の地震や7月1日のM6.1の地震、今回のM5.6の地震が発生するなど、地震活動は活発な状態が続いている。

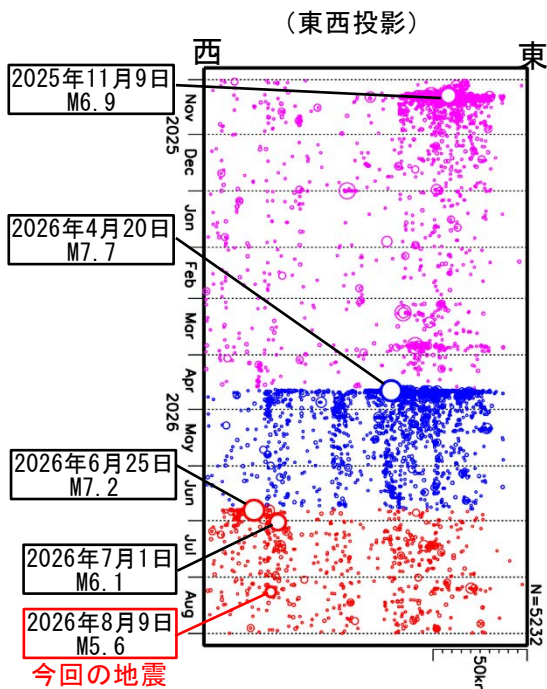
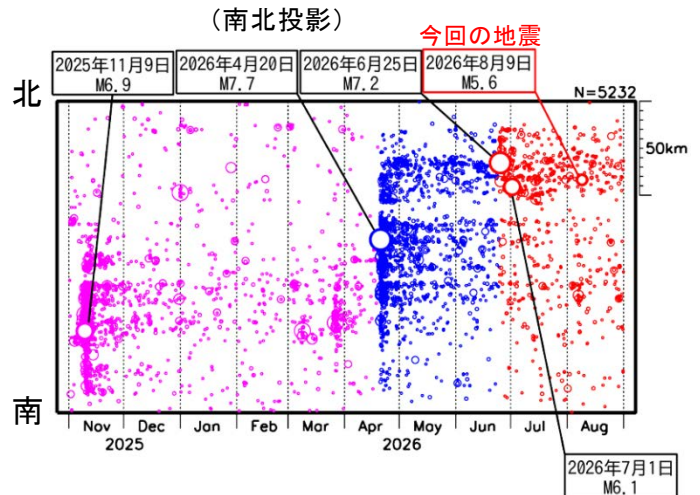
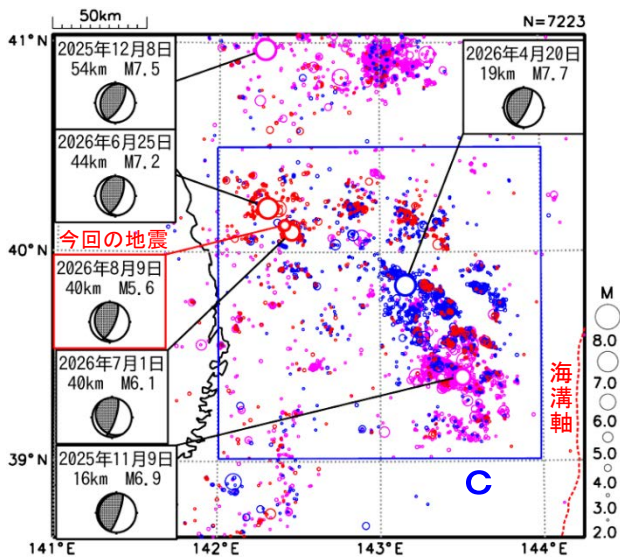
領域cでは、2026年8月1日から31日までに震度1以上を観測する地震が17回（震度4：1回、震度3：0回、震度2：2回、震度1：14回）発生するなど、引き続き地震活動が活発である。

震央分布図及び領域c内の時空間分布図

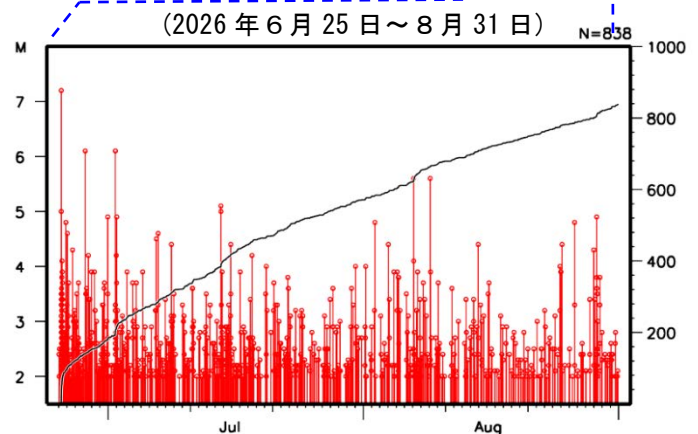
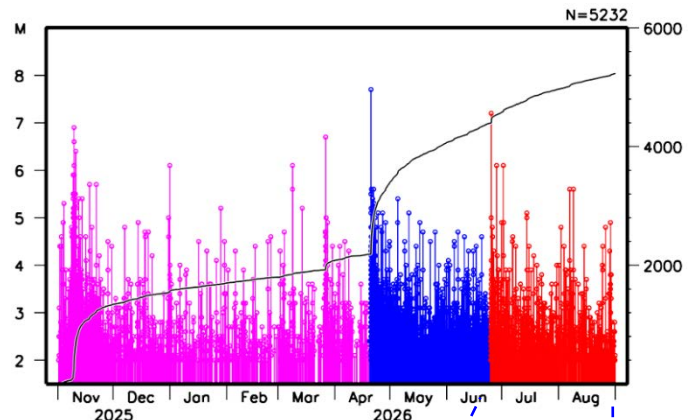
（2025年11月1日～2026年8月31日、

深さ0～80km、M≥2.0）

● 2025年11月1日～2026年4月19日 ● 2026年4月20日～2026年6月24日
● 2026年6月25日以降 図中の発震機構はCMT解を示す

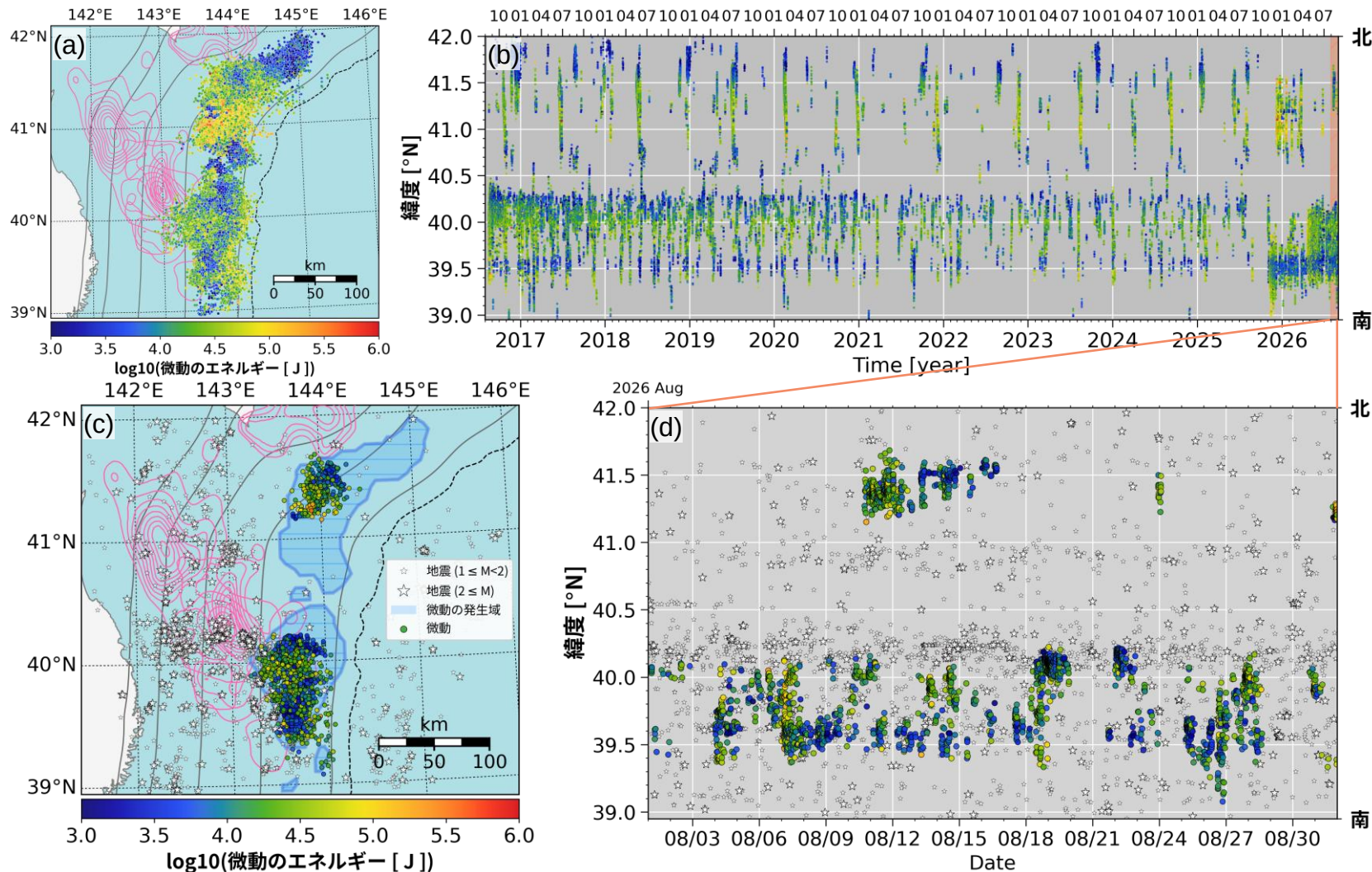


領域c内のM-T図及び回数積算図



2026年8月の日本海溝北部における微動活動

- 三陸沖で活発な微動活動を観測
- 青森沖で微動活動を観測



(a-b) 2016/08/15 から 2026/08/31までの微動分布
 (c-d) 2026/08/01 から 2026/08/31までの微動分布
 ※ Sagae et al. (2025) の手法で解析した

謝辞: 2026/08/01–2026/08/31 までの気象庁一元化震源カタログを使用しました。防災科学技術研究所S-netの地震波形データ、F-net Project による広帯域地震波形を用いたメカニズム解析結果を使用しました。文部科学省「情報科学を活用した地震活動・地震動評価技術の高度化事業」(JPJ013735)の助成を受けたものです。記して感謝申し上げます。

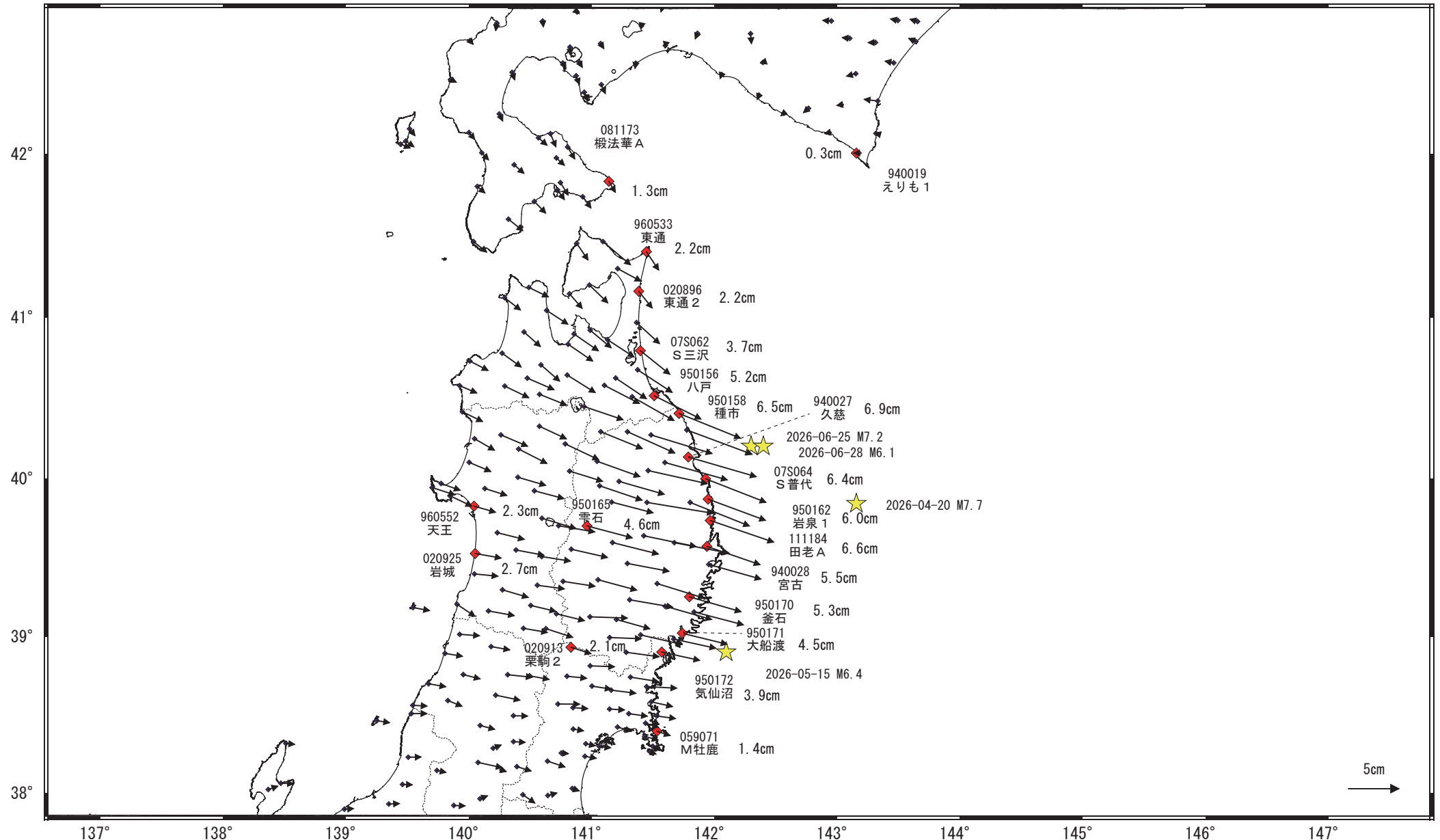
三陸沖の地震(4月20日 M7.7)後の観測データ(暫定)

この地震に伴い余効変動が観測されている。

地殻変動(水平)

基準期間: 2026-04-21~2026-04-21 [F5. 1: 最終解]

比較期間: 2026-08-23~2026-08-24 [R5. 1: 速報解]



★ 震央 ◆ 観測局 (グラフ表示)

☆ 固定局: 猿払 (950101) (北海道)

※5月15日の宮城県沖の地震及び6月25日の岩手県沖の地震に伴う地殻変動を含んでいる。

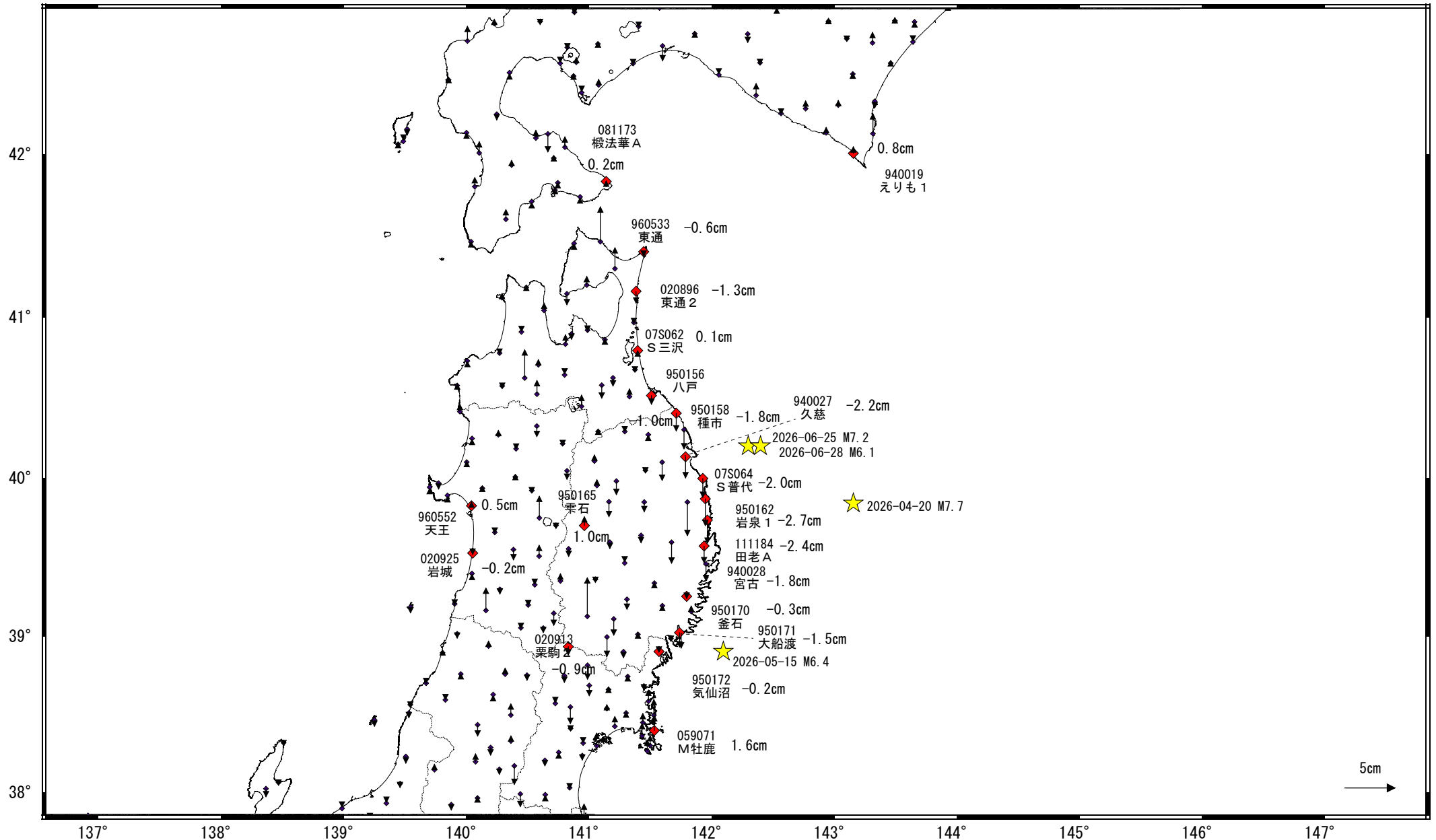
三陸沖の地震(4月20日 M7.7)後の観測データ(暫定)

この地震に伴い余効変動が観測されている。

地殻変動(上下)

基準期間:2026-04-21~2026-04-21[F5.1:最終解]

比較期間:2026-08-23~2026-08-24[R5.1:速報解]



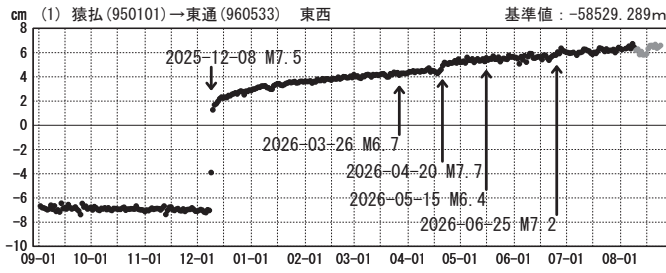
★震央 ◆観測局(グラフ表示)

☆固定局:猿払(950101)(北海道)

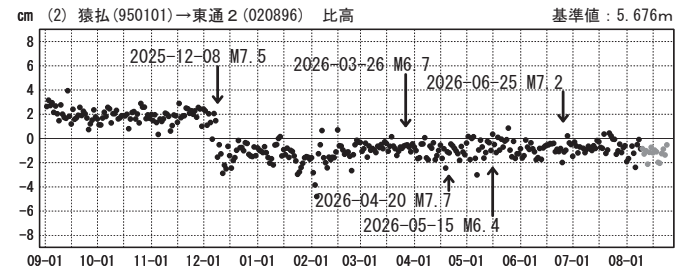
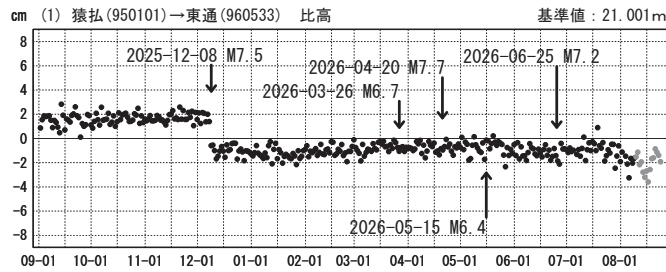
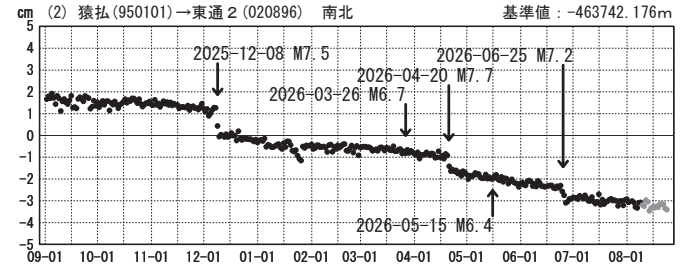
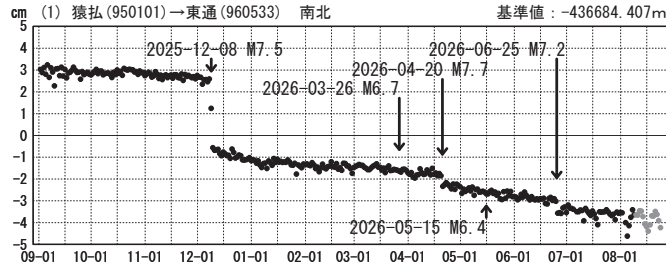
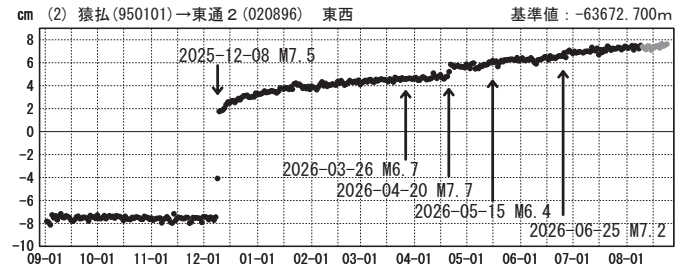
※5月15日の宮城県沖の地震及び6月25日の岩手県沖の地震に伴う地殻変動を含んでいる。

成分変化グラフ

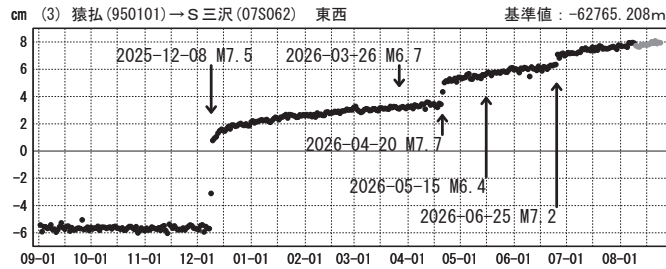
期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



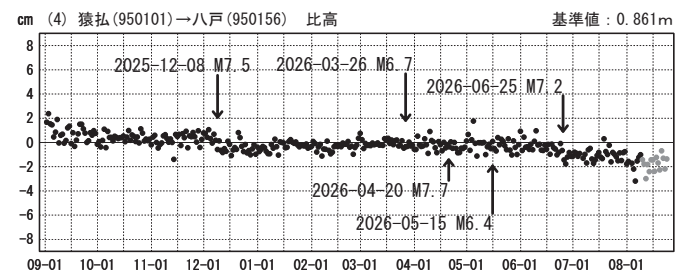
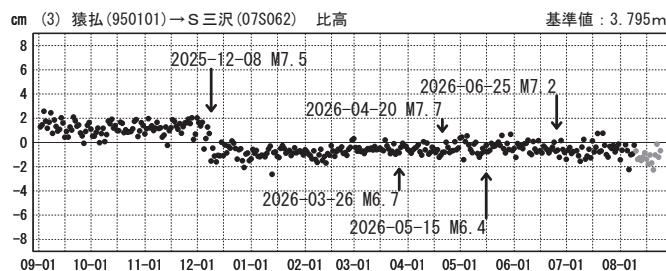
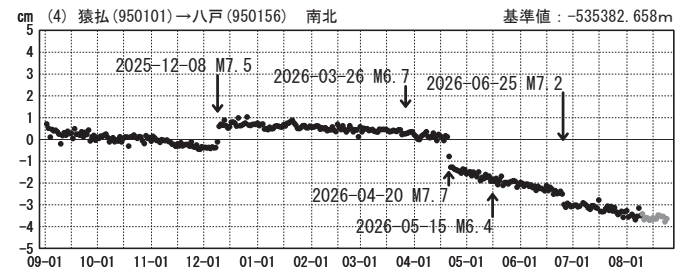
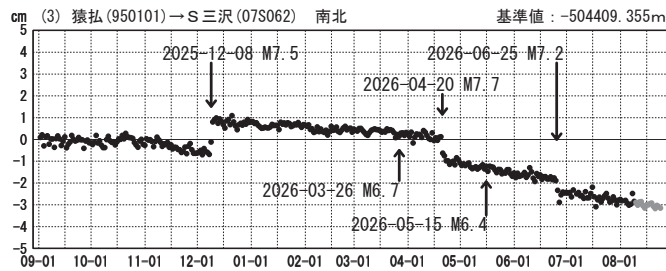
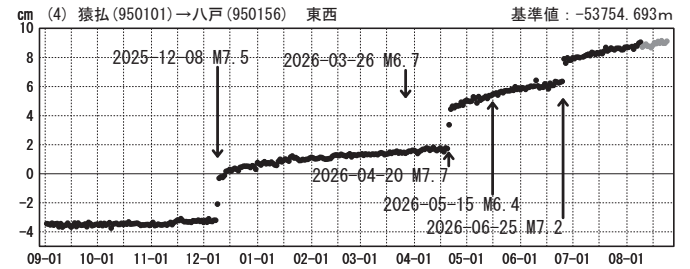
期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



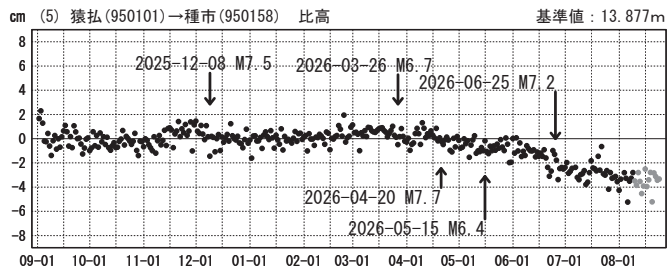
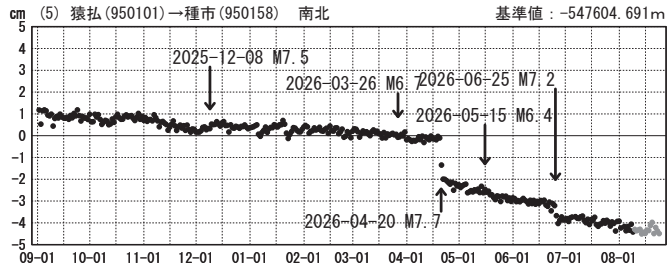
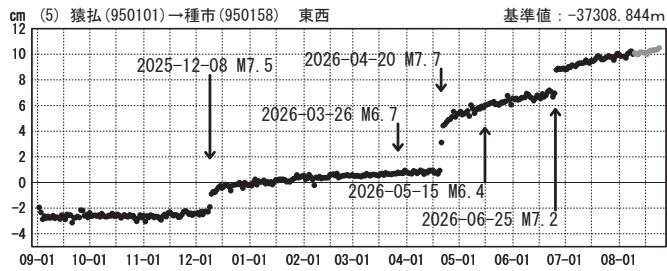
期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



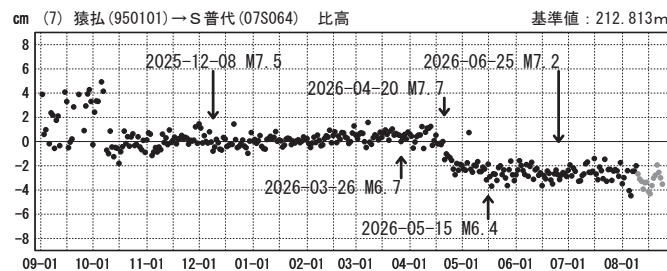
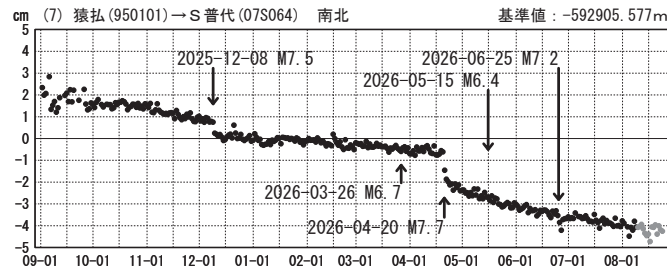
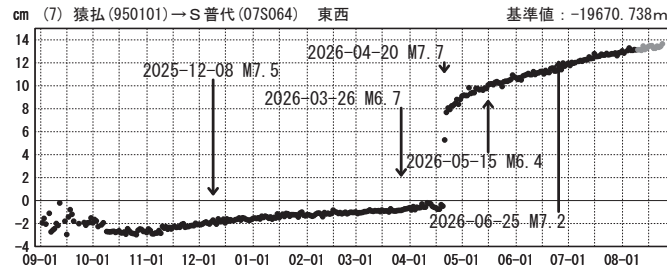
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

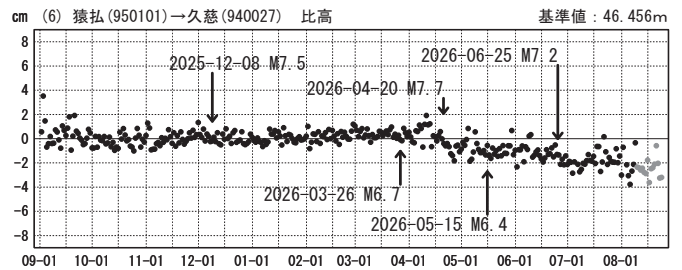
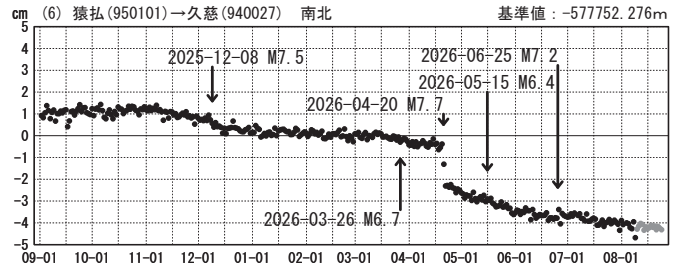
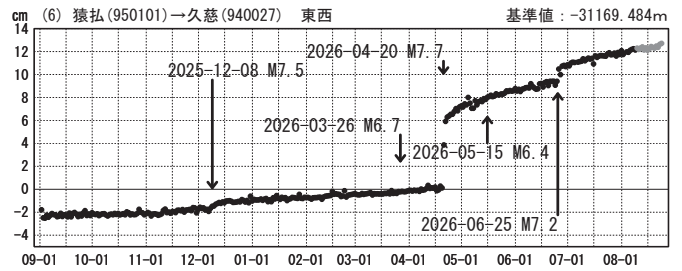
期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



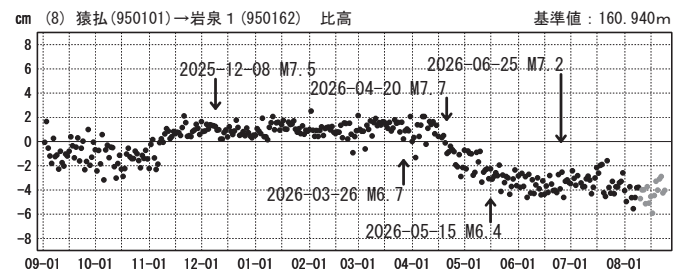
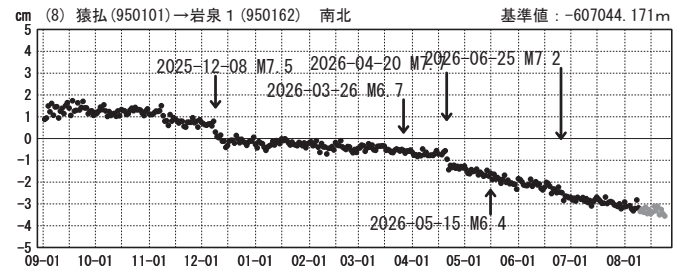
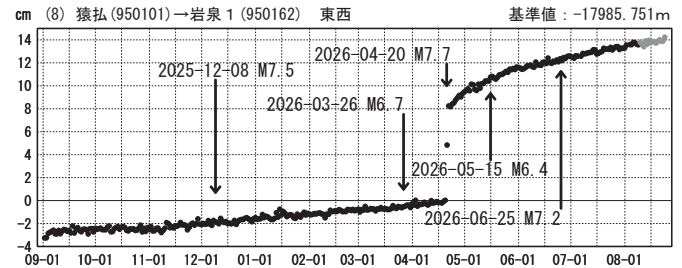
期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



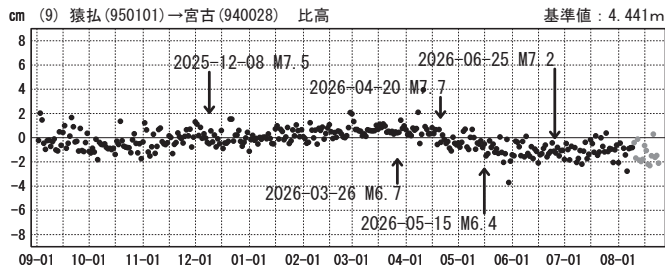
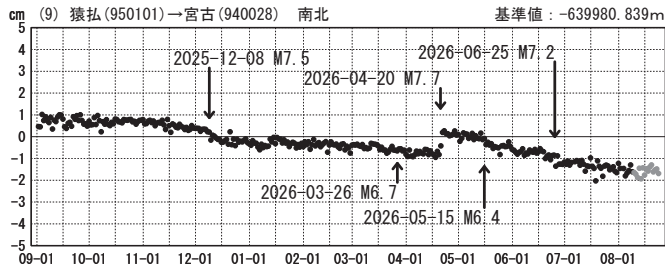
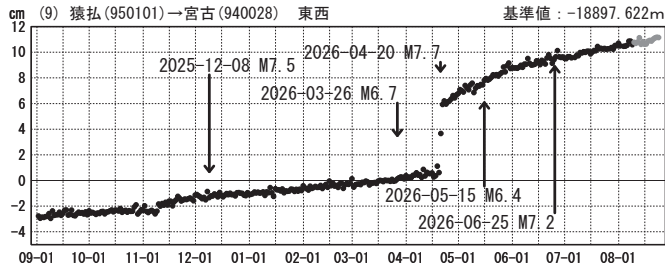
期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



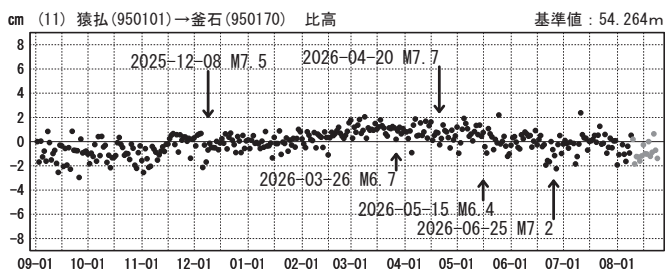
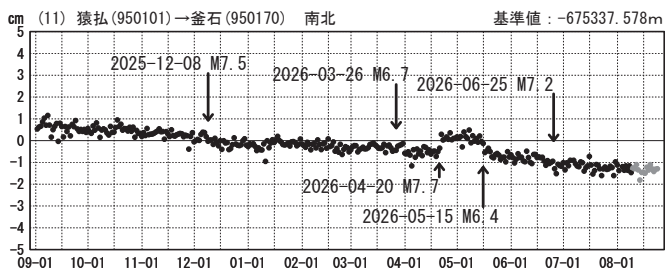
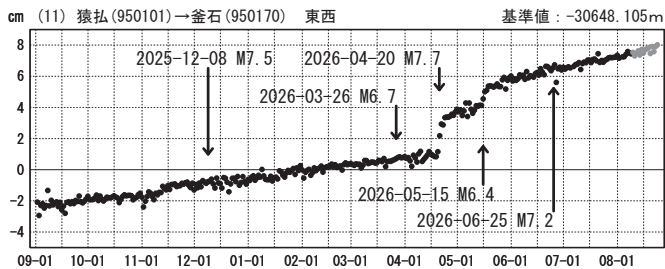
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

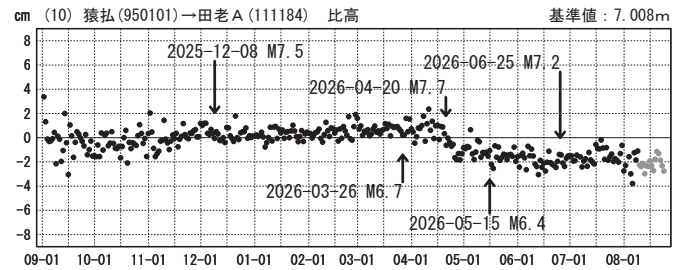
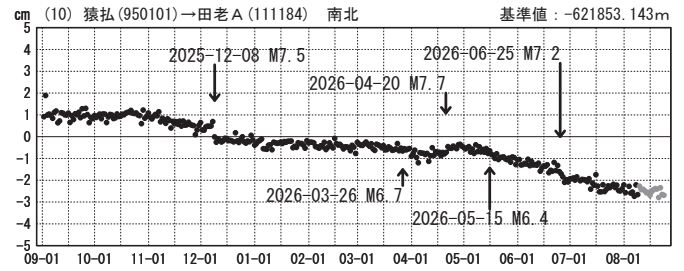
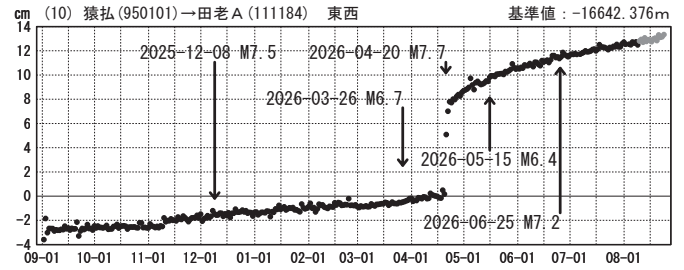
期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



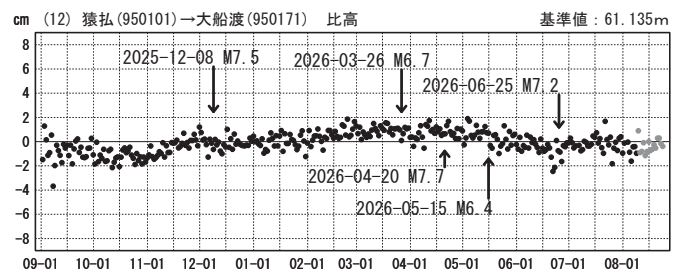
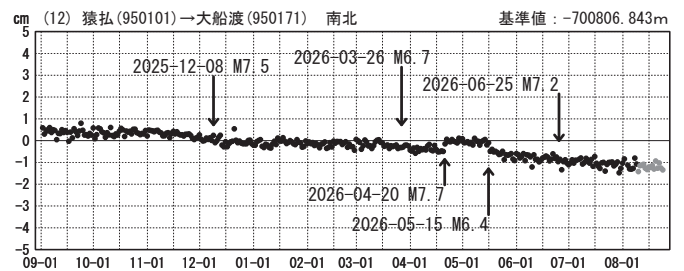
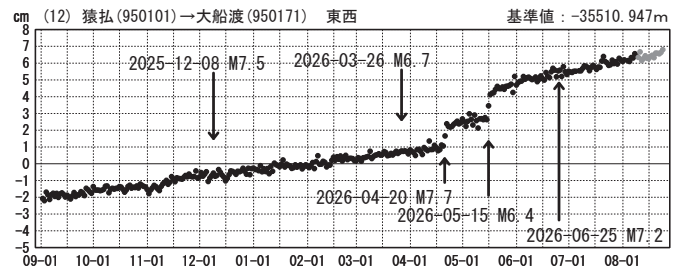
期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



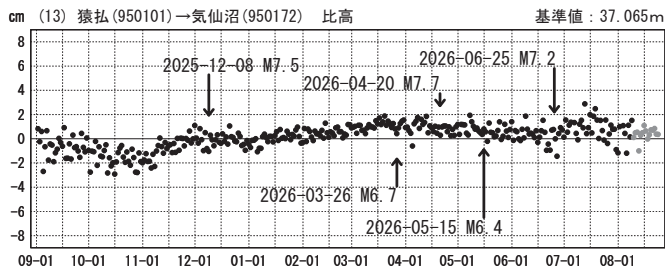
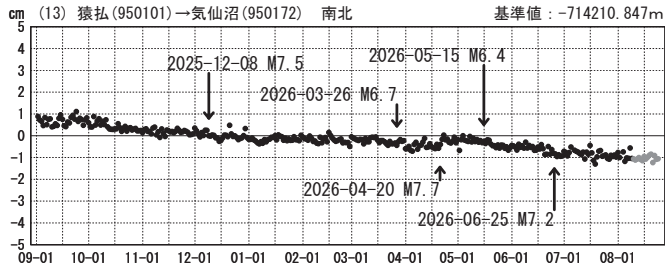
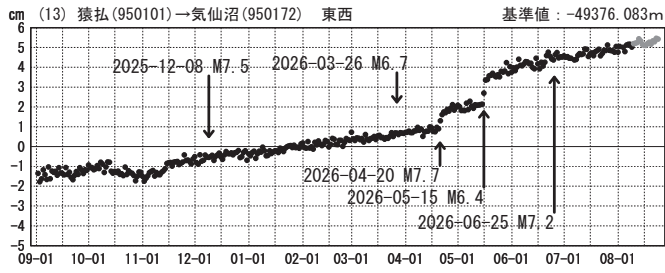
期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



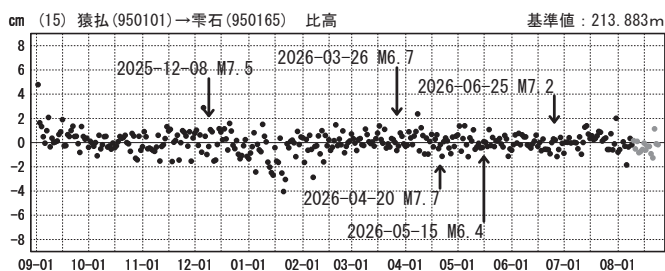
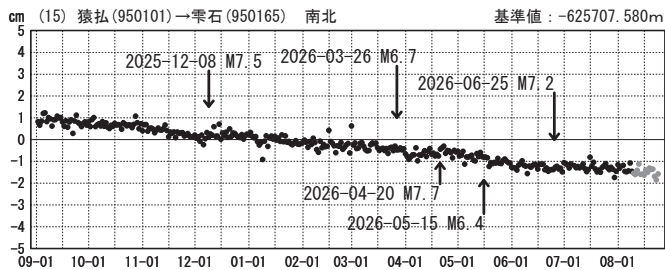
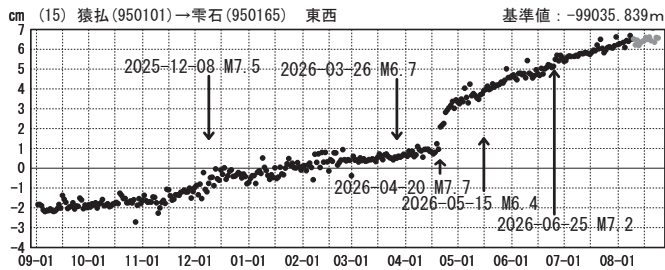
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

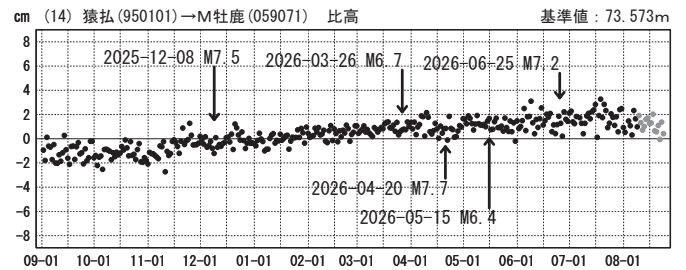
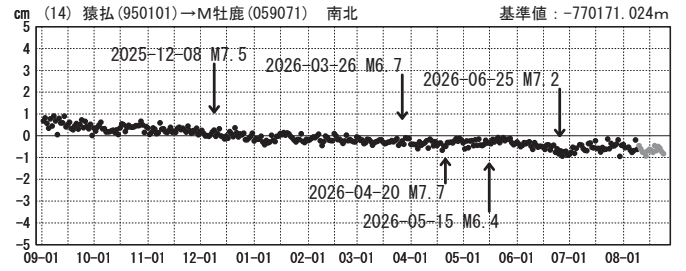
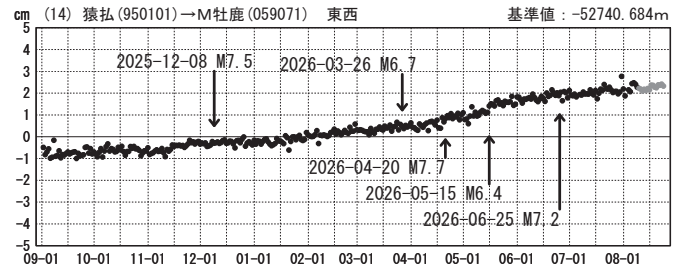
期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



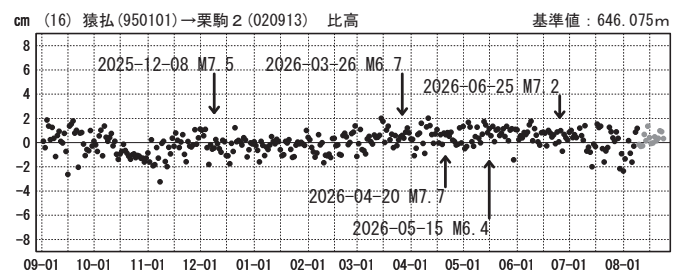
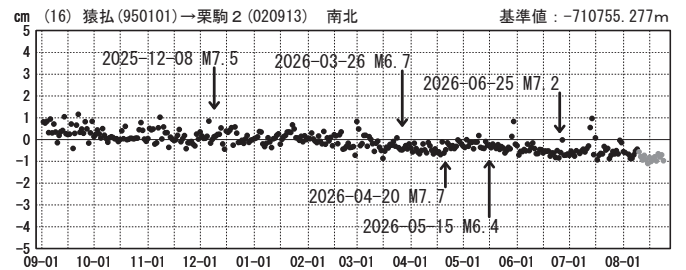
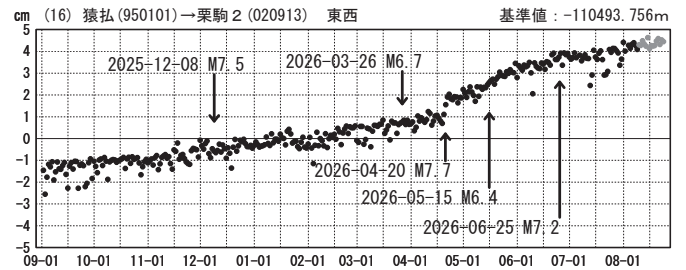
期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



期間：2025-09-01～2026-08-24 JST

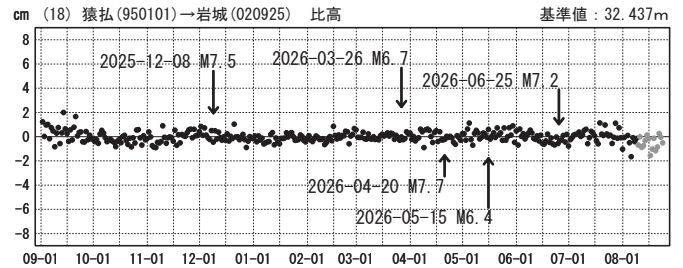
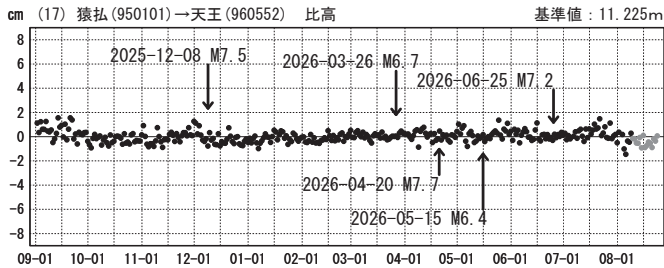
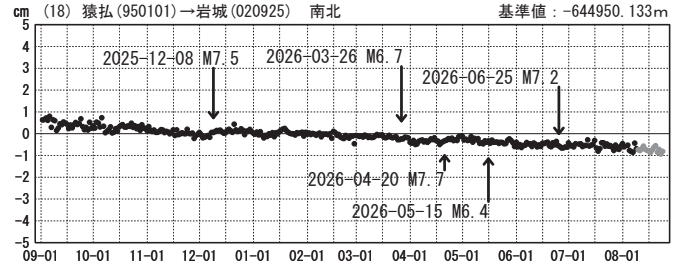
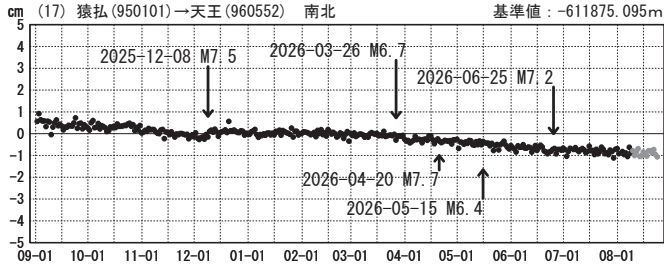
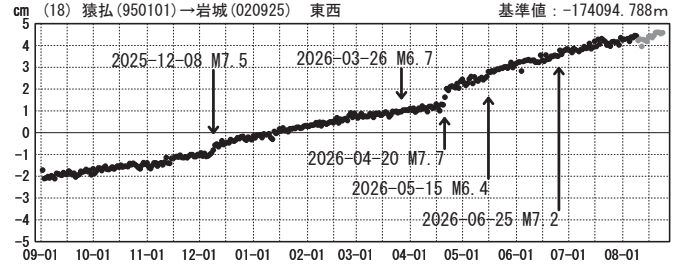
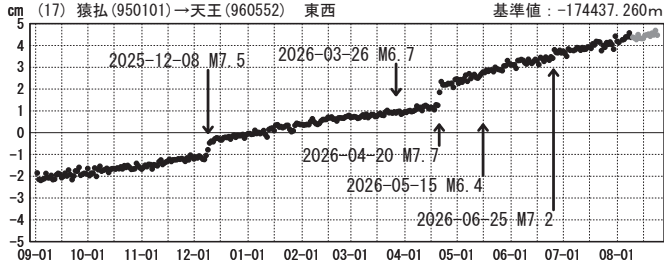


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

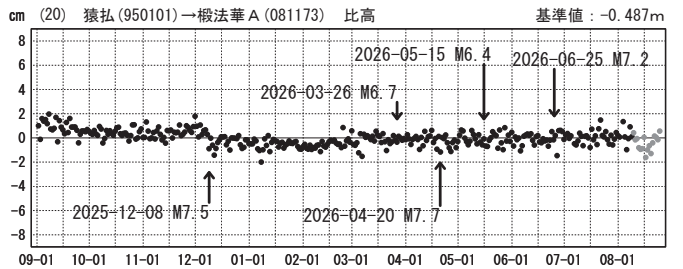
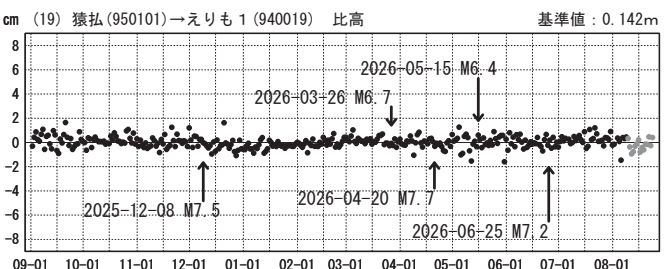
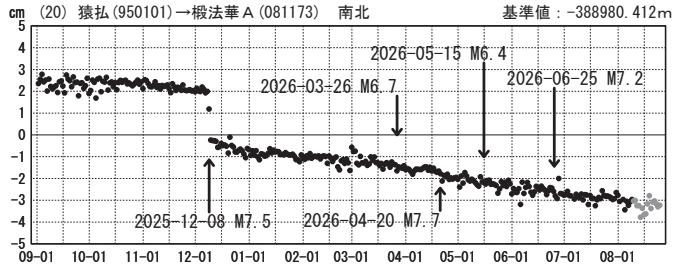
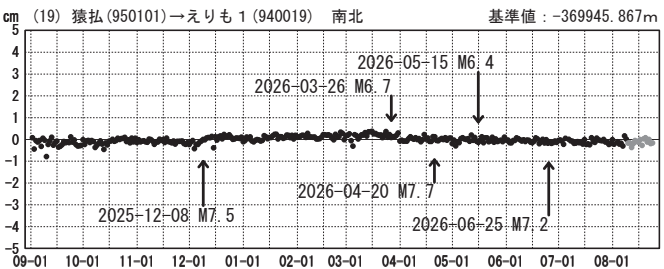
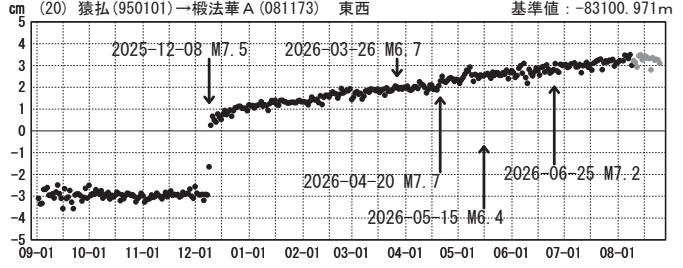
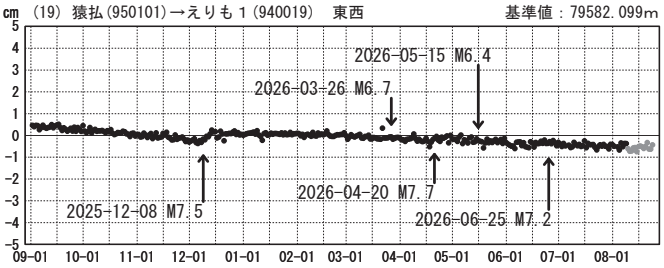
期間：2025-09-01～2026-08-24 JST

期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



期間：2025-09-01～2026-08-24 JST

期間：2025-09-01～2026-08-24 JST



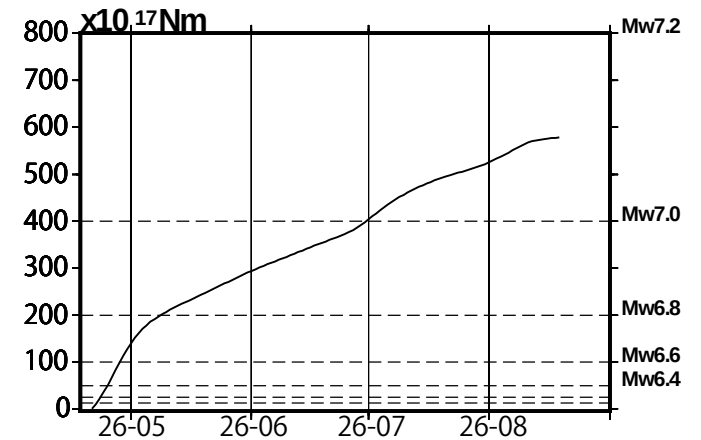
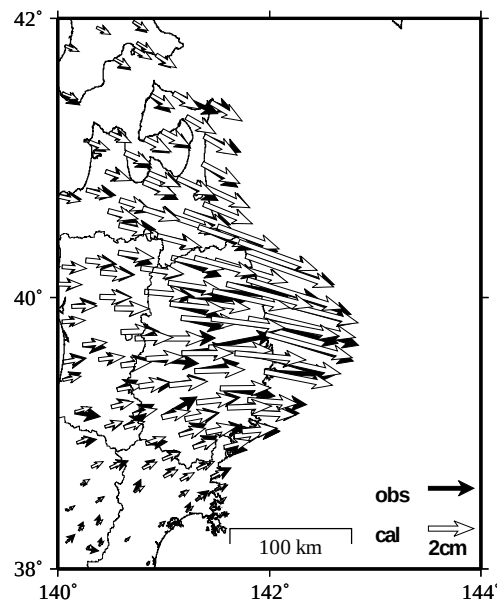
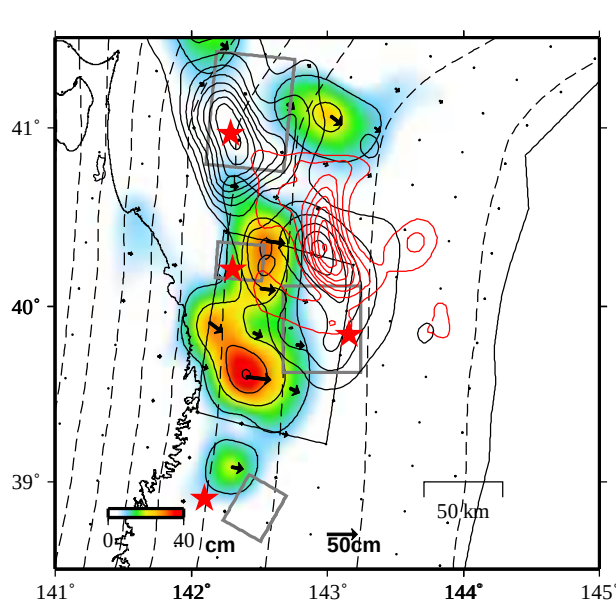
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

GNSSデータから推定された東北地方のゆっくりすべり（暫定）

推定すべり分布
(2026-04-21/2026-08-22)

観測値（黒）と計算値（白）の比較
(2026-04-21/2026-08-22)

モーメント* 時系列（試算）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載。

すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。

推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で表示している。

使用データ: GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)

F5.1解(2025-10-01/2026-07-11) R5.1解 (2026-07-12/2026-08-22)

トレンド期間: 2023-01-01/2024-12-31 (年周・半年周成分は補正なし)

モーメント計算範囲: 左図の黒枠内側

観測値: 3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線: 太平洋プレート上面の等深線(Nakajima & Hasegawa 2006; Kita et al. 2010)

すべり方向: プレートの沈み込み方向 $\pm 15^\circ$ に拘束

赤星: 2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖、2026-05-15宮城県沖、2026-06-25岩手県沖の地震の震央（気象庁一元化震源）

矩形断層（灰）: 2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖、2026-05-15宮城県沖、2026-06-25岩手県沖の地震

固定局: 猿払

* 電子基準点の保守等による変動は補正している。

* 令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。

* 以下の地震に伴う地殻変動は補正している。

2025-11-09三陸沖の地震、2025-12-08青森県東方沖の地震、2026-03-26三陸沖の地震

2026-04-20三陸沖の地震、2026-05-15宮城県沖の地震、2026-06-25岩手県沖の地震

* 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形は補正している(Suito 2017)

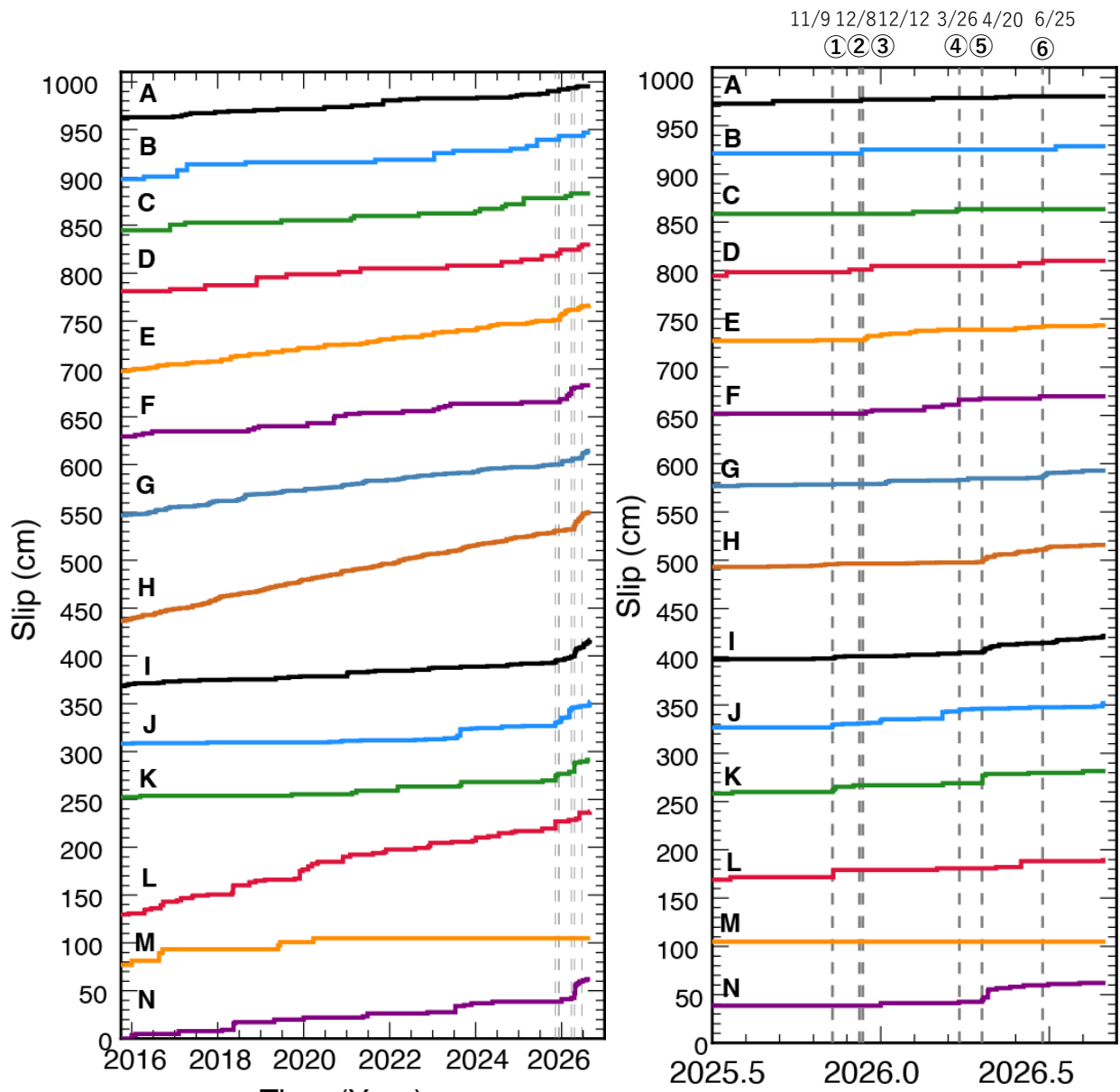
* 2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖の地震の粘弾性変形は補正している(Han et al.(2014)を参考)

* 共通誤差成分を推定している。

* モーメント: 断層運動のエネルギーの目安となる量。

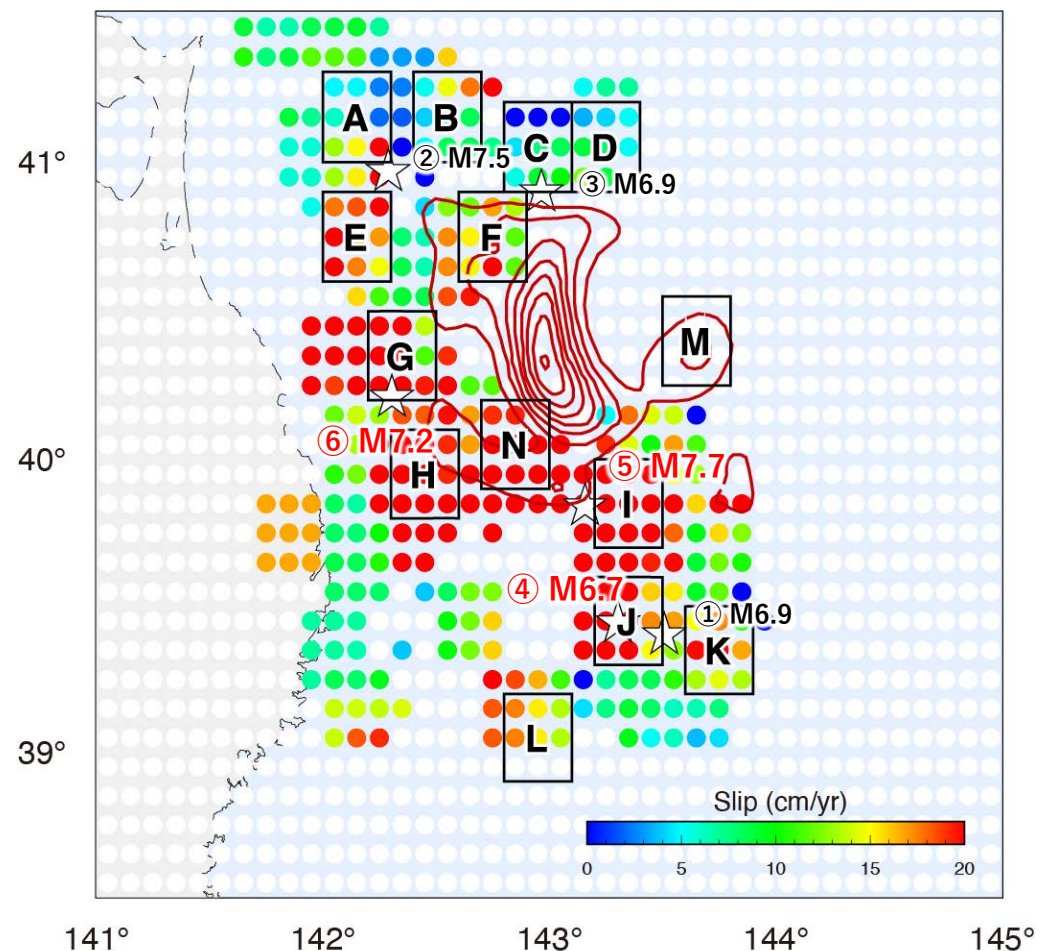
繰り返し地震から推定した非地震性すべりの推移

東京大学地震研究所
繰り返し地震カタログは気象庁作成



領域ごとの繰り返し地震の積算滑り：非地震性すべりの推移を表す

2026 1/1- 8/31 (Earthquake ④-⑥occurred)



0.3度×0.3度グリッド領域内の平均累積すべり速度を、0.1度シフトで表示
赤コンターは永井・他(2001) による1994年三陸はるか沖地震のすべり分布

繰り返し地震データ： 2015/10/26 -2026/8/31

青森県東方沖から三陸沖の地震活動域比較

震央分布図

(1994年12月28日～1995年1月31日及び2025年11月1日

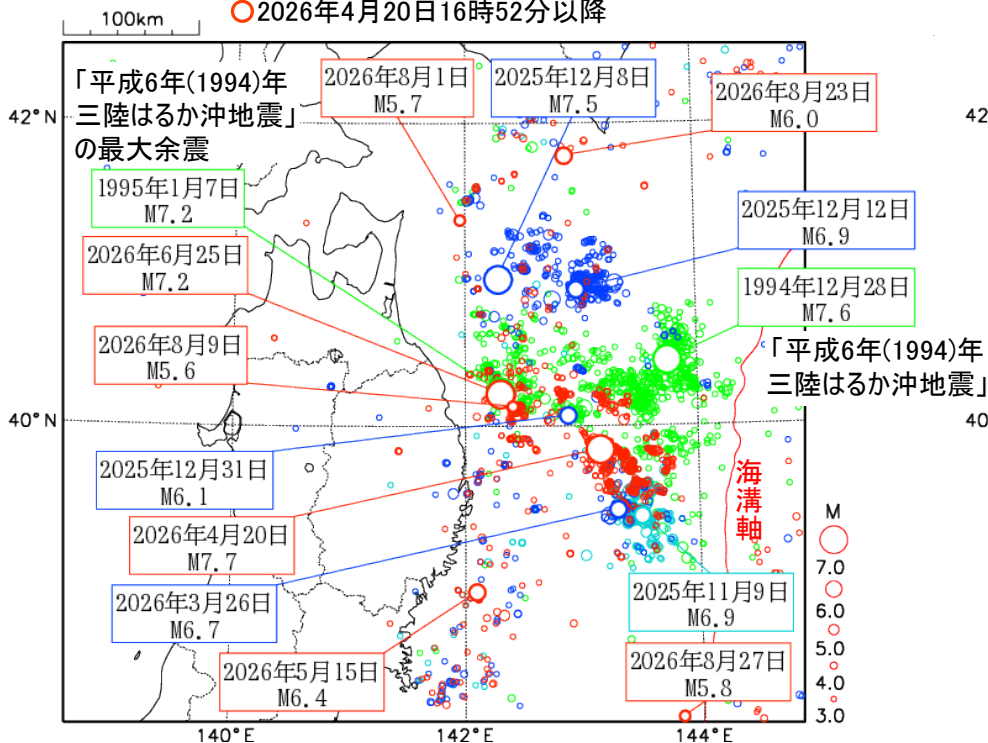
～2026年8月31日、深さ0～90km、 $M \geq 3.0$)

○ 1994年12月28日～1995年1月31日

○ 2025年11月1日～2025年12月8日23時14分

○ 2025年12月8日23時15分～2026年4月20日16時51分

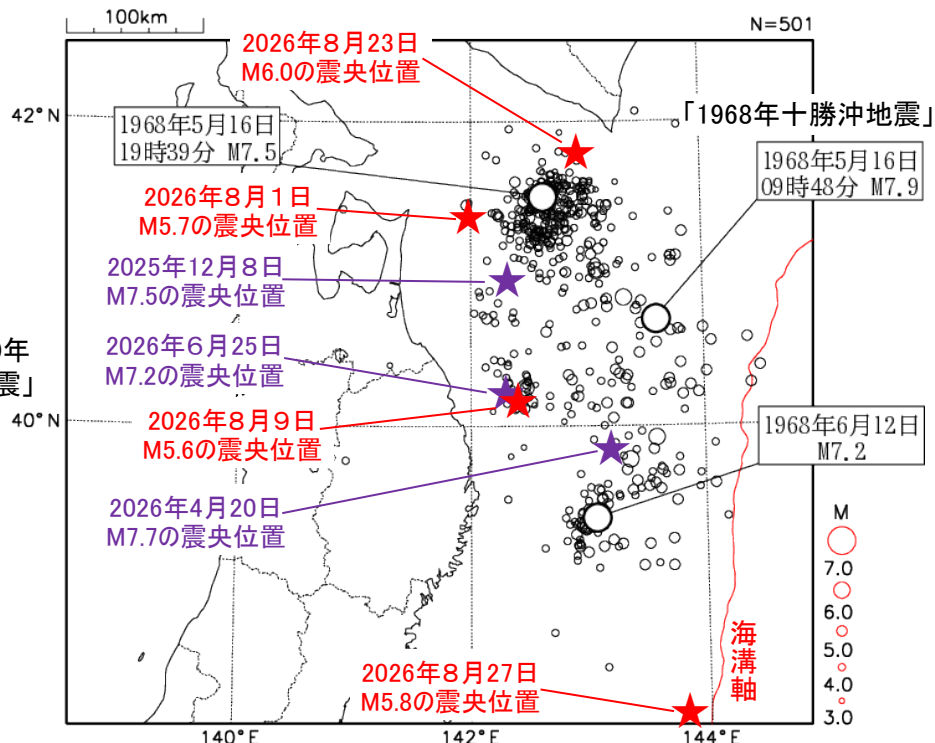
○ 2026年4月20日16時52分以降



震央分布図

(1968年5月16日～1968年6月15日、

深さ0～90km、 $M \geq 3.0$)



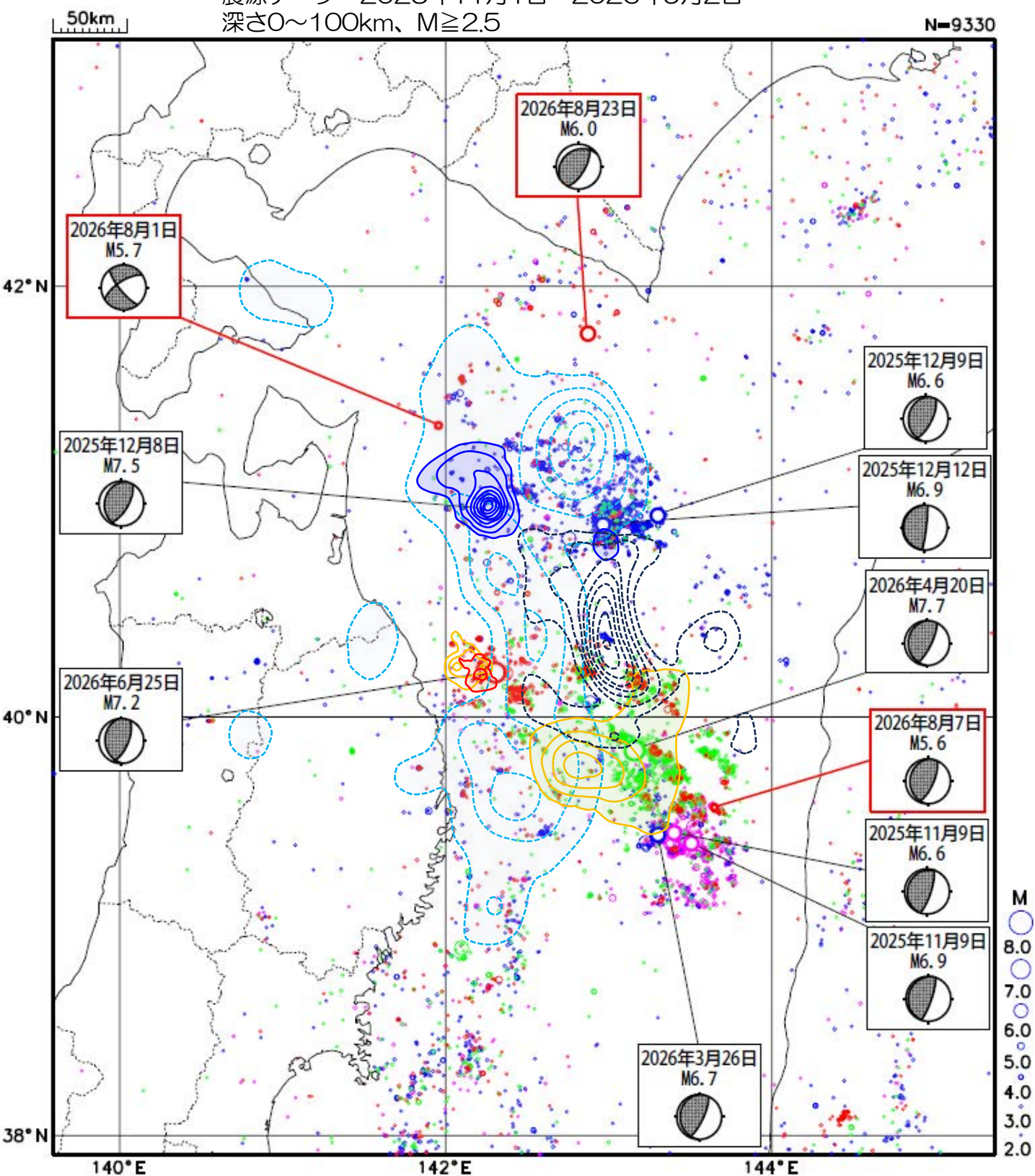
左図には、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の約1か月分の地震活動域、2025年11月9日三陸沖の地震活動域、2025年12月8日青森県東方沖の地震活動域及び2026年4月20日三陸沖の地震活動域等を示している。

右図には、「1968年十勝沖地震」の約1か月分の地震活動域を示している。

- ・「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」、2025年11月及び2026年4月の三陸沖の地震、2025年12月の青森県東方沖の地震の活動域は、すみ分けて見える。
- ・「1968年十勝沖地震」の活動域は、上記の活動域を包含するように広がっている。
- ・2026年6月25日の岩手県沖の地震($M7.2$)は、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の最大余震(1995年1月7日、 $M7.2$)とほぼ同じ場所で発生している。

青森県東方沖～三陸沖の地震活動と各地震の破壊域との比較 (地震活動+2025年11月以降のM7地震+ゆっくりすべり+ 1994年三陸はるか沖地震)

震源データ 2025年11月1日～2026年9月2日
深さ0～100km、M $\geq$ 2.5



2025年12月8日 M7.5 Yoshida et al. (2026)

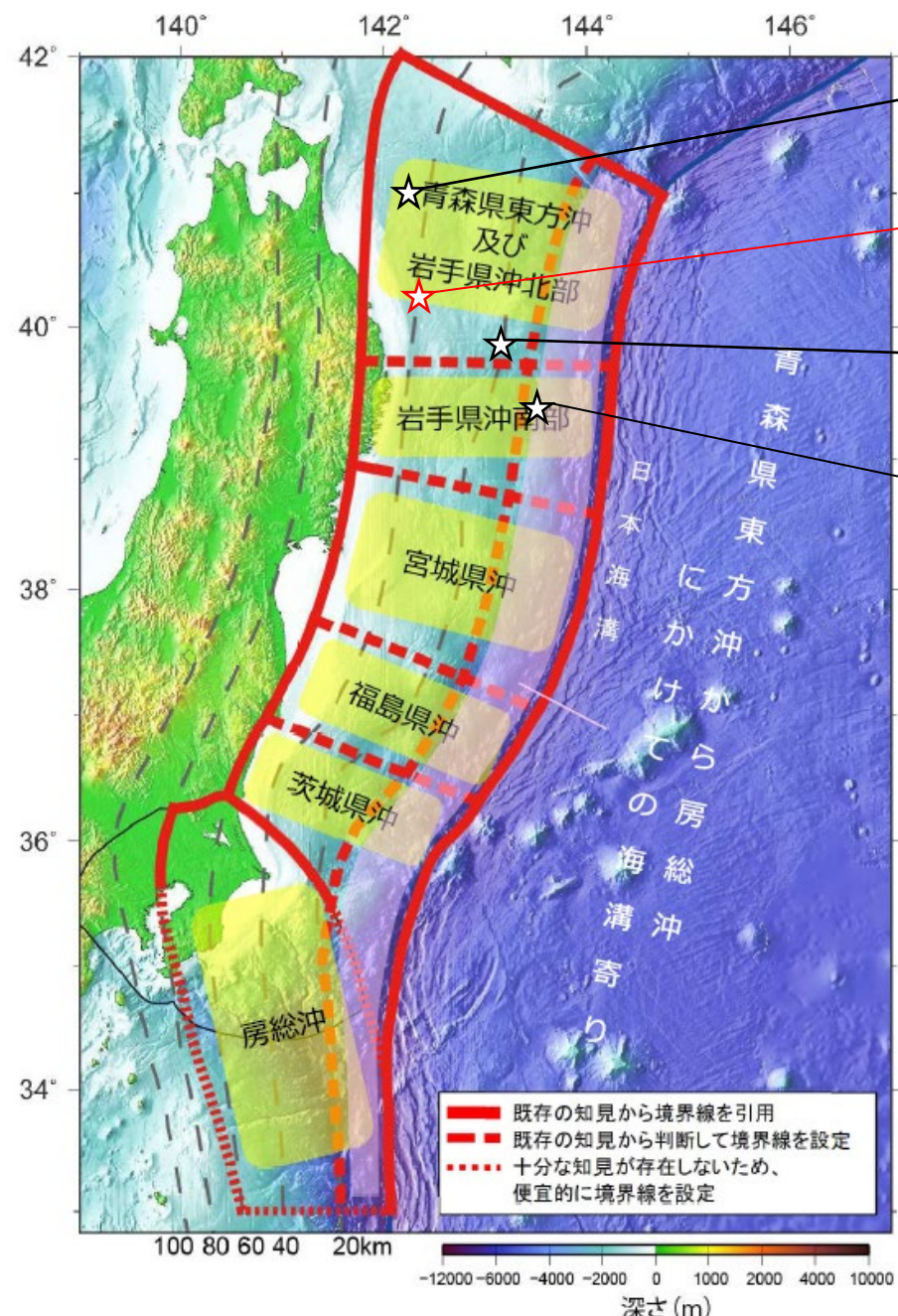
2026年4月20日 M7.7 Kubo (2026)

2026年6月25日 M7.2 防災科学技術研究所（第430回地震調査委員会）

2025年11月以降のゆっくりすべりの分布 国土地理院（第434回地震調査委員会）

1994年12月28日 M7.6 永井・他(2001)

長期評価の対象領域と今回の地震



2025/12/8 54 km M7.5

2026/6/25 44 km M7.2

2026/04/20 19 km M7.7

2025/11/9 15 km M6.9

青森県東方沖及び岩手県沖北部、宮城県沖以外の領域については、ほぼ同一の震源域で繰り返し発生している規模の大きな地震は知られていない。超巨大地震（東北地方太平洋沖型）については、宮城県沖を必ず含み、隣接する領域（岩手県沖南部または福島県沖）の少なくとも一方にまたがり、場合によっては茨城県沖まで破壊が及ぶ可能性のある地震であると考えた。

～
評価対象領域の区域分けに関して、大地震の記録が比較的多く残っている青森県東方沖及び岩手県沖北部については、1968年十勝沖地震を当該海域で発生する代表例と考えて設定した。

今後30年以内の地震発生確率（2026年1月1日時点）

将来発生する地震の評価

日本海溝沿いの地震（「日本海溝沿いの地震活動の長期評価」（平成31年2月公表）より）

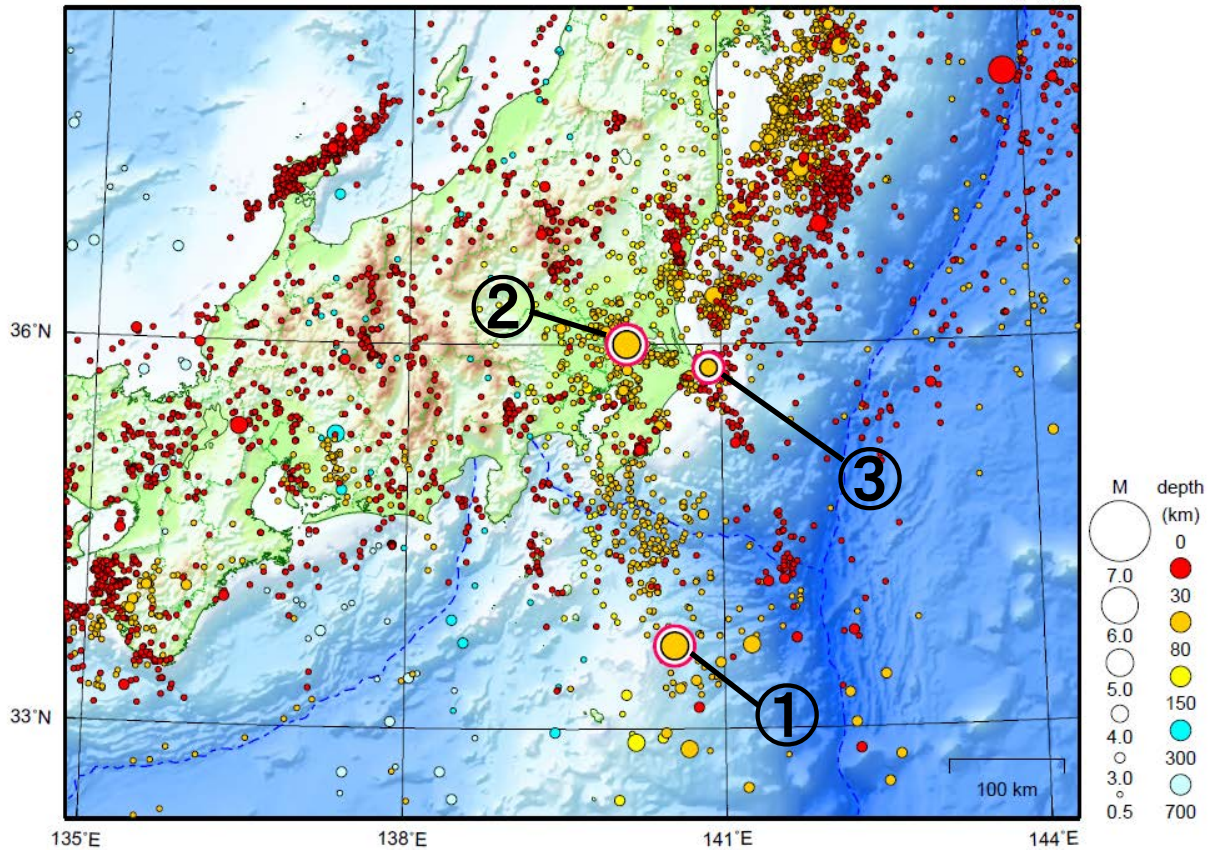
評価対象地震	発生領域	規模	ランク	地震発生確率 （30年以内）	評価に使用した地震	地震後 経過率 ^{注2}
超巨大地震 （東北地方太平洋沖 型）	岩手県沖南部～ 茨城県沖	M9.0程度	Iランク	ほぼ0%	過去約3000年間の5回	0.02- 0.03
プレート間 巨大地震	青森県東方沖及び岩 手県沖北部	M7.9程度	IIIランク	20～40%	1677年以降の4回	0.59
	宮城県沖	M7.9程度	IIランク	20%程度	1793年以降の3回 ^{注1}	－
ひとまわり小さい プレート間地震	青森県東方沖及び岩 手県沖北部	M7.0～7.5程度	IIIランク	90%程度 以上	1923年以降の10回 ^{注1}	－
	岩手県沖南部	M7.0～7.5程度	IIIランク	30%程度	1923年以降の1回 ^{注1}	－
	宮城県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	90%程度	1923年以降の6～7回 ^{注1}	－
	宮城県沖の陸寄り （宮城県沖地震）	M7.4前後	IIIランク	80%～90%程度 以上	1897年以降の4回	0.39
	福島県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	50%程度	1923年以降の2回 ^{注1}	－
	茨城県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	80%程度	1923年以降の5回 ^{注1}	－
海溝寄りのプレート間 地震（津波地震等）	青森県東方沖から房総沖に かけての海溝寄り	Mt8.6～9.0 ^{注3}	IIIランク	30%程度	1600年以降の4回 ^{注1}	－
沈み込んだプレート内 の地震	青森県東方沖及び岩手県沖 北部～茨城県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	60～70%	1923年以降の3～4回 ^{注1}	－
海溝軸外側の地震	日本海溝の海溝軸外側	M8.2前後	IIランク	7%	1600年以降の1回 ^{注1}	－

^{注1} 東北地方太平洋沖地震より後の期間は除いた
^{注2} 地震後経過率＝最新発生時期からの経過時間÷平均発生間隔
－は時間が経過しても地震の起こりやすさが変わらないと仮定した地震
^{注3} Mtは津波マグニチュード

関東・中部地方

2026/08/01 00:00 ~ 2026/08/31 24:00

N=6008



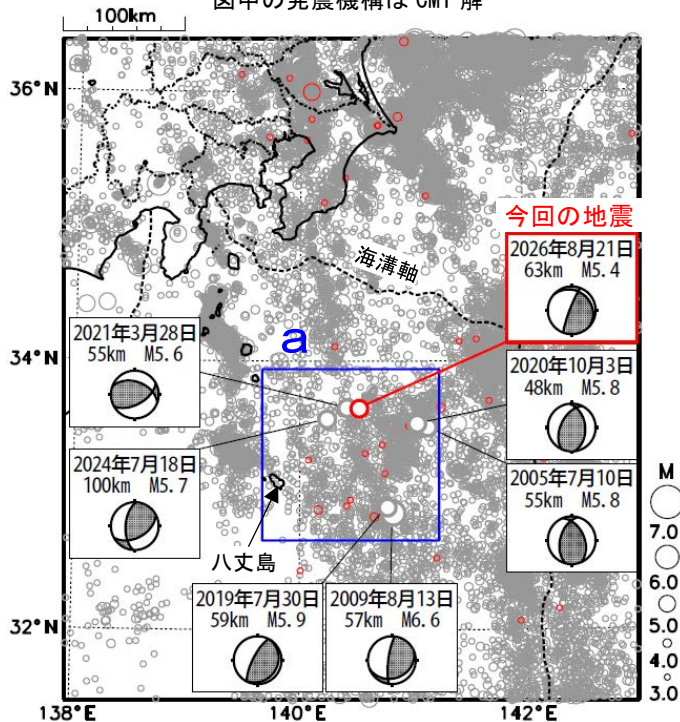
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 8月21日に八丈島東方沖でM5.4の地震(最大震度3)が発生した。
- ② 8月23日に茨城県南部でM5.9の地震(最大震度5弱)が発生した。
- ③ 8月30日に千葉県東方沖でM4.8の地震(最大震度4)が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

8月21日 八丈島東方沖の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2026年8月31日、
深さ0～200km、 $M \geq 3.0$)
2026年8月の地震を赤色で表示
図中の発震機構はCMT解

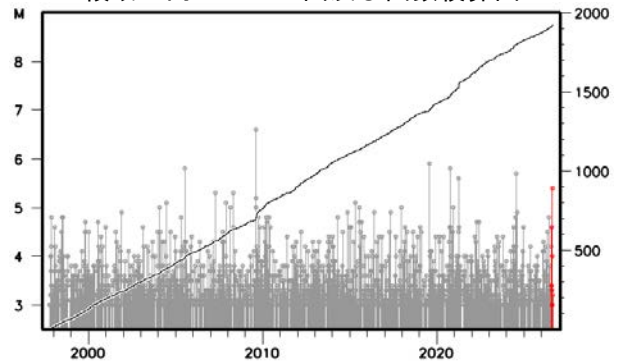


2026年8月21日21時02分に八丈島東方沖の深さ63kmでM5.4の地震(最大震度3)が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構(CMT解)は、東西方向に圧力軸を持つ型である。

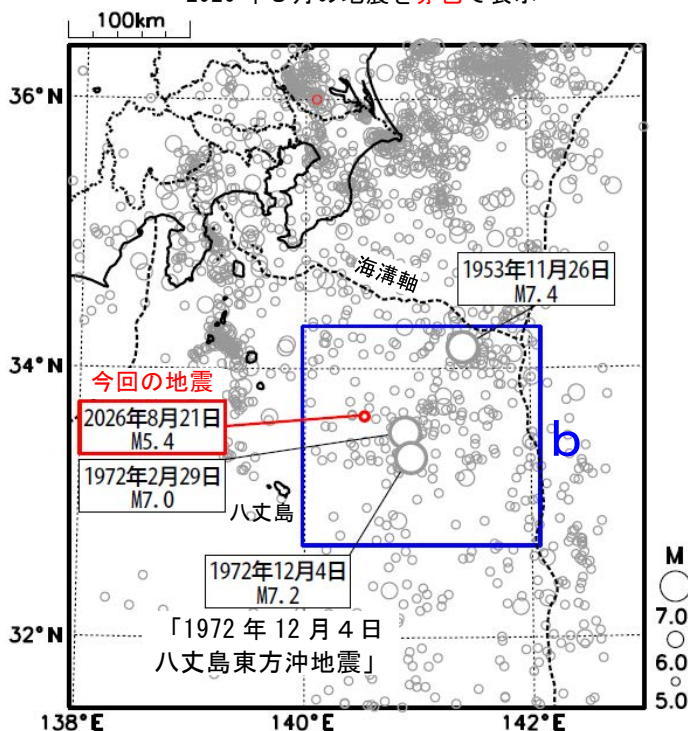
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域a)はM5.0以上の地震が時々発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M6.0以上の地震が時々発生している。このうち、1972年2月29日のM7.0の地震(最大震度5)では、館山市布良で最大23cm(平常潮位からの最大の高さ)の津波、同年12月4日のM7.2の地震(「1972年12月4日八丈島東方沖地震」、最大震度6)では、串本町袋港で最大35cm(平常潮位からの最大の高さ)の津波を観測した。また、これらの地震により、八丈島で道路・水道の損壊や落石等の被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

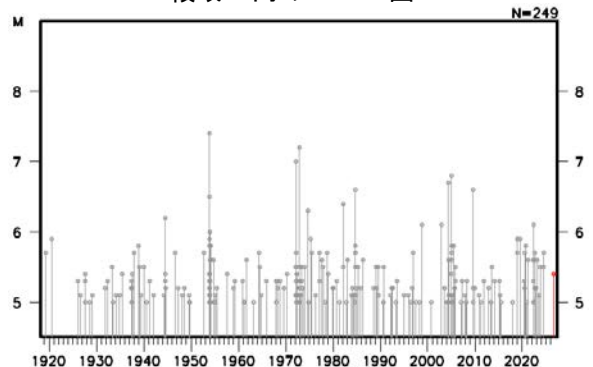
領域a内のM-T図及び回数積算図



震央分布図
(1919年1月1日～2026年8月31日、
深さ0～200km、 $M \geq 5.0$)
2026年8月の地震を赤色で表示



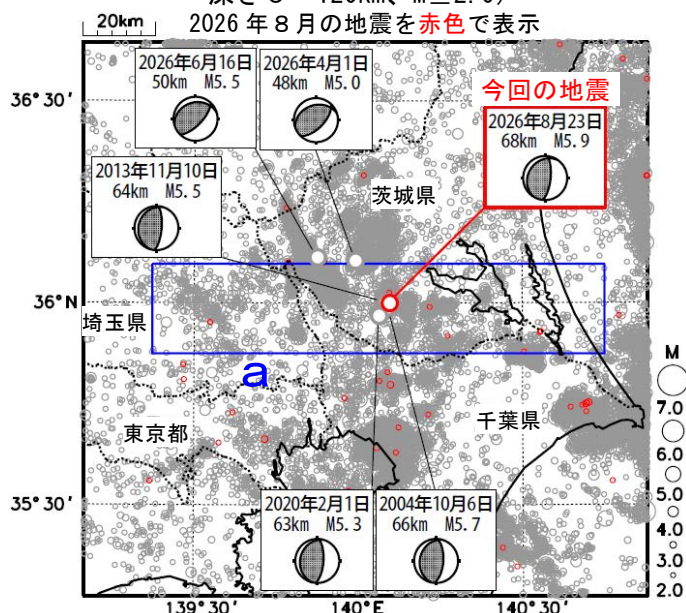
領域b内のM-T図



8月23日 茨城県南部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2026年8月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 2.0$)

2026年8月の地震を赤色で表示

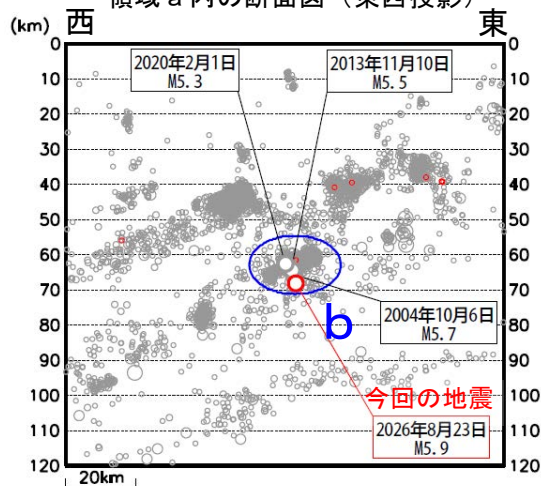


2026年8月23日02時00分に茨城県南部の深さ68kmでM5.9の地震（最大震度5弱）が発生した。この地震で、埼玉県南部、千葉県西北部、東京都23区で長周期地震動階級2を観測した。この地震は、発震機構が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。この地震で、負傷者38人、住家一部破損2棟の被害が生じた（被害は、8月31日17時00分現在、総務省消防庁による）。

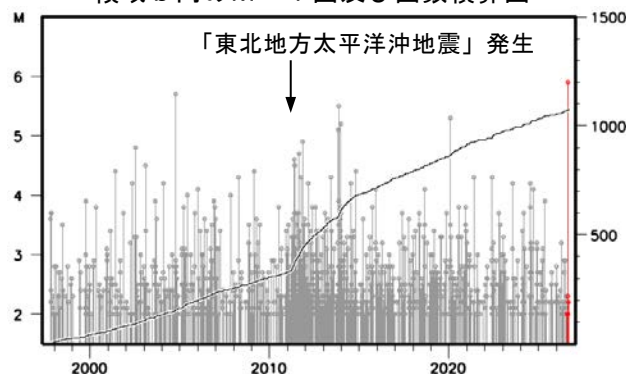
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）はM4.0以上の地震が時々発生しており、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）発生以降は、より地震活動が活発になっている。2004年10月6日にはM5.7の地震（最大震度5弱）が発生し、負傷者4人などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6.0以上の地震が時々発生している。

領域a内の断面図（東西投影）

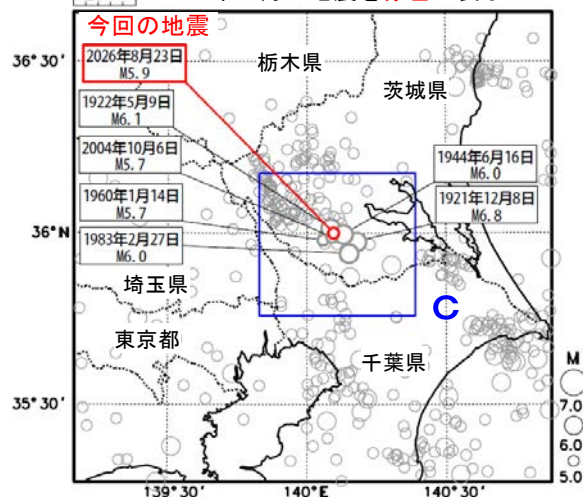


領域b内のM-T図及び回数積算図

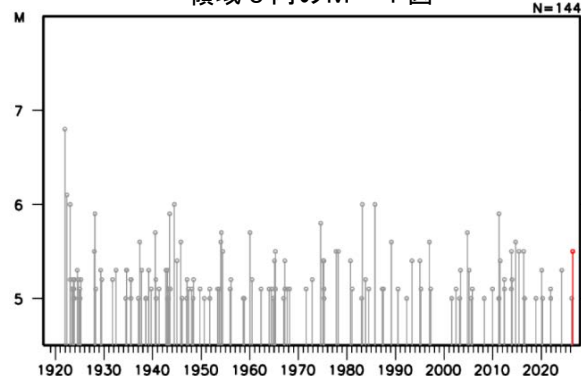


震央分布図
(1919年1月1日～2026年8月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)

2026年8月の地震を赤色で表示



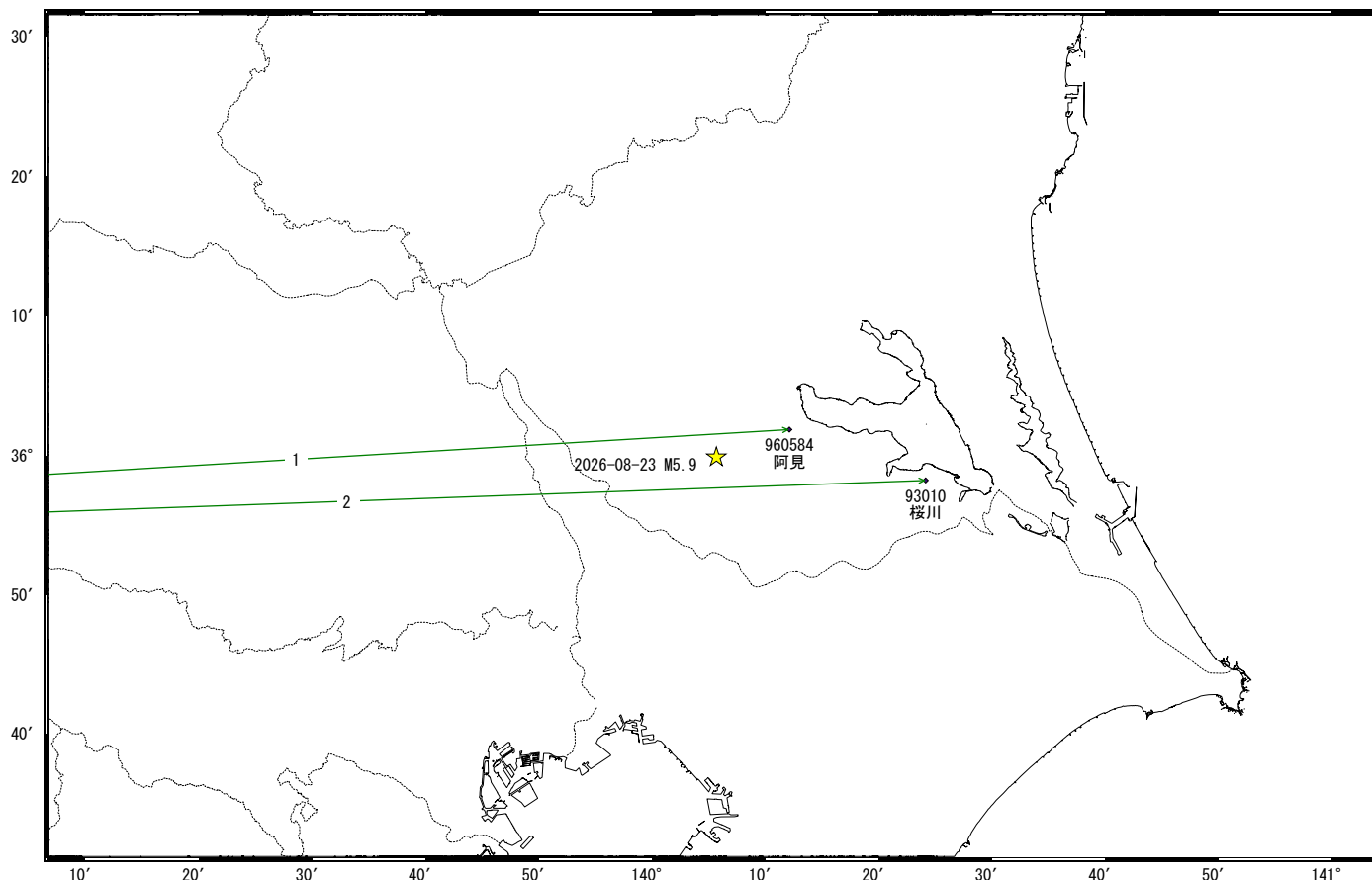
領域c内のM-T図



茨城県南部の地震(8月23日 M5.9) 前後の観測データ(暫定)

この地震に伴う顕著な地殻変動は見られない。

基線図



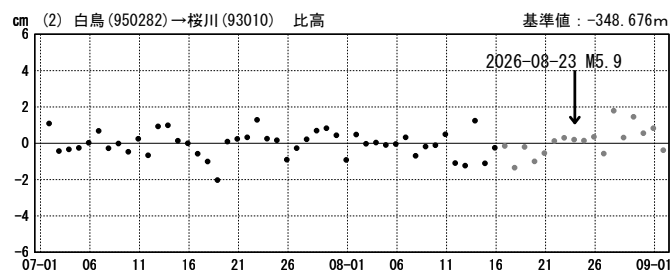
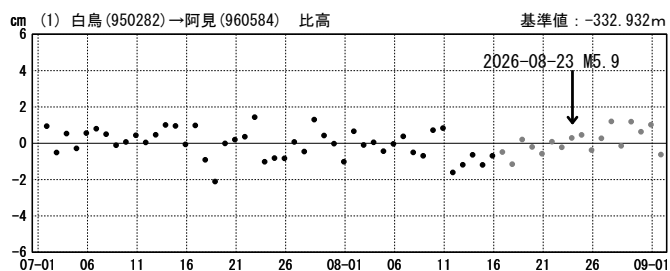
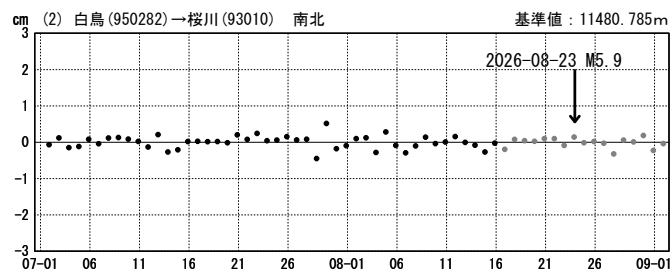
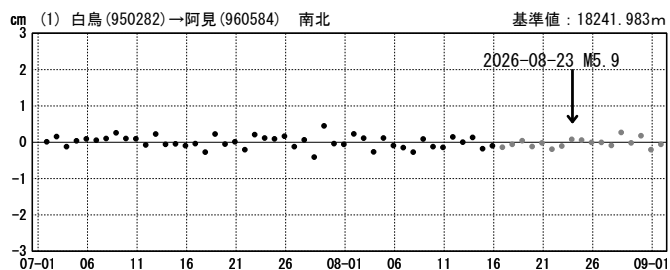
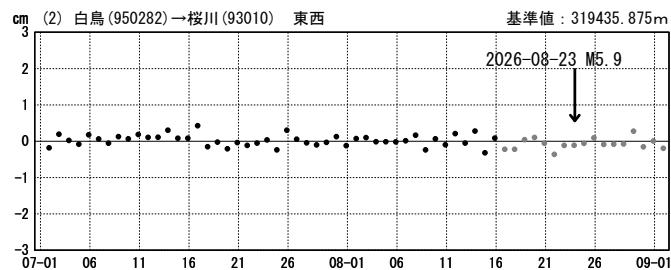
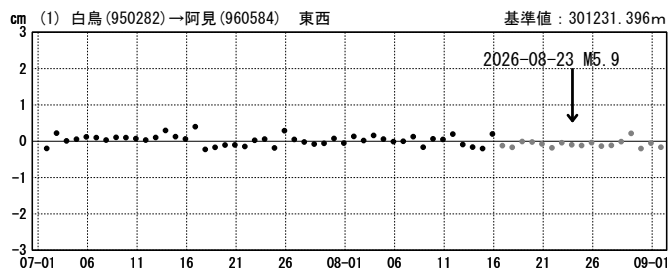
震央

固定局: 白鳥 (950282) (岐阜県)

成分変化グラフ

期間: 2026-07-01~2026-09-01 JST

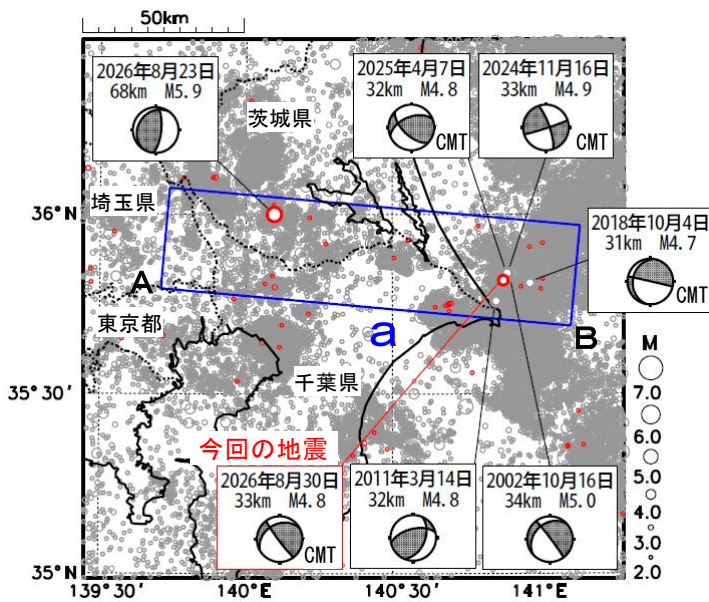
期間: 2026-07-01~2026-09-01 JST



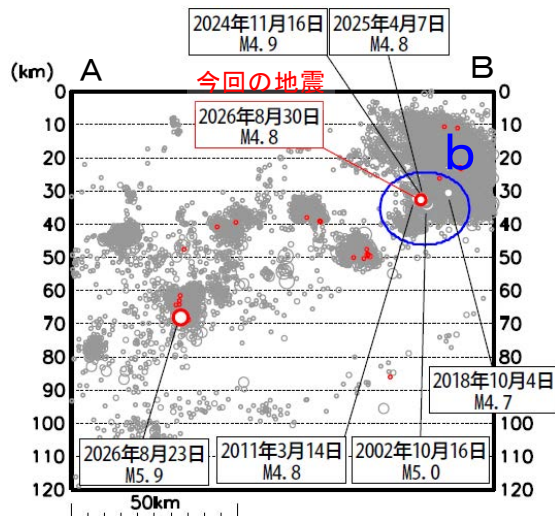
●— [F5. 1: 最終解] ●— [R5. 1: 速報解]

8月30日 千葉県東方沖の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2026年8月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 2.0$)
2026年8月の地震を赤色で表示



領域a内の断面図 (A-B投影)

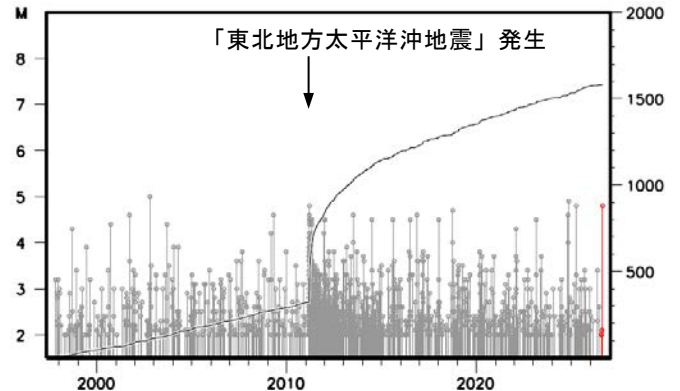


2026年8月30日00時17分に千葉県東方沖の深さ33kmでM4.8の地震 (最大震度4) が発生した。この地震の発震機構 (CMT解) は、東西方向に張力軸を持つ型である。

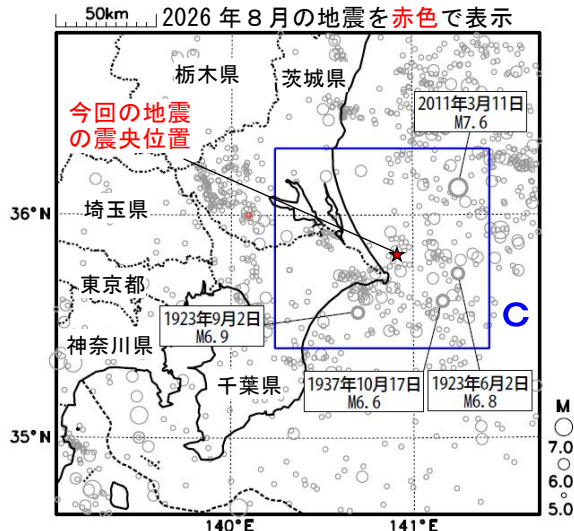
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) はM4.0以上の地震が時々発生しており、「平成23年 (2011年) 東北地方太平洋沖地震」 (以下、「東北地方太平洋沖地震」) 発生以降は、より地震活動が活発になっている。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M6.0以上の地震が時々発生している。また、1923年9月1日に発生した関東地震の前後や東北地方太平洋沖地震の直後には、ややまとまって地震が発生している。

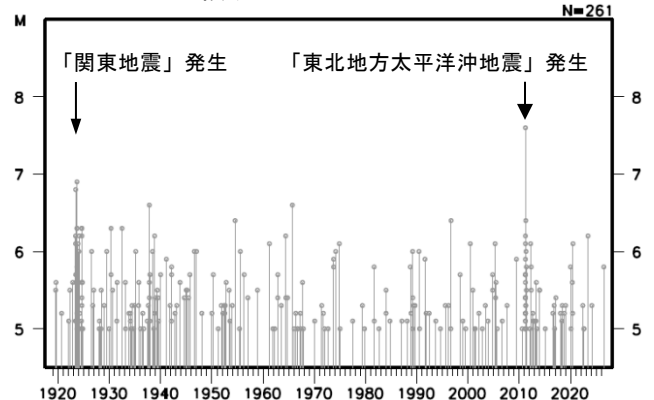
領域b内のM-T図及び回数積算図



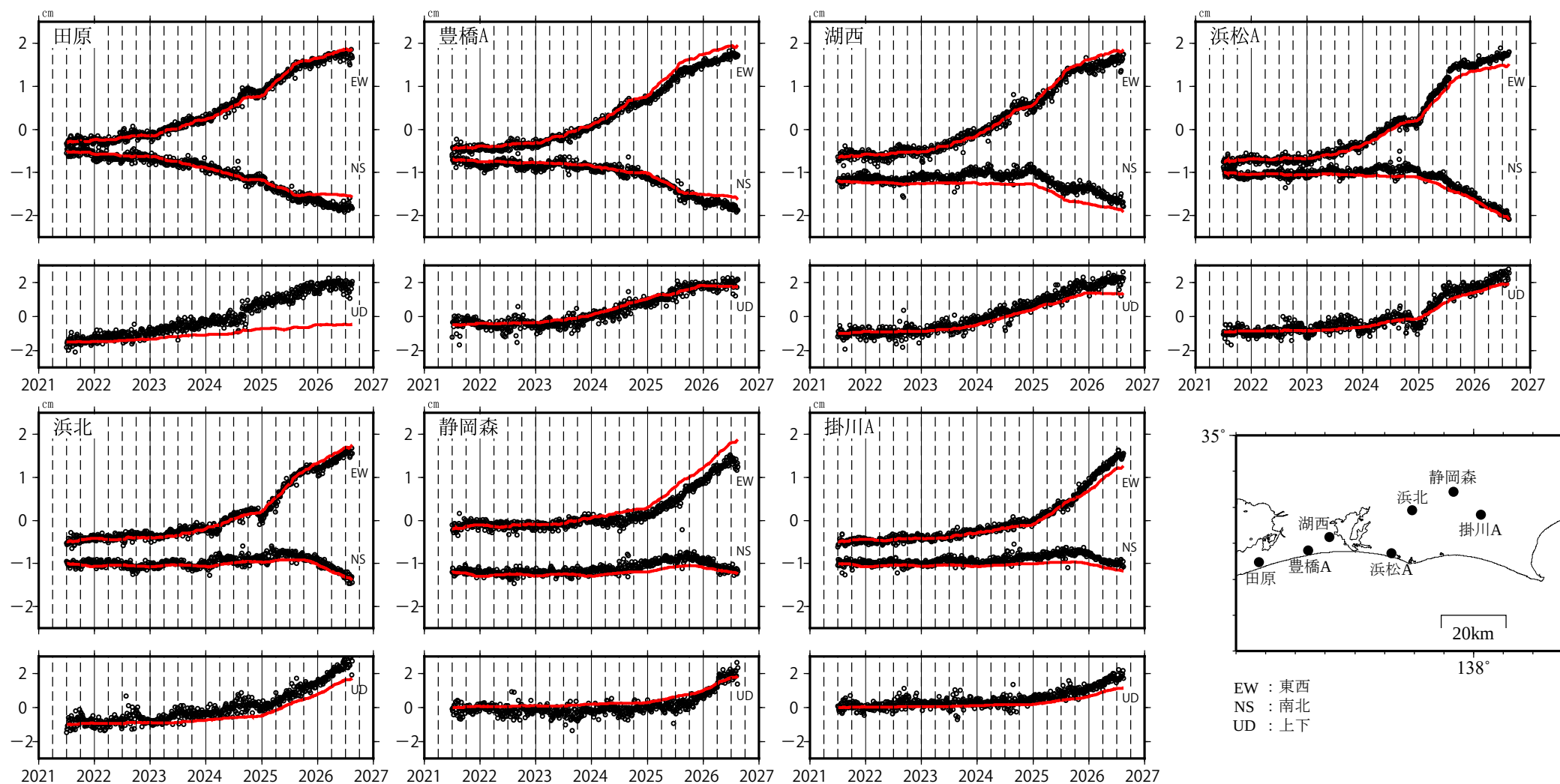
震央分布図
(1919年1月1日～2026年8月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)
2026年8月の地震を赤色で表示



領域c内のM-T図

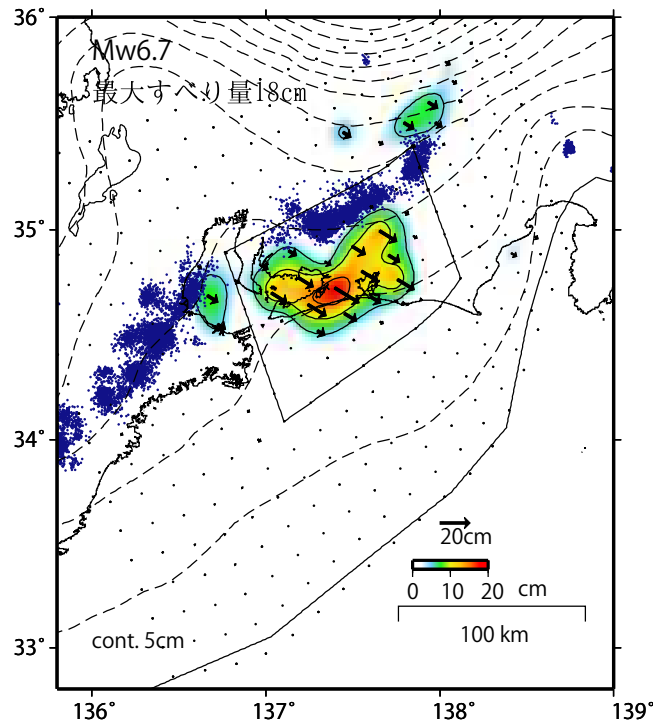


東海地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線) 時間依存のインバージョン

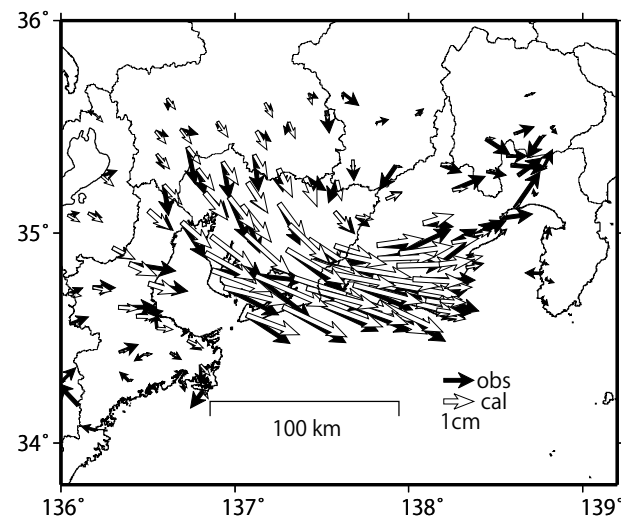


GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり(暫定)

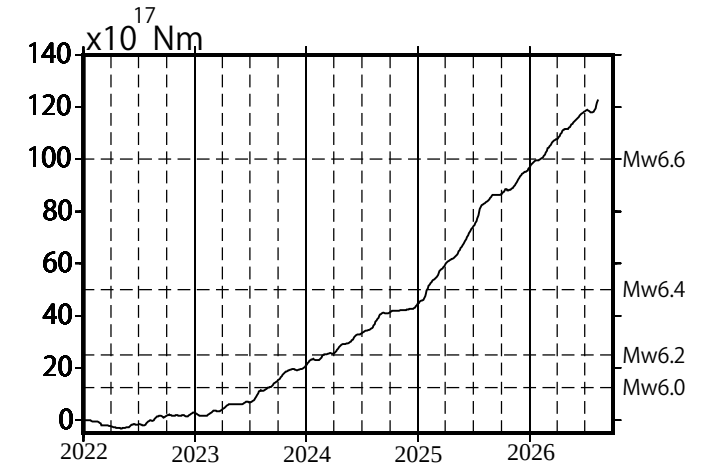
推定すべり分布
(2022-01-01/2026-08-14)



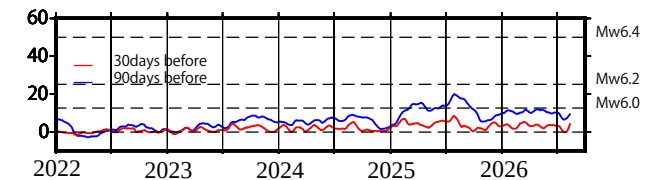
観測値(黒)と計算値(白)の比較
(2022-01-01/2026-08-14)



モーメント時系列(試算)



モーメント変化量の時間変化(30日間及び90日間)



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

使用データ: GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)

F5.1解(2021-07-01/2026-07-11) R5.1解(2026-07-12/2026-08-14)

トレンド期間: 2020-01-01/2022-01-01 (年周・半年周成分は補正していない)

モーメント計算範囲: 左図の黒枠内側

観測値: 3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線: フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)

すべり方向: プレートの沈み込み方向に拘束

青丸: 低周波地震(気象庁一元化震源)(期間: 2022-01-01/2026-08-14)

モーメント: 断層運動のエネルギーの目安となる量。

解析での補正内容

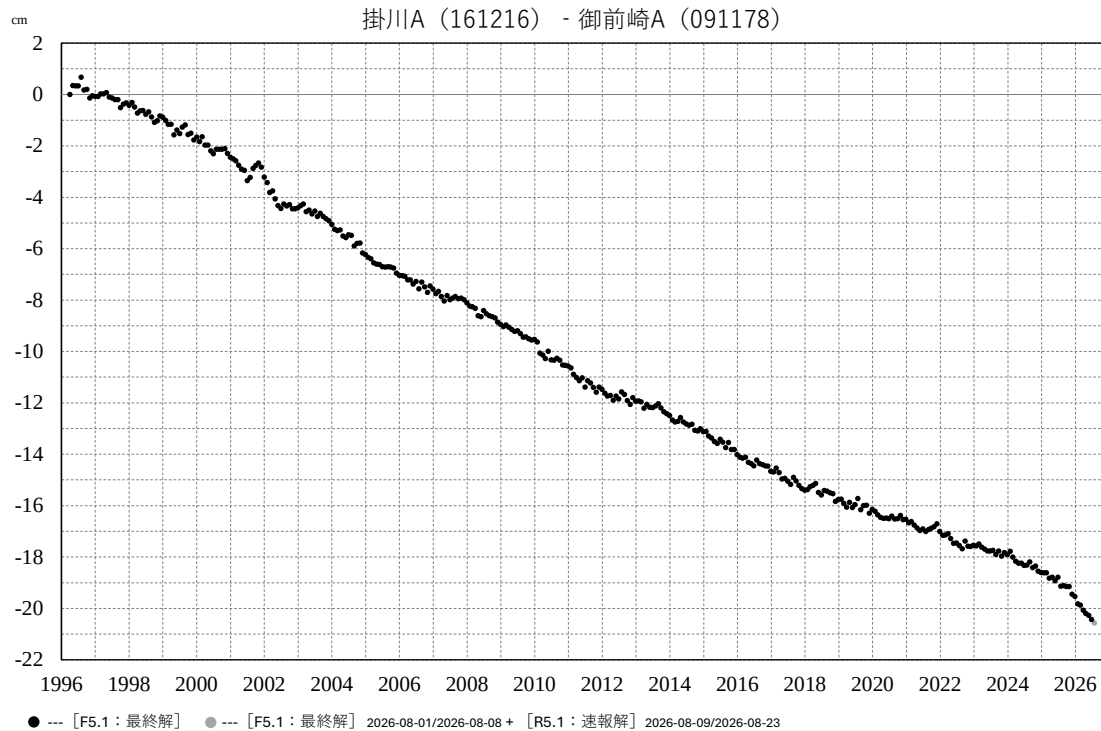
- * 電子基準点の保守等による変動
- * 共通誤差成分を推定
- * 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形(Suito 2017)
- * 令和6年能登半島地震に伴う地殻変動
- * 令和6年能登半島地震の粘弾性変形(Suito 2025)
- * 短期的ゆっくりすべりに伴う地殻変動(2017-01/2026-08-03: 気象庁カタログによる)

固定局: 三隅

御前崎 電子基準点の上下変動

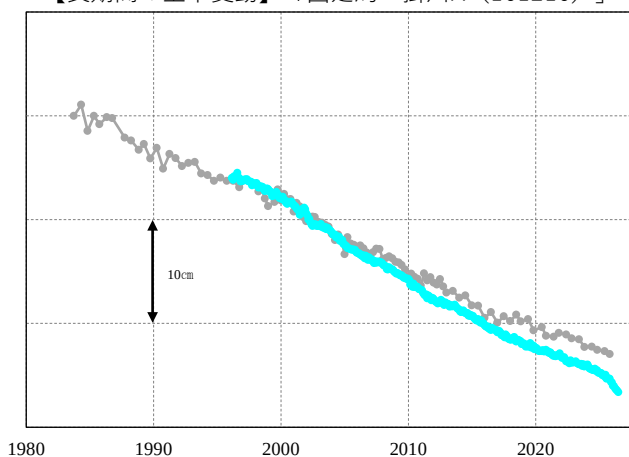
水準測量とGNSS連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。



- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5.1:最終解 及び R5.1:速報解) から計算した値の月平均値。
- ※ 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震に伴う電子基準点「御前崎」の局所的な変動について、地震前後の水準測量で得られた「御前崎」周辺の水準点との比高の差を用いて補正を行った。
- ※ 電子基準点「御前崎A」については、2010 年 3 月 23 日まで電子基準点「御前崎」のデータを使用。
- ※ 電子基準点「掛川A」については、2017 年 1 月 29 日まで電子基準点「掛川」のデータを使用。
- ※ 2026 年初頭頃から見られる沈降速度の増加は、東海地方の長期的ゆっくりすべりのすべりの中心が浜名湖の東側へ移動していることに伴う電子基準点「掛川A」等での変動の影響によるものである。

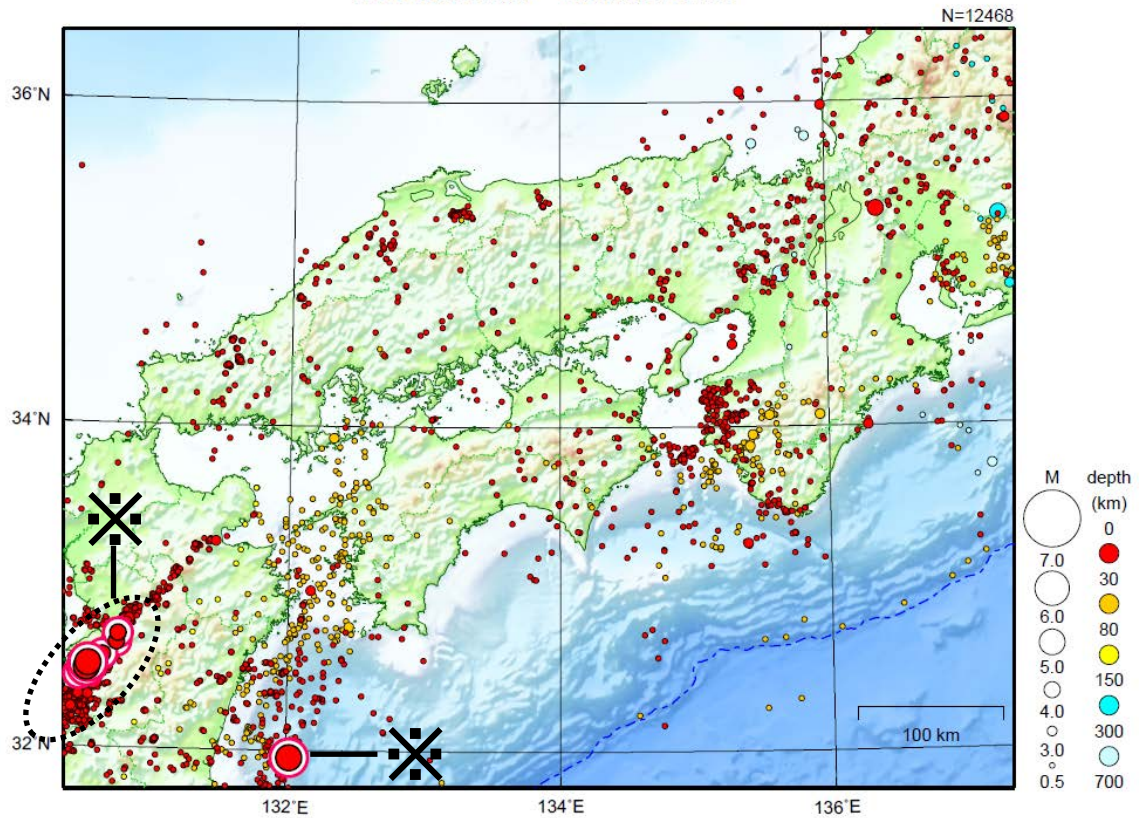
【長期間の上下変動】「固定局：掛川A (161216)」



- 水色のプロットは上記のGEONET による日々の座標値の月平均値。
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点「10150」の水準測量結果を示している (固定：140-1)。

近畿・中国・四国地方

2026/08/01 00:00 ~ 2026/08/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

※で示した地震については九州地方の資料を参照。

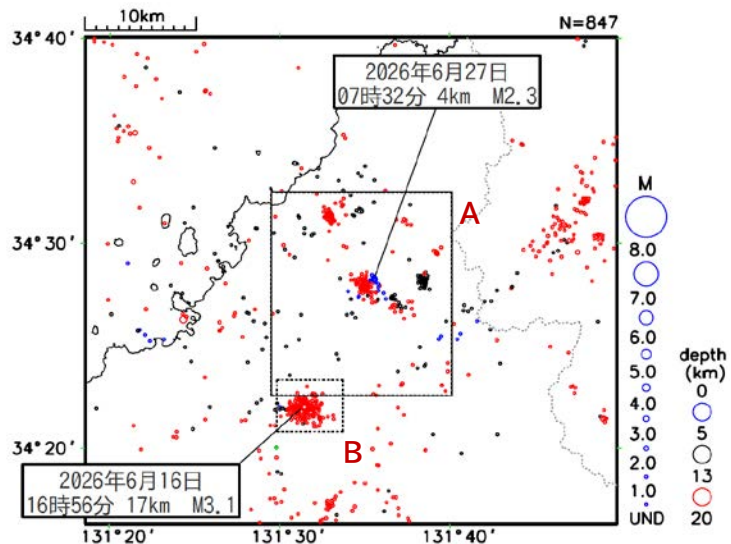
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

地震活動と地殻変動

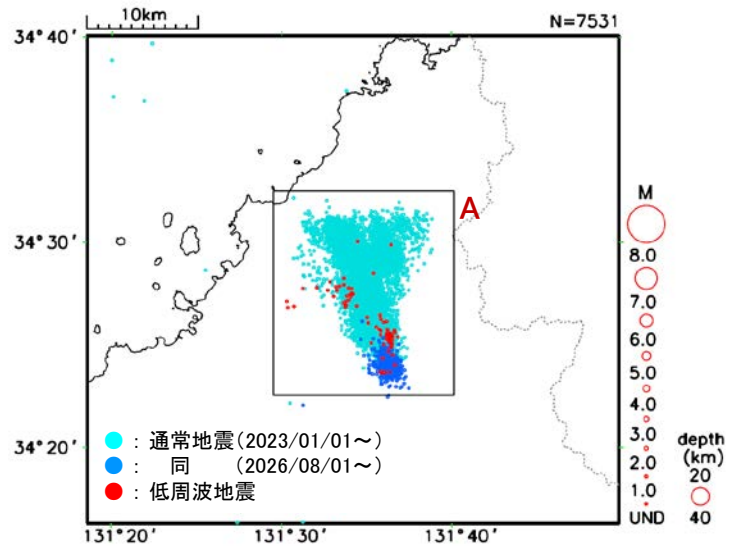
2023年1月1日～2026年8月31日、深さ 0～20km

(深さ0～5kmを青色で、13～20kmを赤色でプロット、Mすべて)

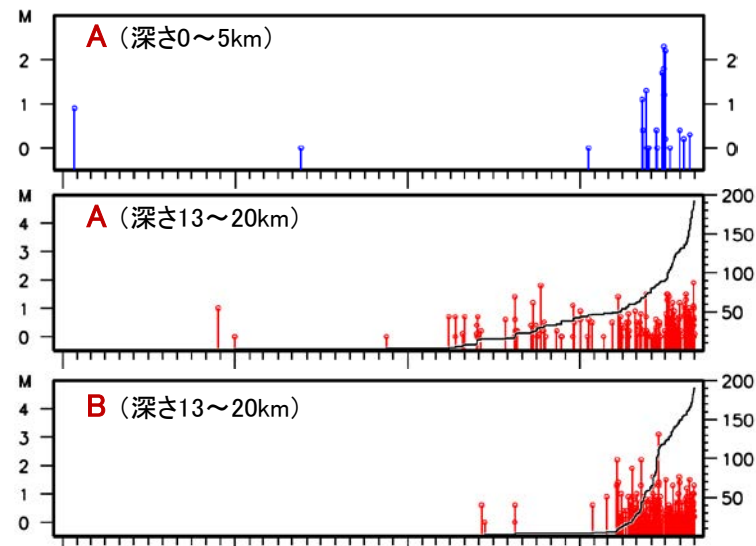


2023年1月1日～2026年8月31日、深さ: 20～40km

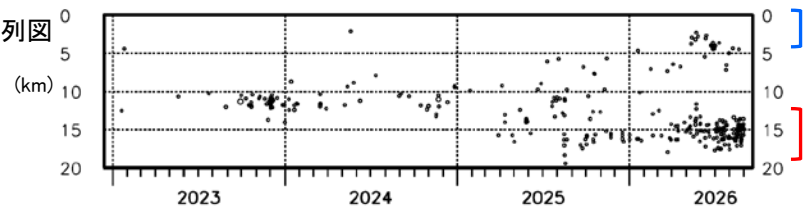
(2026年 8月以降を青色で、低周波地震を赤色でプロット、Mすべて)



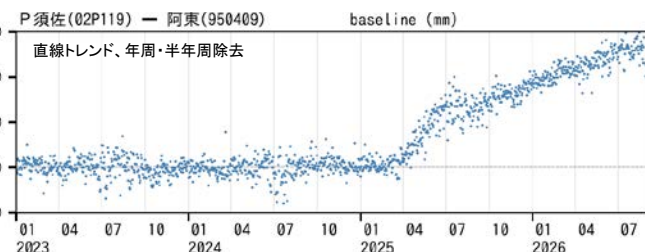
MT図、
回数積算図



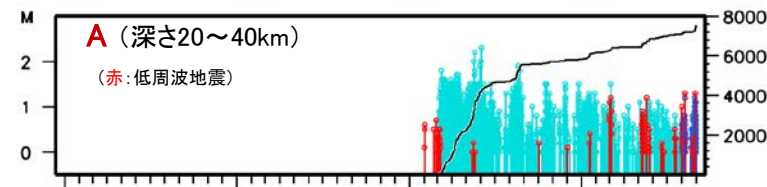
深さの時系列図



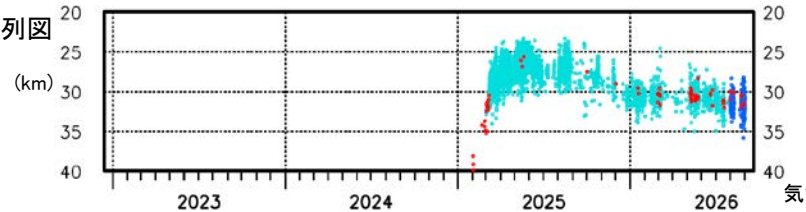
GNSS基線長



MT一回数積算図



深さの時系列図

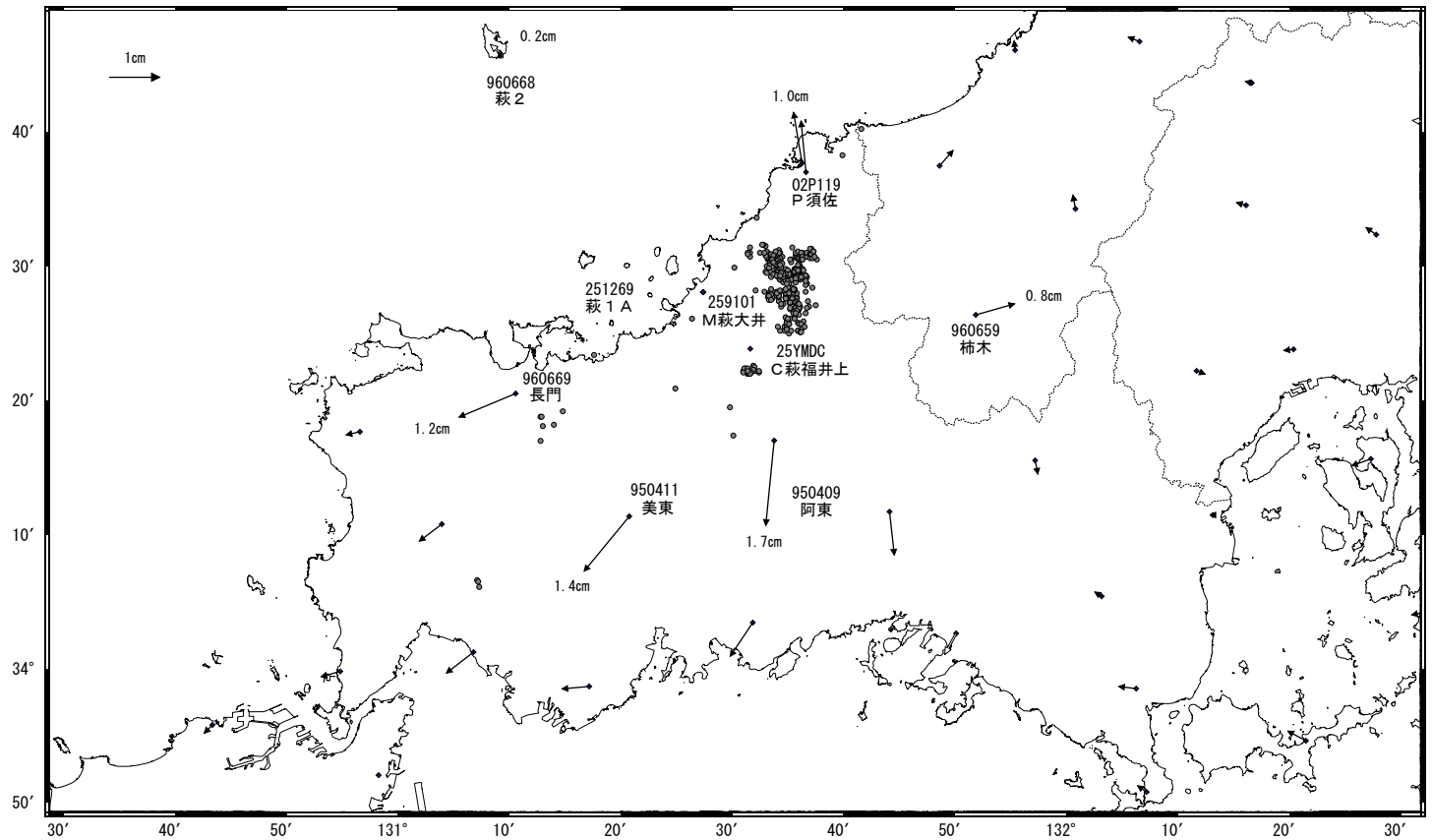


山口県北部の地震活動域周辺の地殻変動(暫定)

地殻変動

基準期間: 2025-01-01~2025-01-07 [F5. 1: 最終解]
比較期間: 2026-08-18~2026-08-24 [R5. 1: 速報解]

計算期間: 2017-01-01~2020-01-01

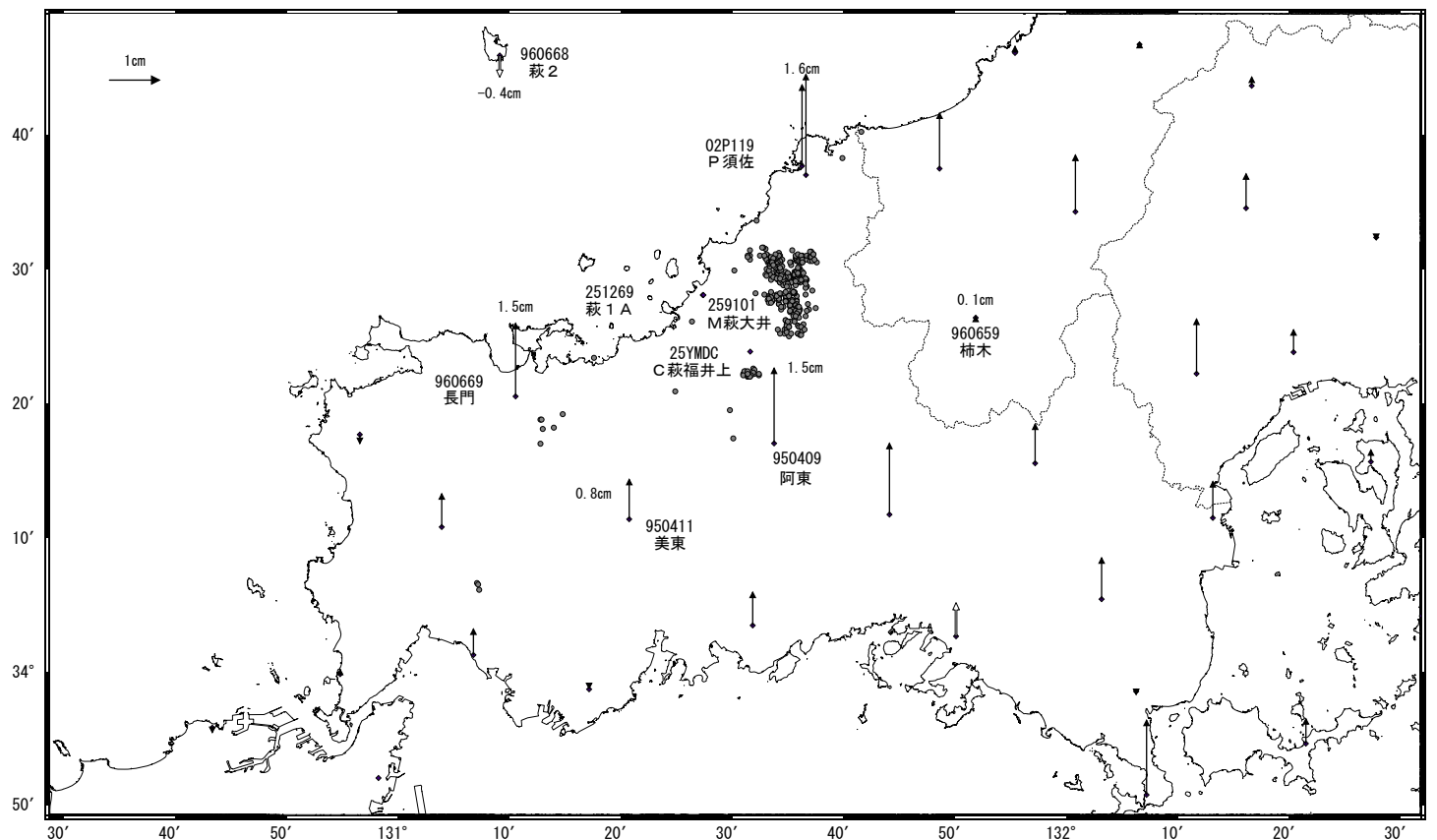


震央 (M1以上の地震)

★ 固定局: 上対馬 (950456) (長崎県)

基準期間: 2025-01-01~2025-01-07 [F5. 1: 最終解]
比較期間: 2026-08-18~2026-08-24 [R5. 1: 速報解]

計算期間: 2017-01-01~2020-01-01



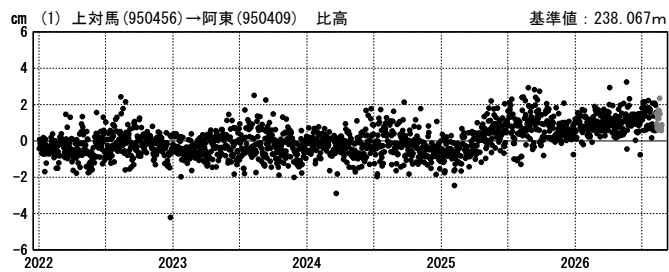
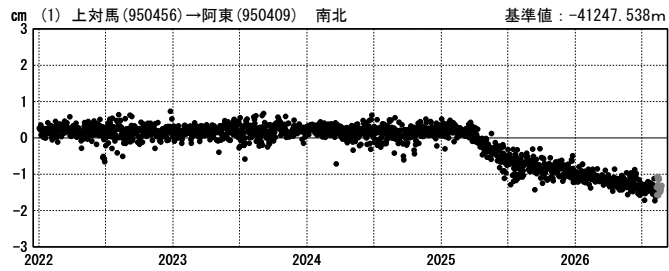
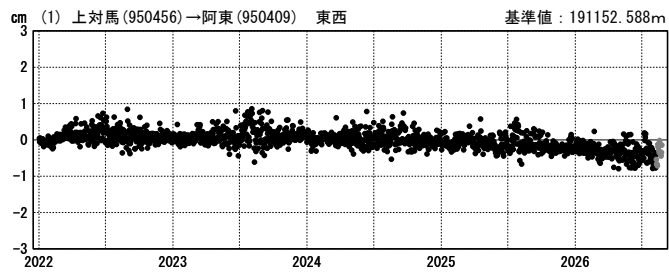
★ 固定局: 上対馬 (950456) (長崎県)

※C萩福井上、M萩大井、萩1 Aは基準期間のデータが存在しない

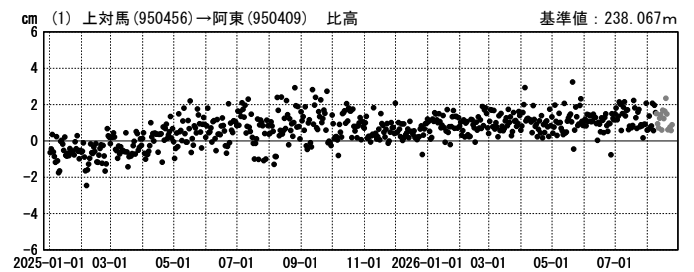
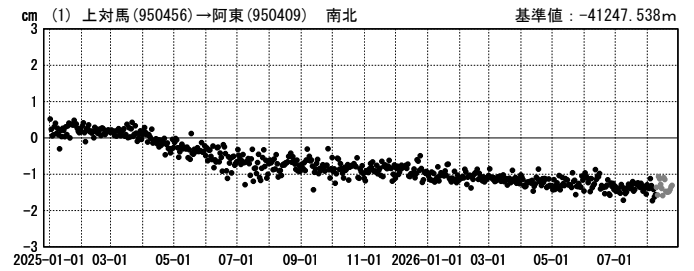
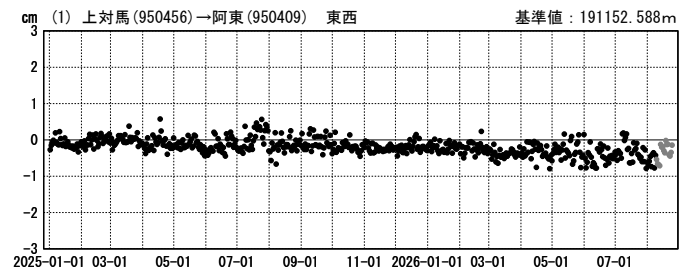
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

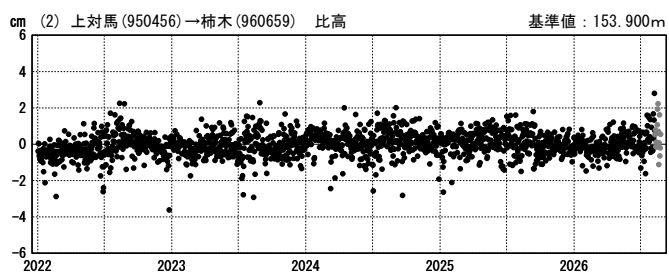
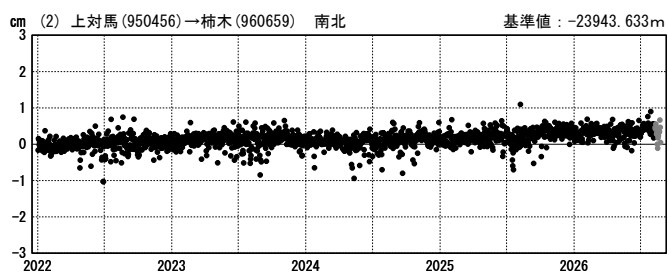
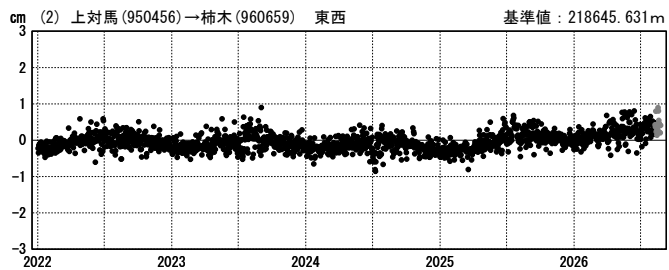
期間：2022-01-01～2026-08-24 JST



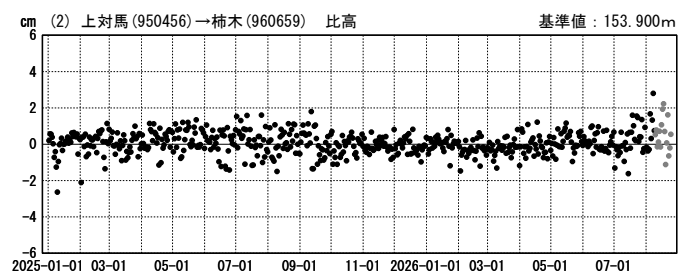
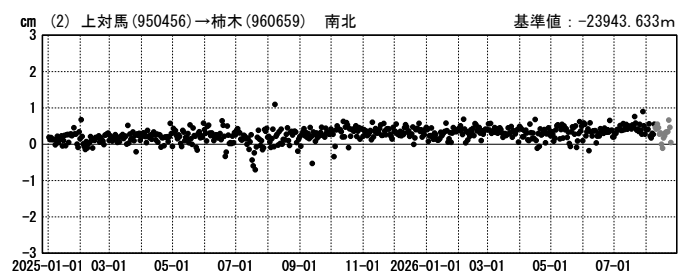
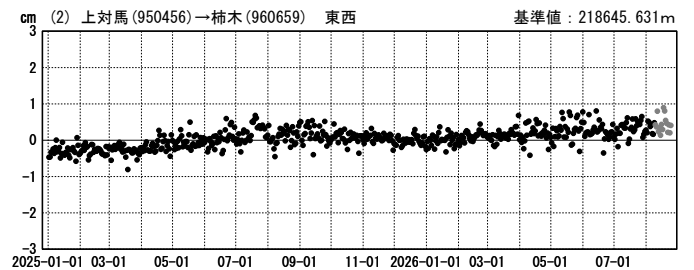
期間：2025-01-01～2026-08-24 JST



期間：2022-01-01～2026-08-24 JST



期間：2025-01-01～2026-08-24 JST

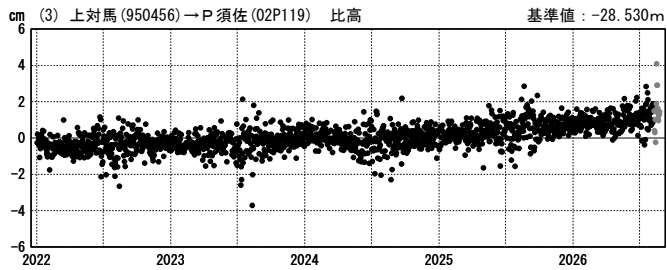
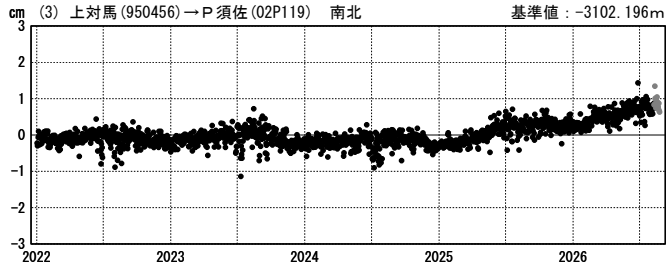
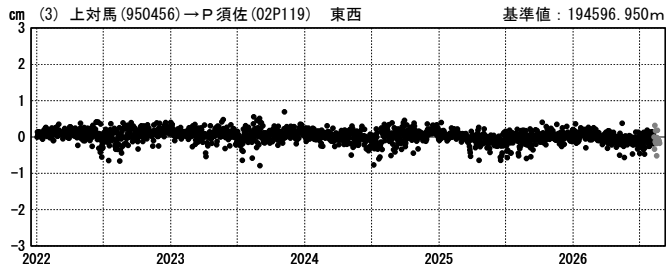


●—[F5. 1:最終解] ●—[R5. 1:速報解]

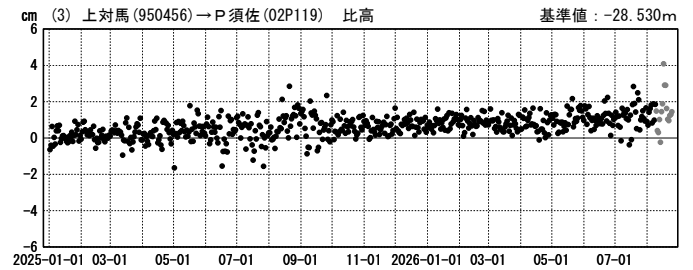
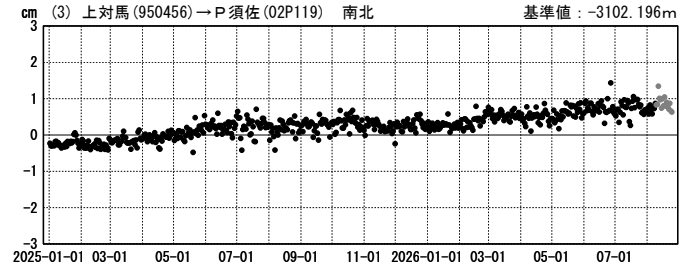
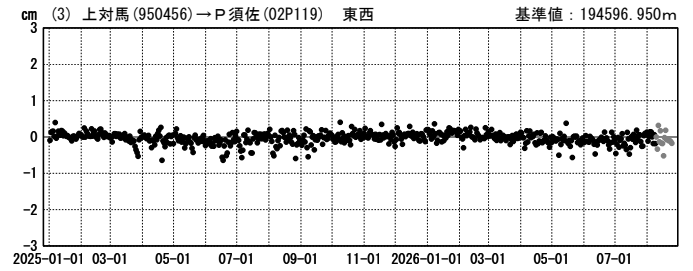
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

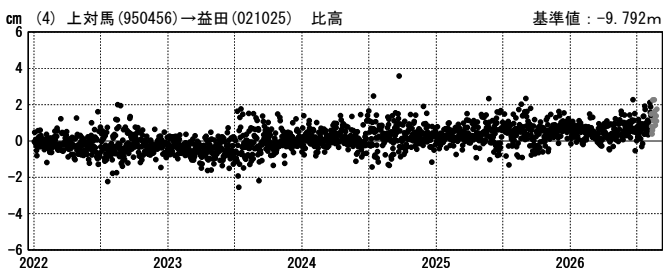
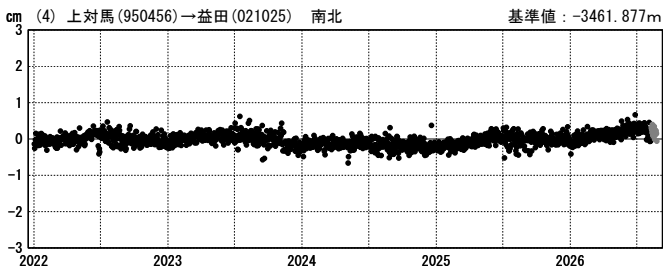
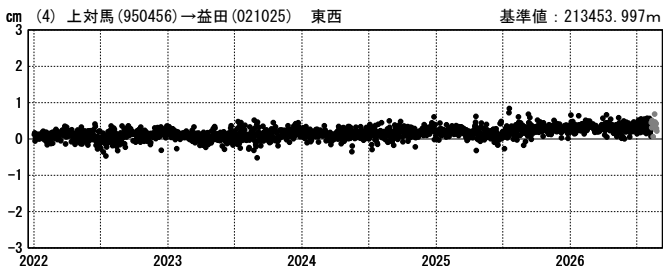
期間：2022-01-01～2026-08-24 JST



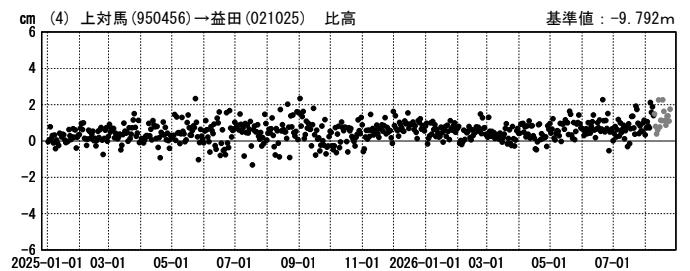
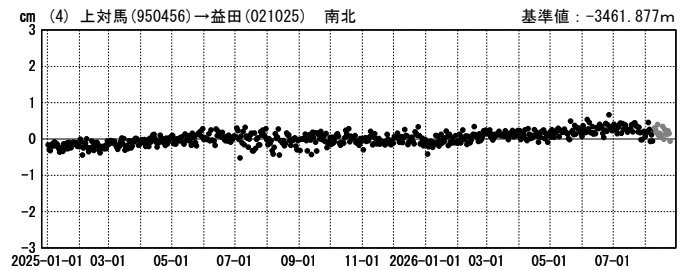
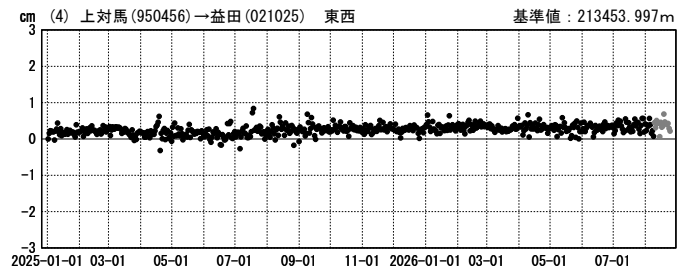
期間：2025-01-01～2026-08-24 JST



期間：2022-01-01～2026-08-24 JST



期間：2025-01-01～2026-08-24 JST

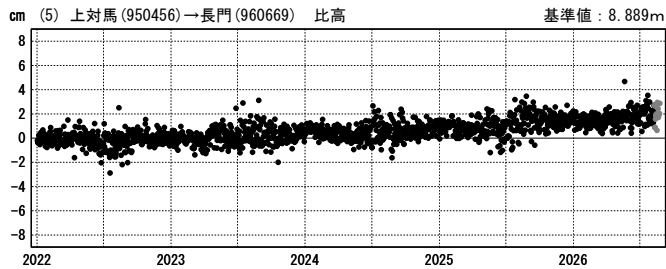
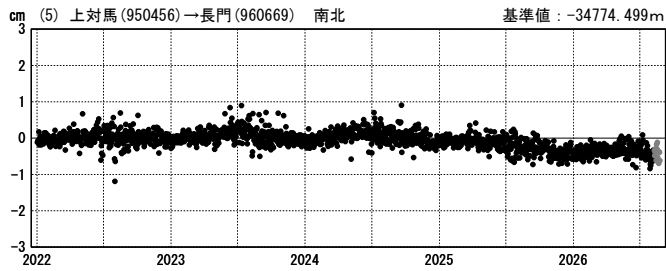
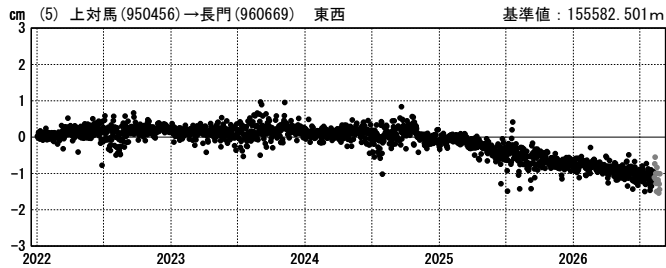


●—[F5. 1:最終解] ●—[R5. 1:速報解]

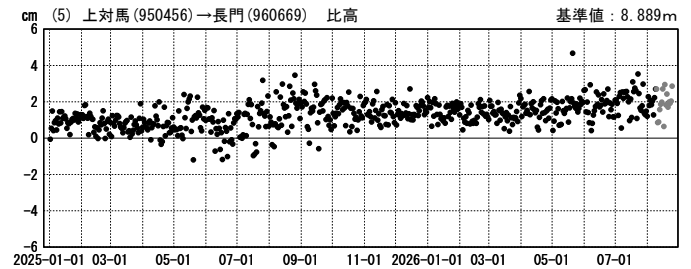
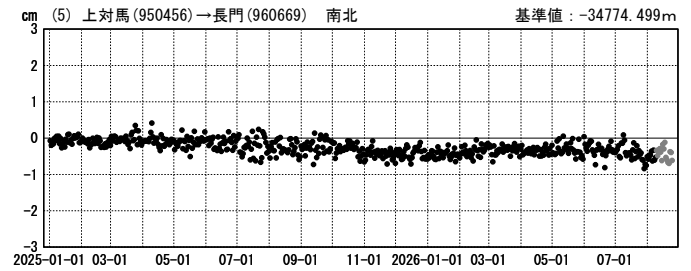
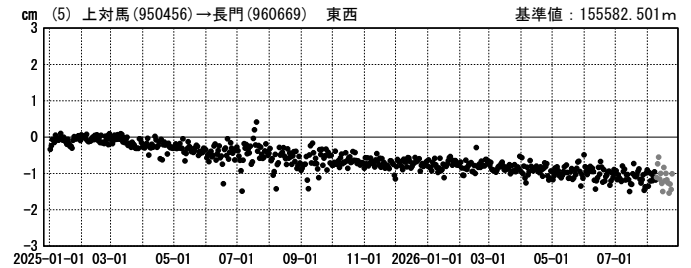
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

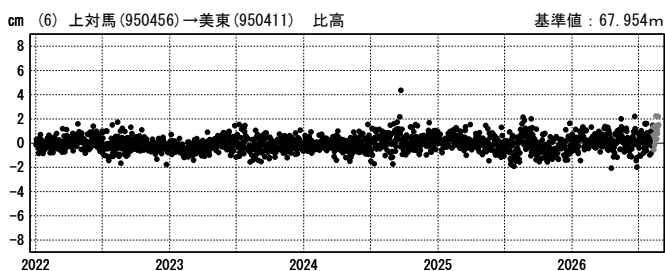
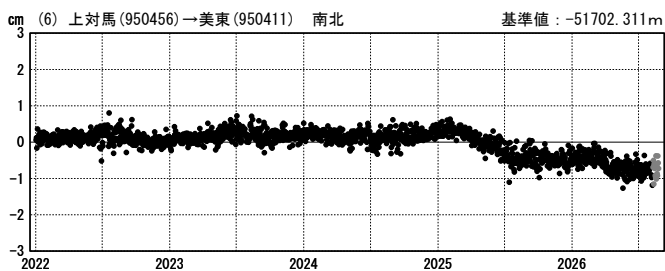
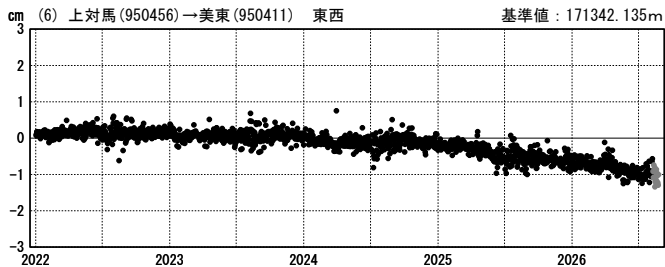
期間：2022-01-01～2026-08-24 JST



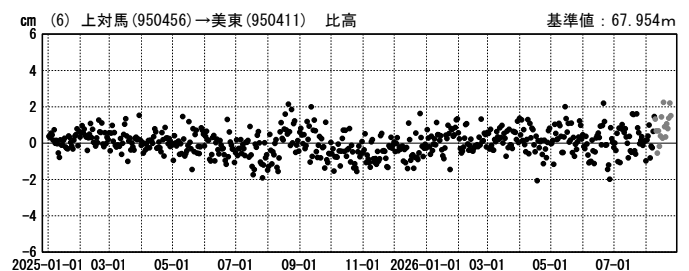
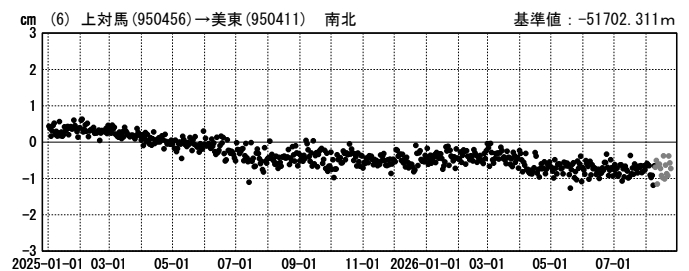
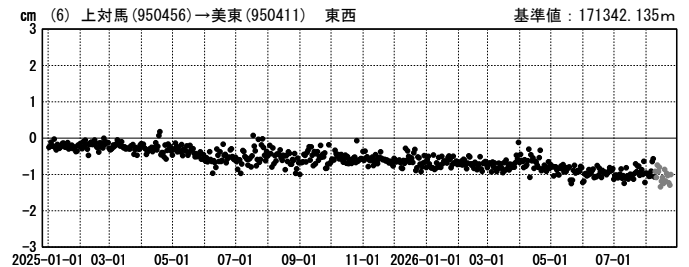
期間：2025-01-01～2026-08-24 JST



期間：2022-01-01～2026-08-24 JST



期間：2025-01-01～2026-08-24 JST

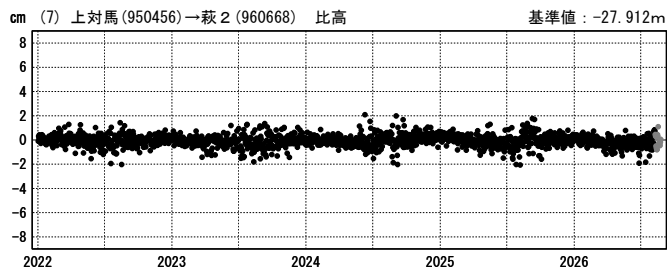
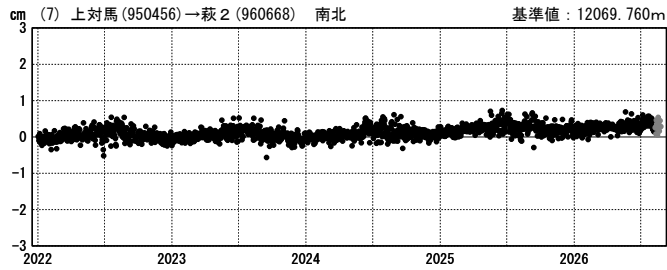
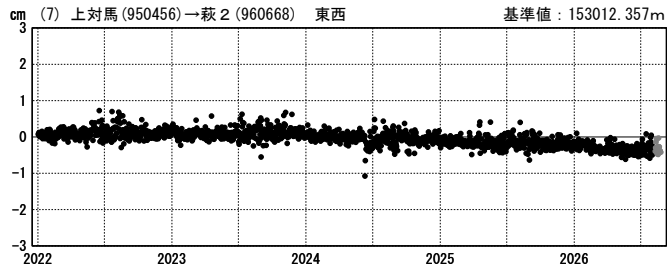


●—[F5. 1:最終解] ●—[R5. 1:速報解]

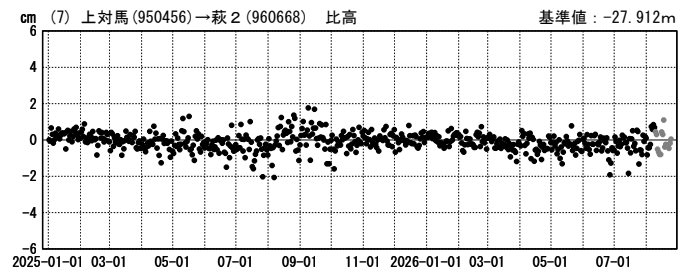
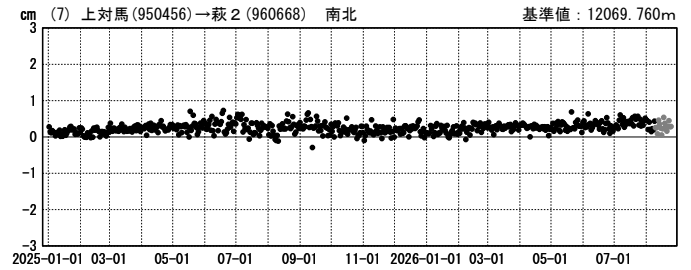
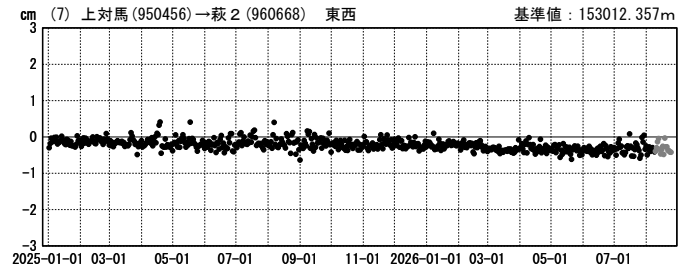
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

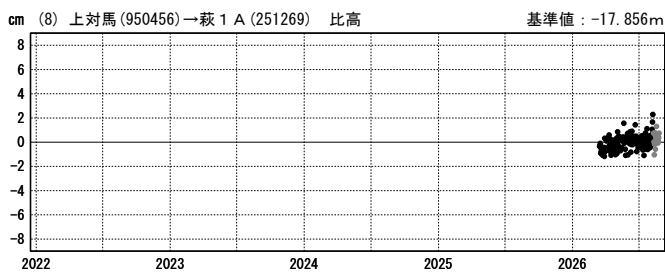
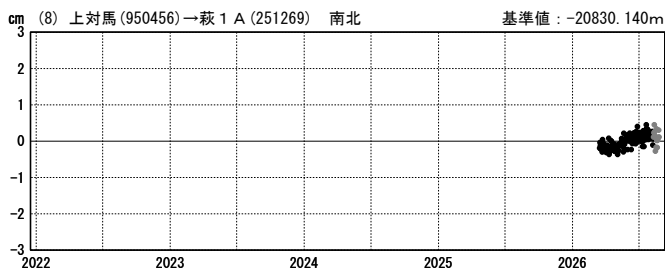
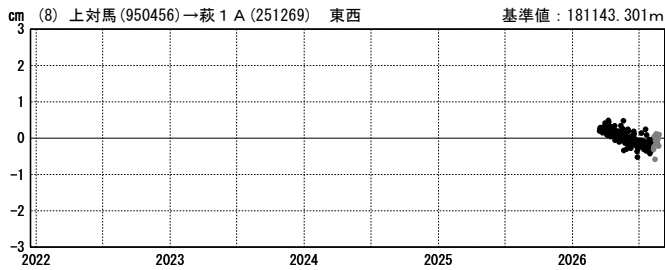
期間：2022-01-01～2026-08-24 JST



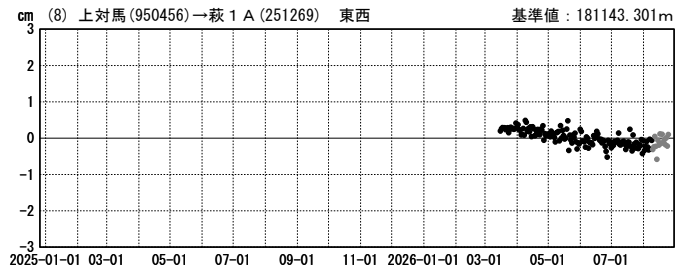
期間：2025-01-01～2026-08-24 JST



期間：2022-01-01～2026-08-24 JST



期間：2025-01-01～2026-08-24 JST



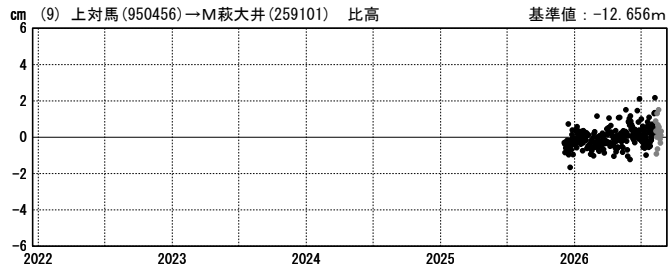
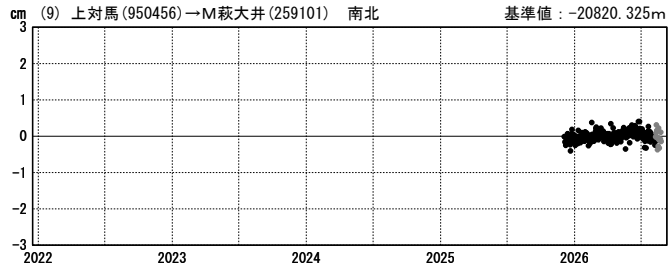
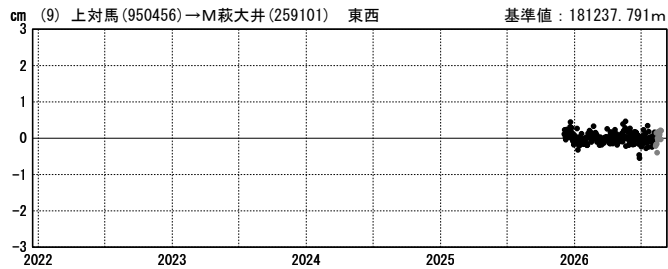
※萩1 Aを含む基線は2026年3月以前の観測データが存在しないため1次トレンドの補正は実施していない。

●—[F5. 1:最終解] ●—[R5. 1:速報解]

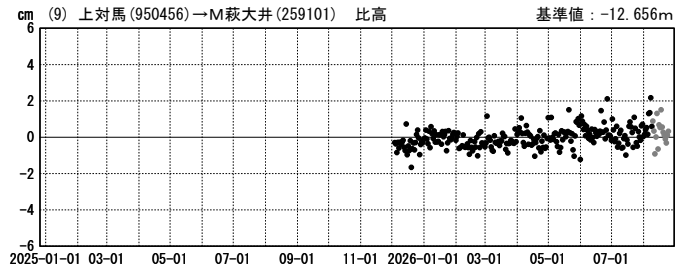
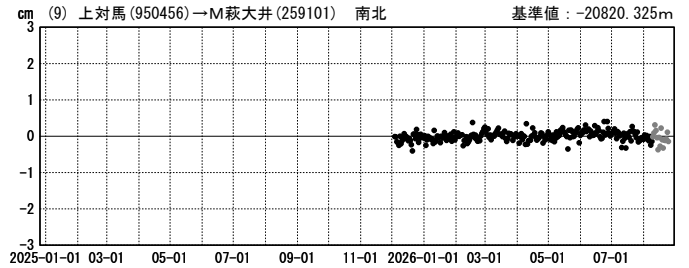
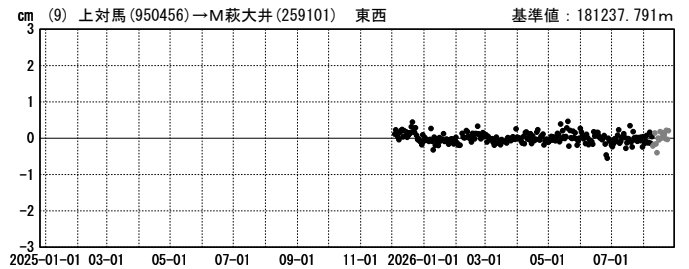
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

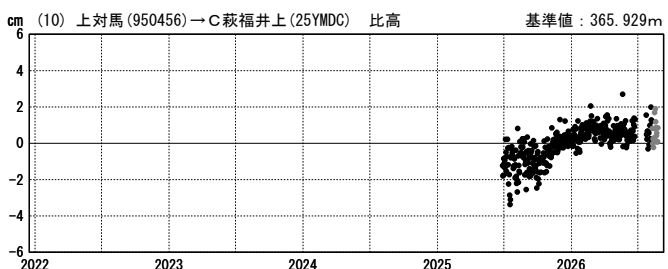
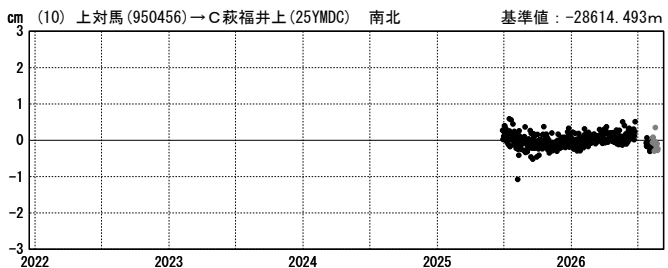
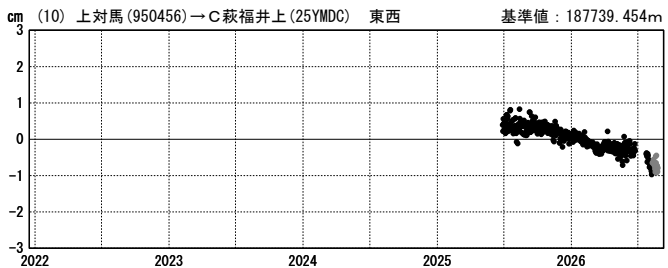
期間：2022-01-01～2026-08-24 JST



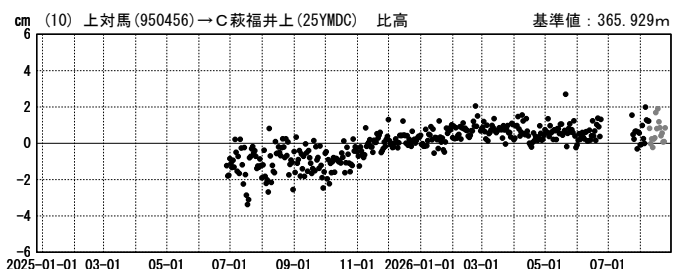
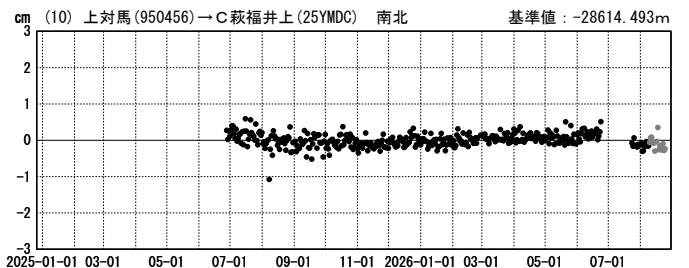
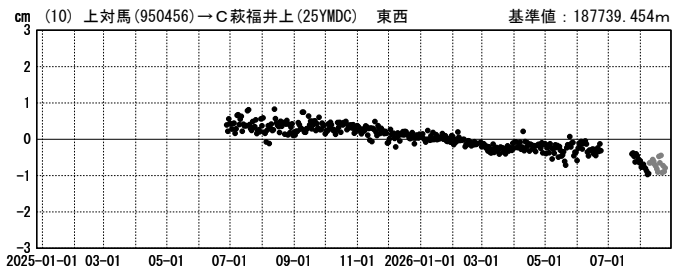
期間：2025-01-01～2026-08-24 JST



期間：2022-01-01～2026-08-24 JST



期間：2025-01-01～2026-08-24 JST



※M萩大井、C萩福井上を含む基線はそれぞれ2025年12月、2025年6月以前の観測データが存在しないため1次トレンドの補正は実施していない。

●—[F5. 1:最終解] ●—[R5. 1:速報解]

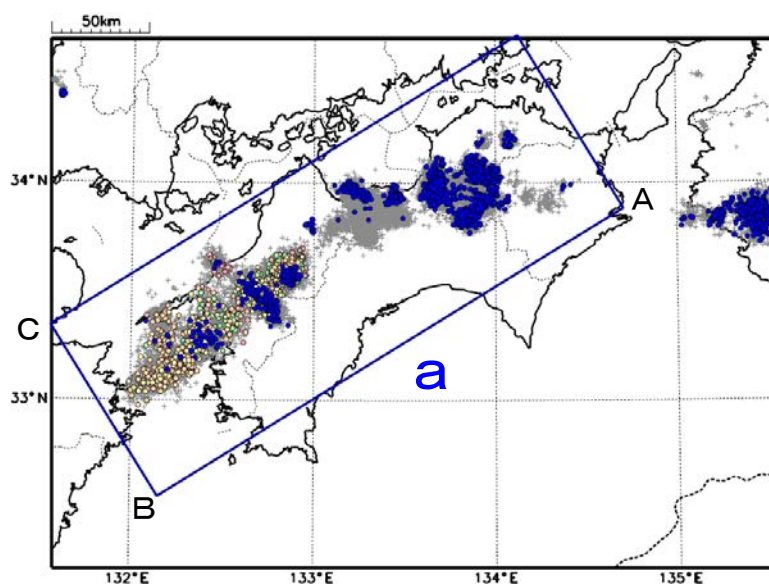
四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

7月29日から8月11日にかけて、四国西部で深部低周波地震（微動）を観測した。

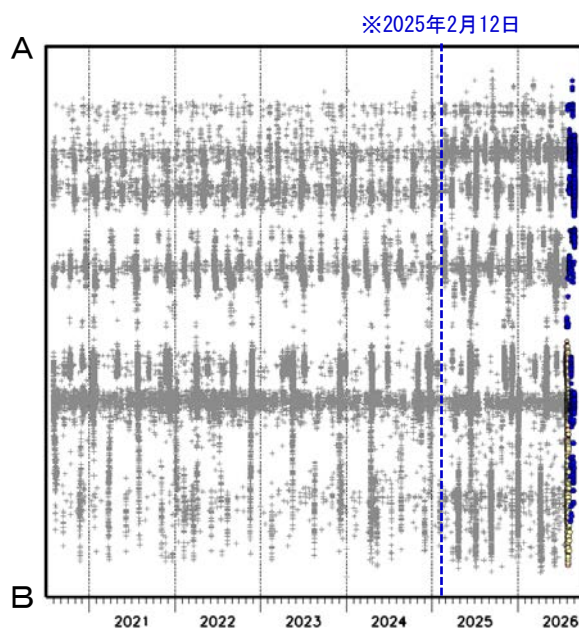
深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震（微動）活動

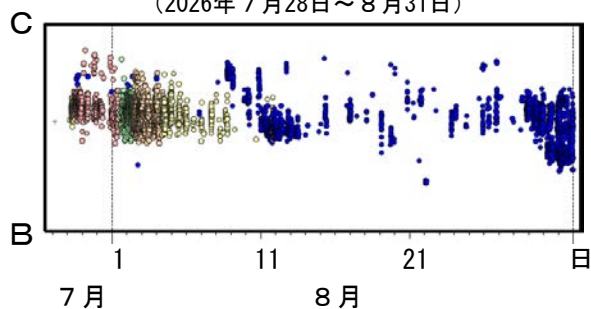
震央分布図
(2020年8月1日～2026年8月31日、
深さ0～60km、Mすべて)



領域a内の時空間分布図
(A－B投影)



領域a内の時空間分布図（B－C投影）
(2026年7月28日～8月31日)



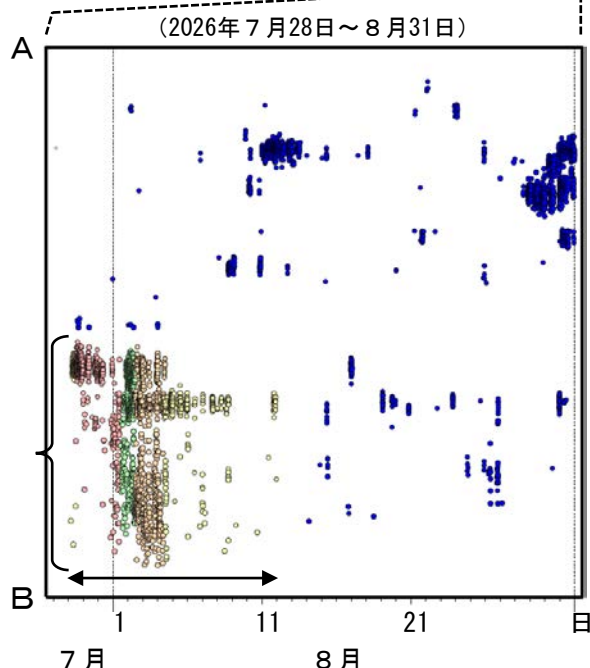
凡例

- ＋：2020年8月1日～2026年7月28日
- ：2026年7月29日～

ただし、ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動の色分けは以下のとおり。

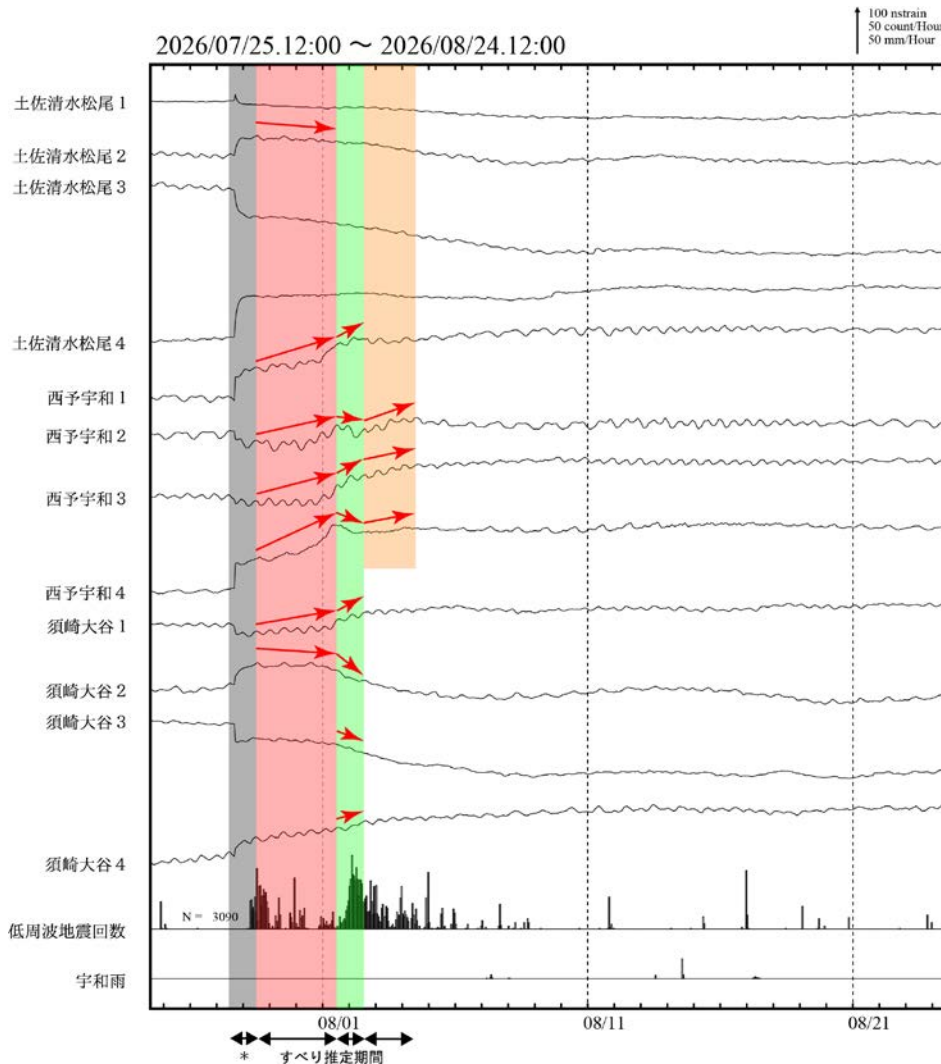
四国西部

- ：7月29日00時～12時
- ：7月29日12時～8月1日12時
- ：8月1日12時～2日12時
- ：8月2日12時～4日12時
- ：8月4日12時～11日24時

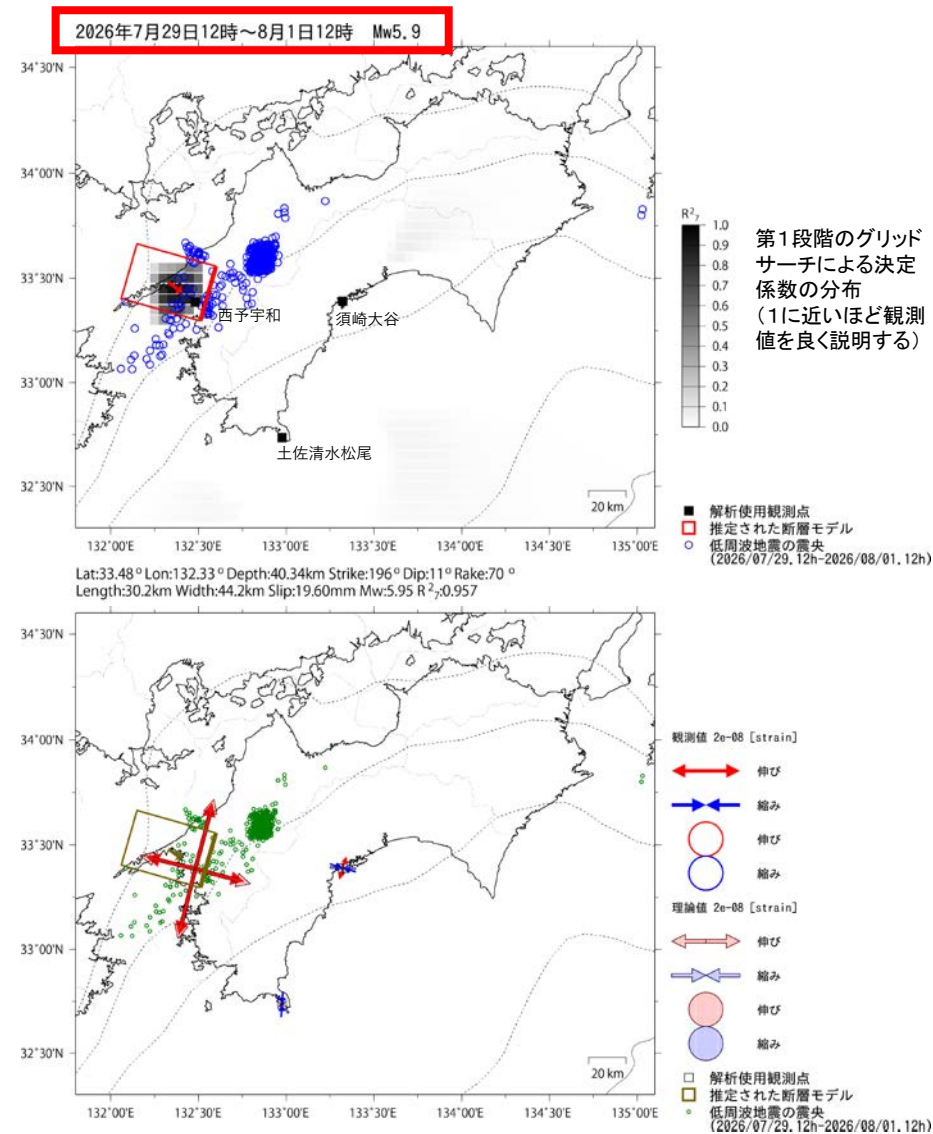


四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり(7月29日～8月4日)

高知県から愛媛県で観測されたひずみ変化



土佐清水松尾、西予宇和及び須崎大谷は産業技術総合研究所のひずみ計である。
解析に使用したチャンネルについては背景色を塗り、そのうち有意な変化が見られたチャンネルに赤矢印を描画している。
低周波地震回数はゆっくりすべりを示す断層モデル周辺で発生したものを積算している。
*の期間に地震(2026/7/28 令和8年熊本地震)の影響による波形の変化が見られる。

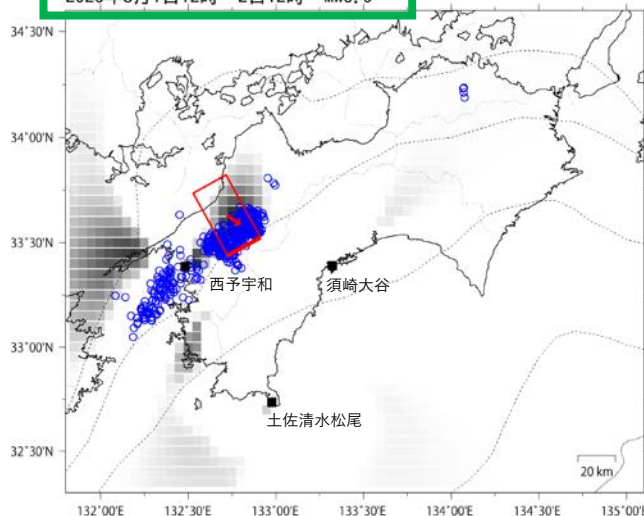


左図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

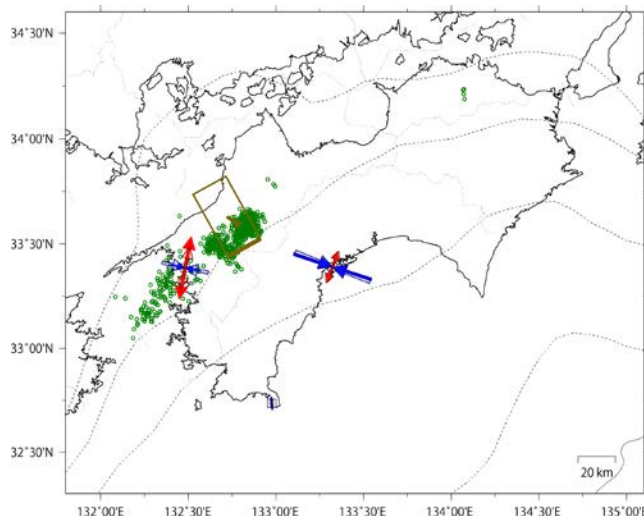
断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり(7月29日～8月4日)

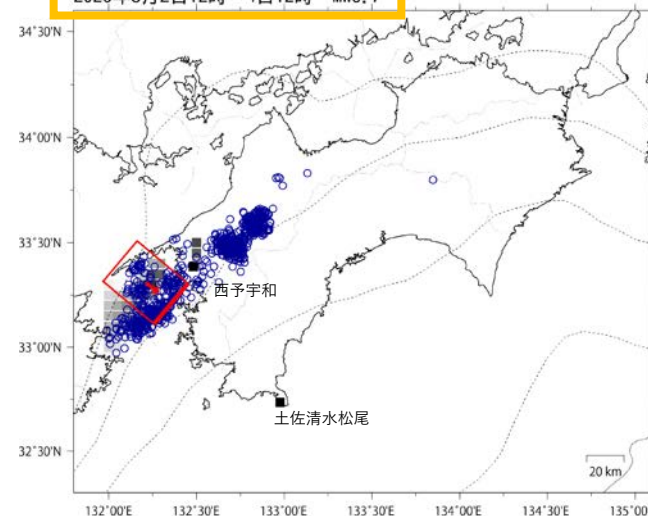
2026年8月1日12時～2日12時 Mw5.6



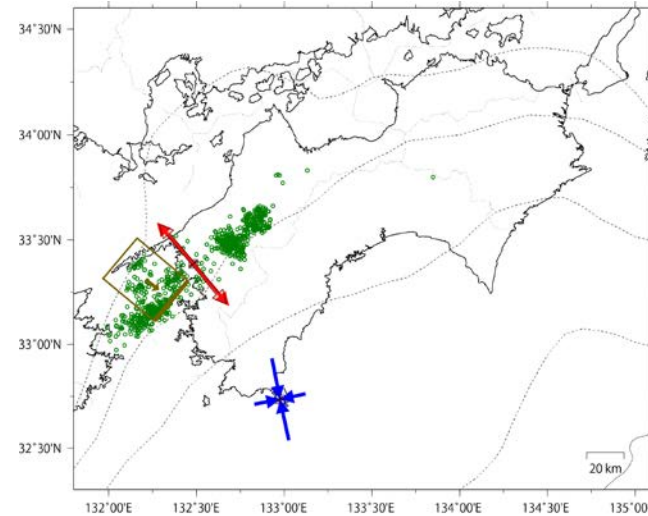
Lat:33.63° Lon:132.72° Depth:23.51km Strike:241° Dip:2° Rake:117°
Length:19.8km Width:37.8km Slip:12.40mm Mw:5.65 $R^2:0.933$



2026年8月2日12時～4日12時 Mw5.7



Lat:33.31° Lon:132.21° Depth:38.40km Strike:220° Dip:14° Rake:93°
Length:28.0km Width:36.3km Slip:12.00mm Mw:5.72 $R^2:0.811$



参考

第1段階のグリッドサーチによる決定係数の分布
(1に近いほど観測値を良く説明する)



■ 解析使用観測点
□ 推定された断層モデル
○ 低周波地震の震央
(2026/08/02, 12h-2026/08/04, 12h)

前頁に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

四国の深部低周波微動活動状況（2026 年 8 月）



防災科研



- 7 月 30 日～8 月 7 日頃に四国西部から豊後水道において、活発な微動活動。
- 8 月 27 日頃より四国東部から中部において、微動活動が開始。

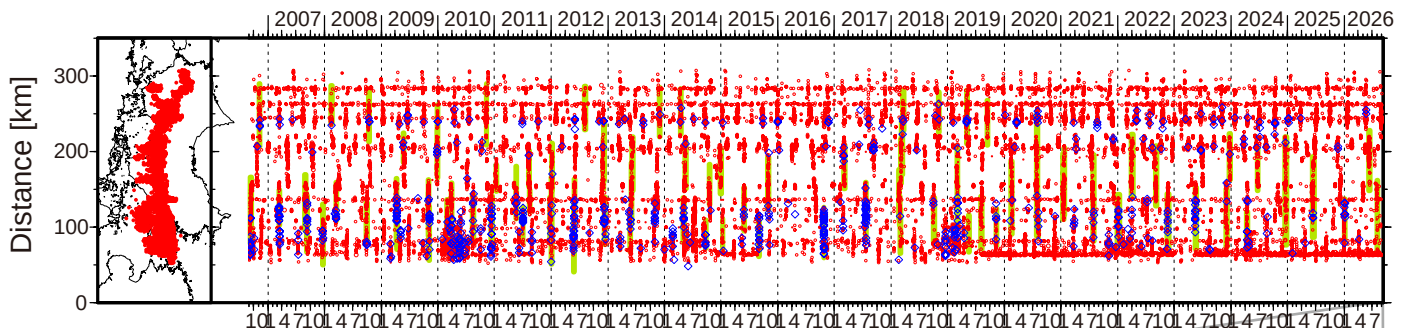


図 1. 四国における 2006 年 9 月～2026 年 9 月 2 日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）。赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって 1 時間毎に自動処理された微動分布の重心である。青菱形は

周期 20 秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である。黄緑色太線は、これまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す。下図は 2026 年 8 月を中心とした期間の拡大図である。7 月 30 日～8 月 7 日頃には、愛媛県西部から豊後水道で活発な微動活動がみられた。この活動は愛媛県西部で開始し、2 日頃からは豊後水道付近への活動域の拡大がみられた。ただし、7 月 28 日 16:27 頃に発生した令和 8 年熊本地震の余震活動により、検出は影響を受けている可能性がある。この活動に際して、傾斜変動から短期的 SSE の断層モデルも推定されている。8 月 27 日頃からは愛媛・香川・徳島県境付近で微動活動が開始し、29 日頃から活発化するとともに東西両方向への拡大がみられる。8 月 10～12 日頃には愛媛・香川・徳島県境付近から香川・徳島県境付近で小規模な活動がみられた。8 月 26 日頃には愛媛県西部でごく小規模な活動がみられた。

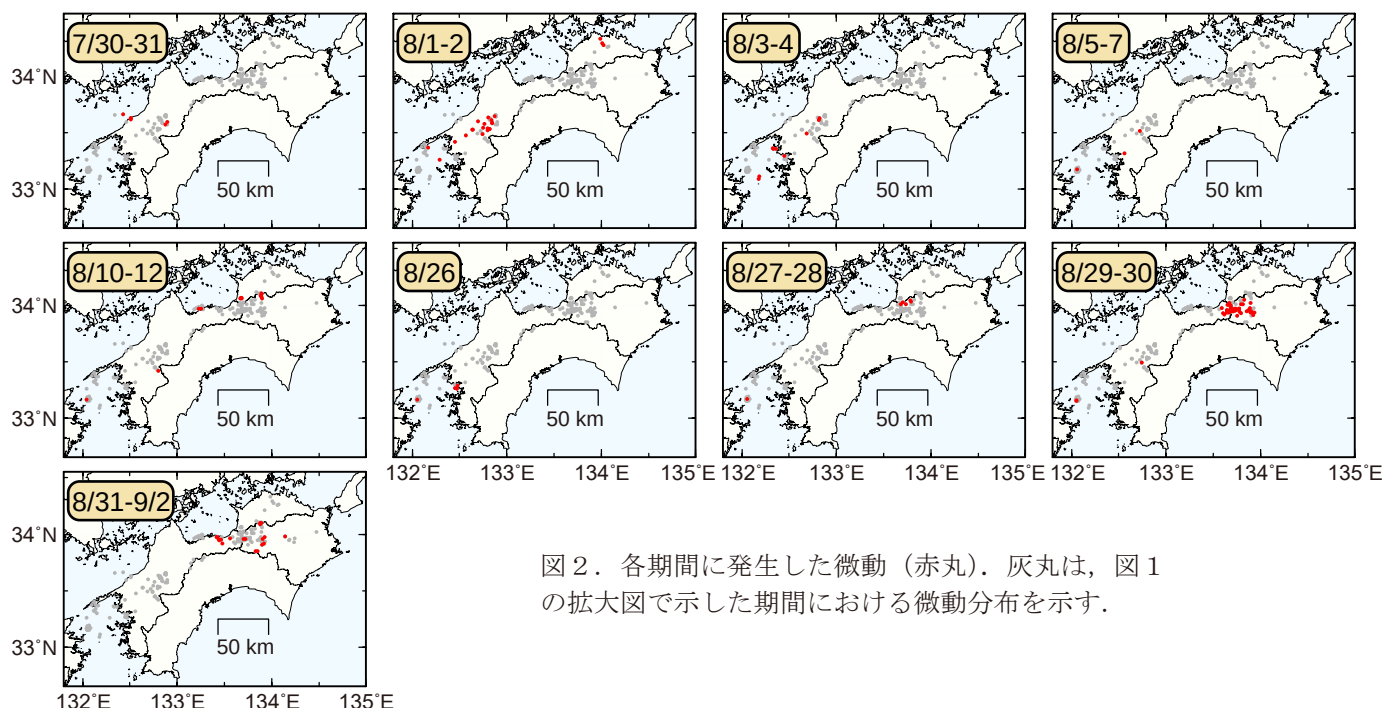


図 2. 各期間に発生した微動（赤丸）。灰丸は、図 1 の拡大図で示した期間における微動分布を示す。

再掲

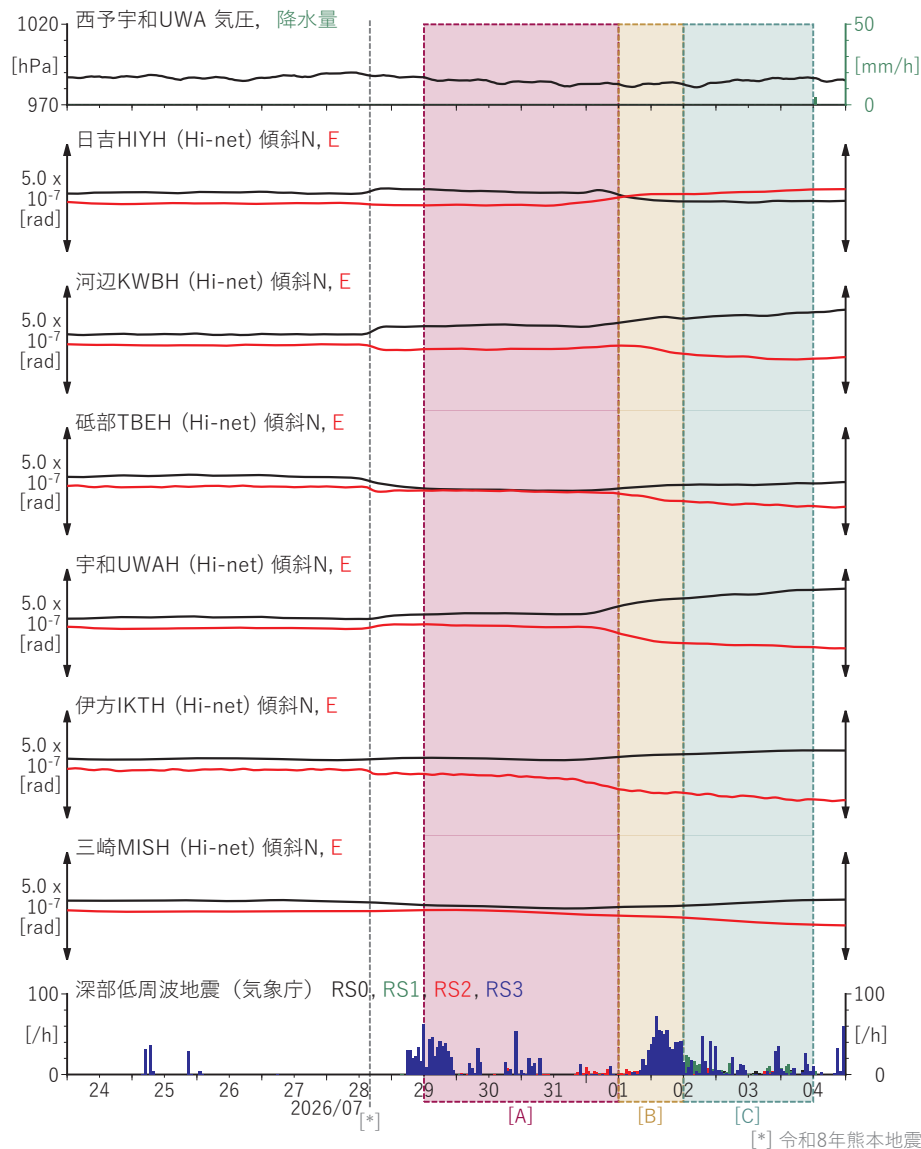
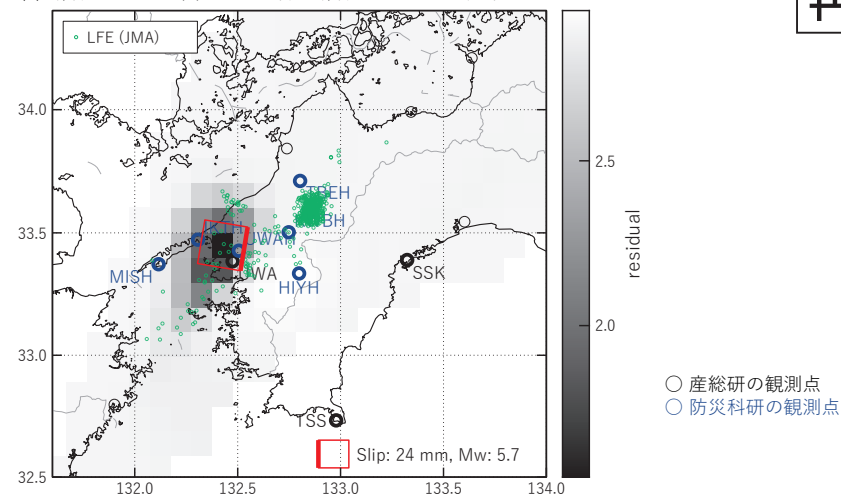


図2 歪・傾斜の時間変化(2) (2026/07/24 00:00–2026/08/05 00:00 (JST))

再掲

[A] 2026/07/29PM –08/01AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル

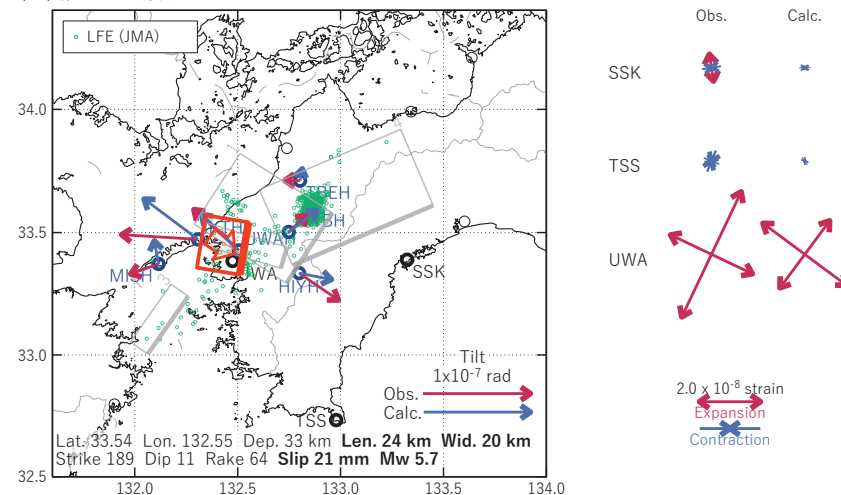


図3 2026/07/29PM–08/01AMの歪・傾斜変化(図2[A])を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

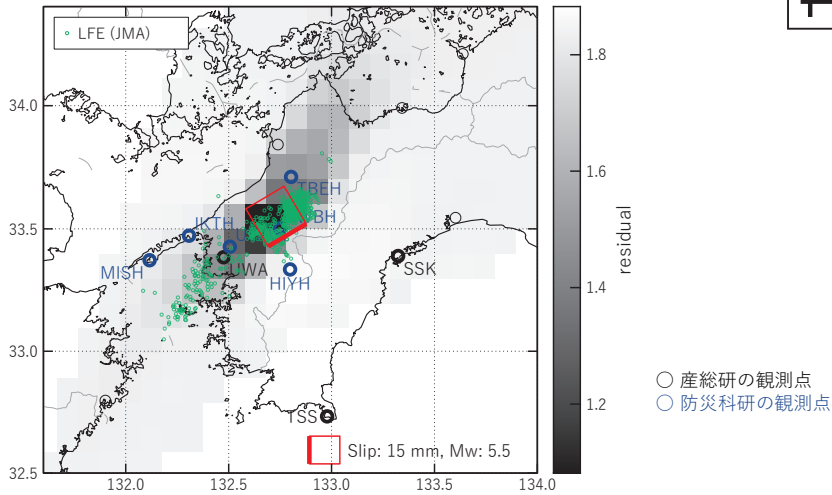
(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2025/06/10–14 (Mw 6.0), 2: 2026/01/03–05 (Mw 6.0), 3: 2026/04/06–09 (Mw 5.8), 4: 2026/05/01PM–08AM (Mw 6.0),

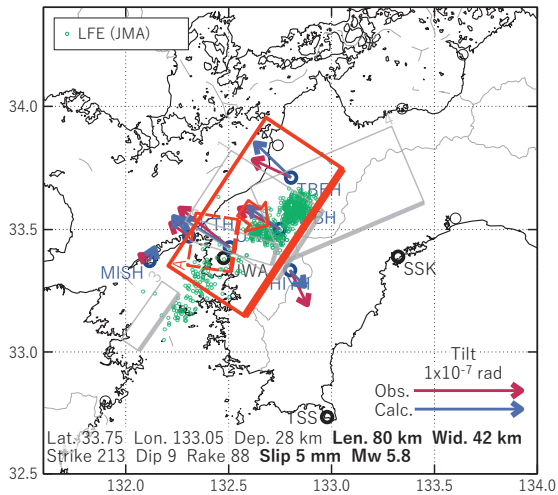
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B] 2026/08/01PM -02AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



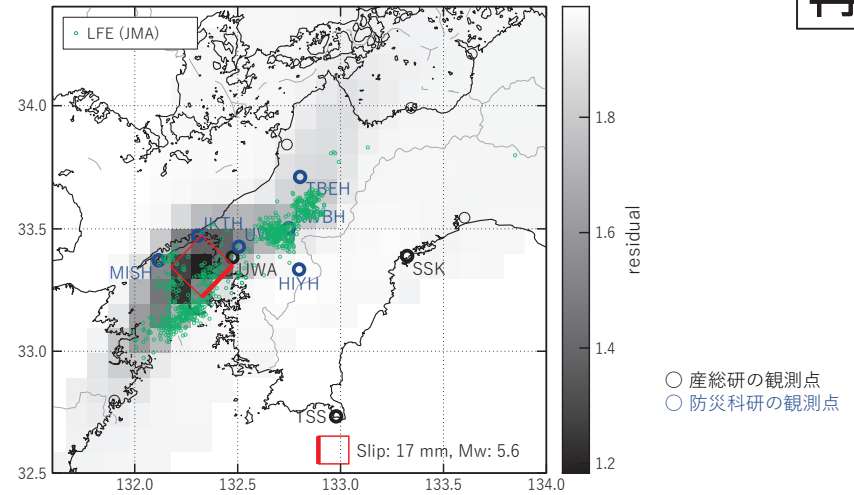
(b1) 推定した断層モデル



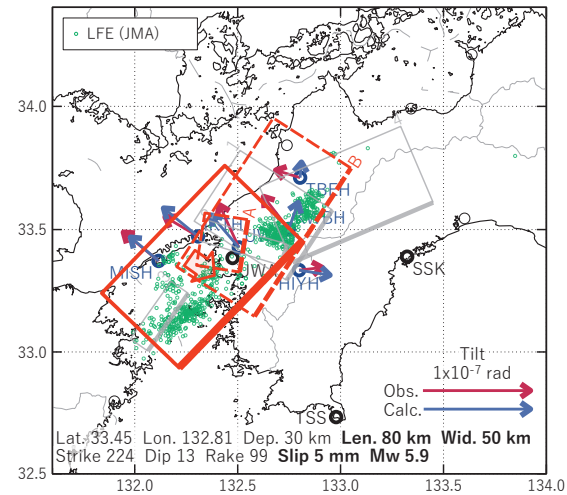
再掲

[C] 2026/08/02PM -04AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



再掲

図4 2026/08/01PM-02AMの歪・傾斜変化（図2[B]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

1: 2025/06/10-14 (Mw 6.0), 2: 2026/01/03-05 (Mw 6.0), 3: 2026/04/06-09 (Mw 5.8), 4: 2026/05/01PM-08AM (Mw 6.0), A: 2026/07/29PM-08/01AM (Mw 5.7)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

図5 2026/08/02PM-04AMの歪・傾斜変化（図2[C]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2025/06/10-14 (Mw 6.0), 2: 2026/01/03-05 (Mw 6.0), 3: 2026/04/06-09 (Mw 5.8), 4: 2026/05/01PM-08AM (Mw 6.0), A: 2026/07/29PM-08/01AM (Mw 5.7), B: 2026/08/01PM-02AM (Mw 5.8)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

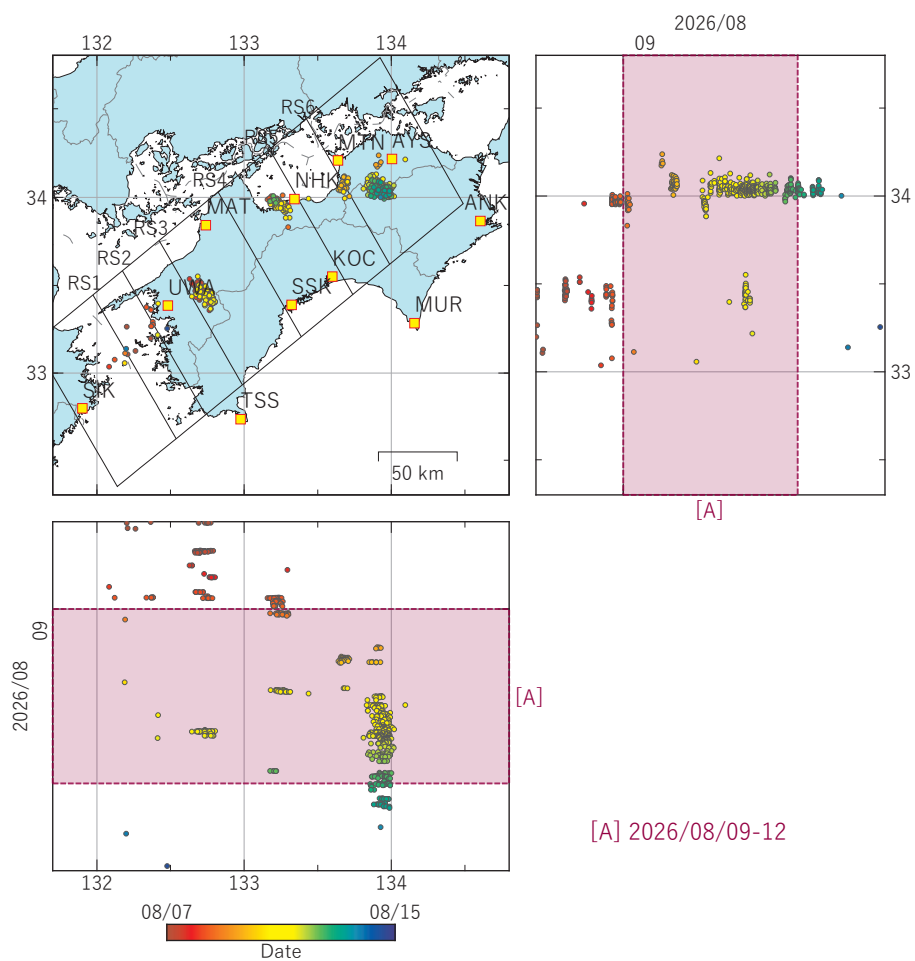


図6 四国地方における低周波地震の時空間分布図（2026/08/07 00:00 - 2026/08/15 00:00 (JST)）。気象庁カタログによる。
 (観測点名) ANK: 阿南桑野, MUR: 室戸岬, AYS: 綾川千疋, MTN: 三豊仁尾, NHK: 新居浜黒島, KOC: 高知五台山, SSK: 須崎大谷, TSS: 土佐清水松尾, MAT: 松山南江戸, UWA: 西予宇和, SIK: 佐伯蒲江

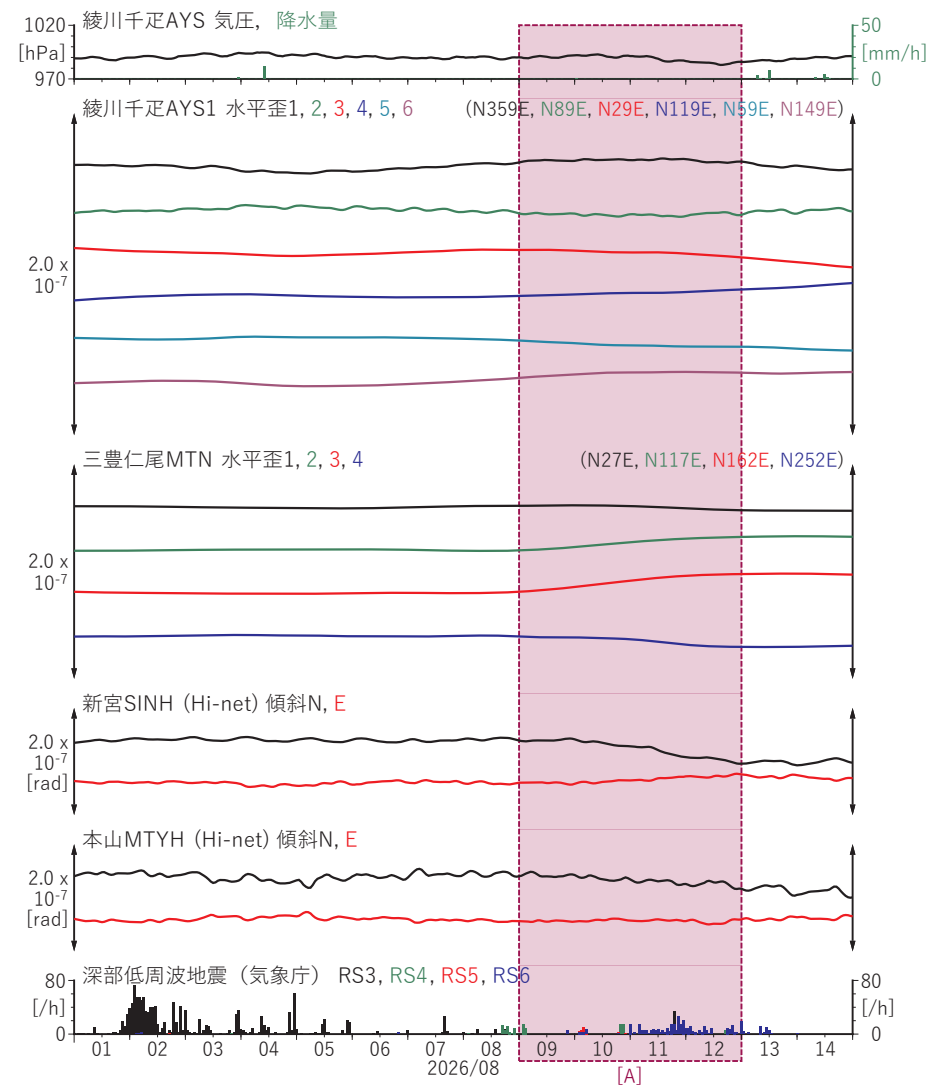
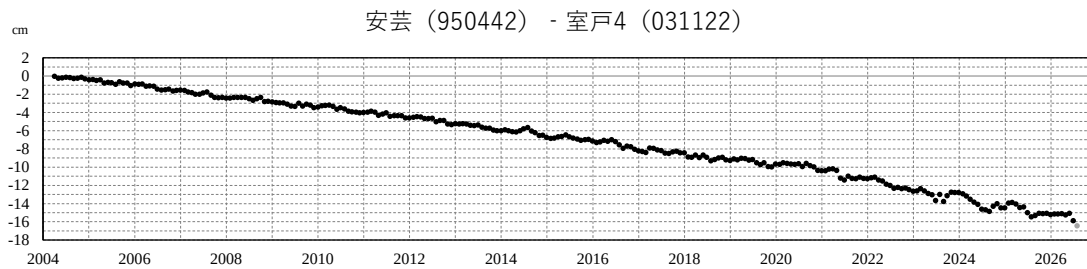
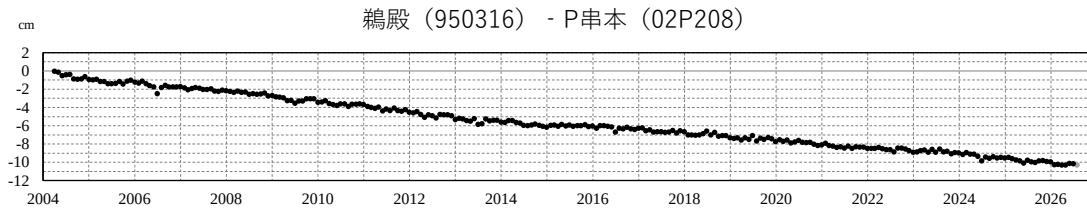


図7 四国地方における歪・傾斜観測結果（2026/08/01 00:00 - 2026/08/15 00:00 (JST)）

紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

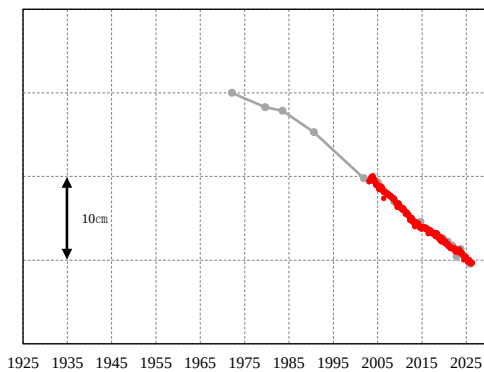
水準測量とGNSS連続観測

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。

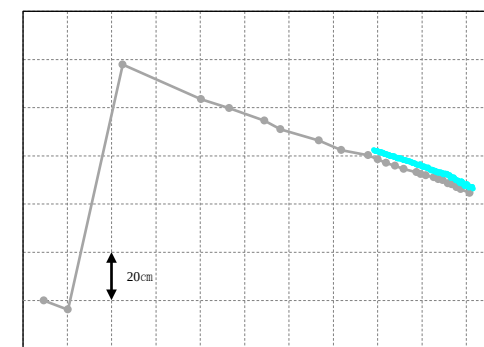


● --- [F5.1: 最終解] ● --- [F5.1: 最終解] 2026-08-01/2026-08-08 + [R5.1: 速報解] 2026-08-09/2026-08-23

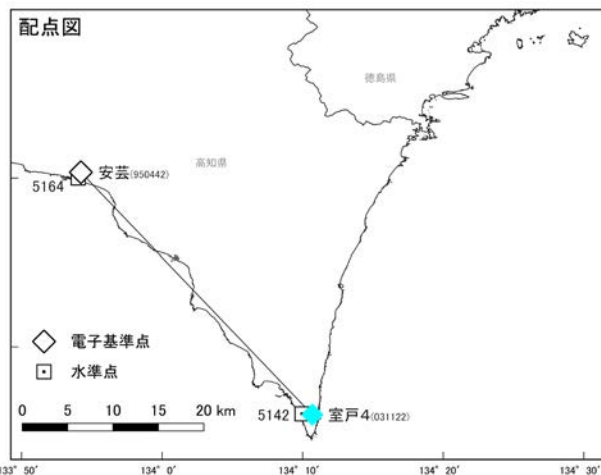
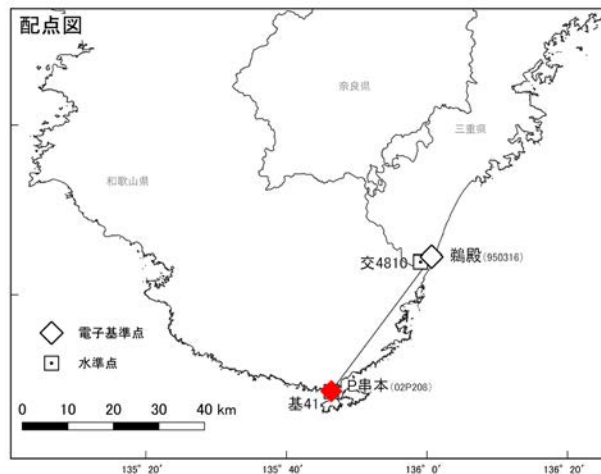
【長期間の上下変動】



1925 1935 1945 1955 1965 1975 1985 1995 2005 2015 2025



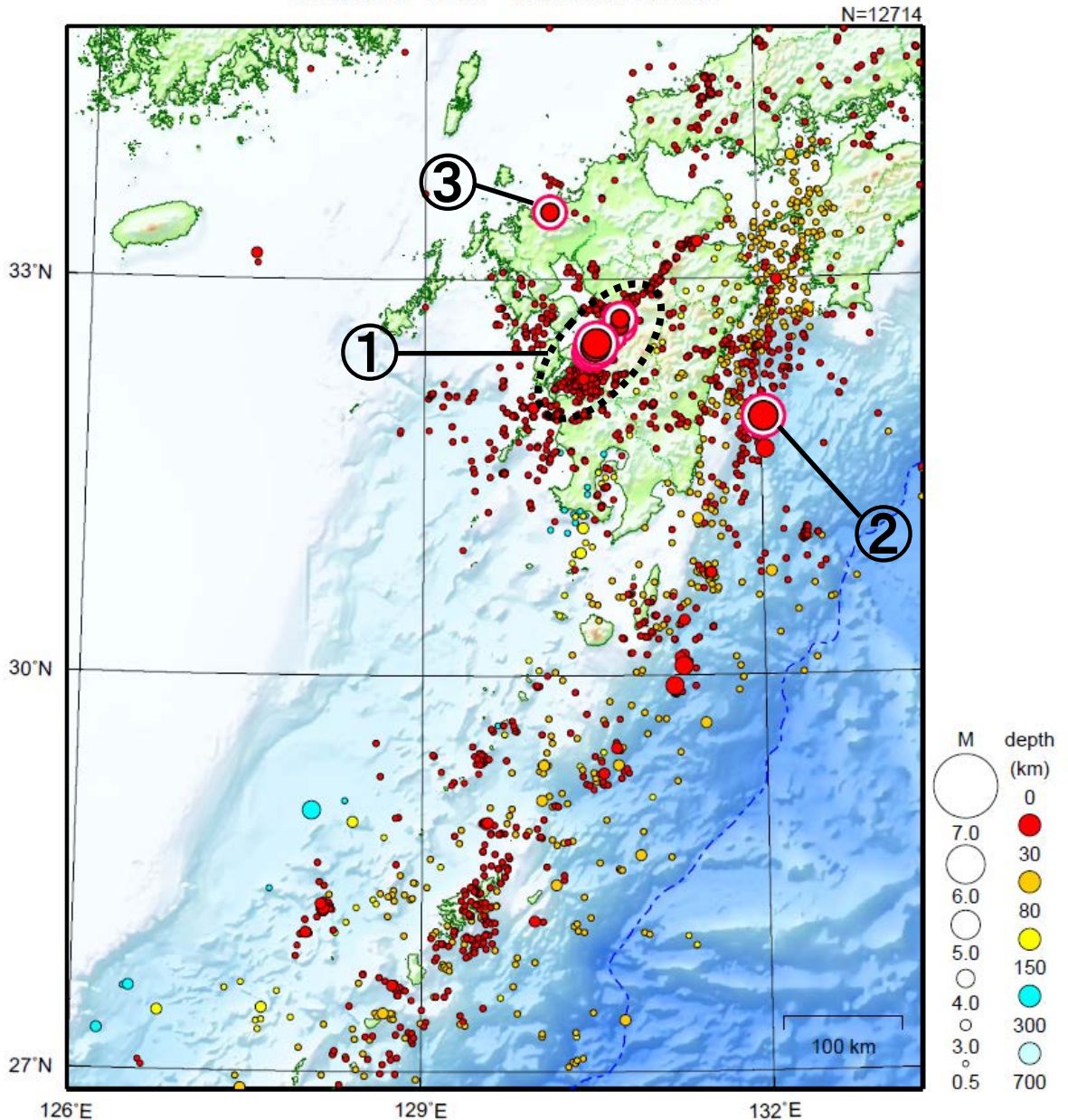
1925 1935 1945 1955 1965 1975 1985 1995 2005 2015 2025



- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5.1: 最終解及びR5.1:速報解) から計算した値の月平均値。
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点の水準測量結果を示している (固定: 交4810, 5164)。
- ※ 2021年2月2日に電子基準点「安芸」のアンテナ更新及びレドーム交換を実施した。
- ※ 2024年11月25日に電子基準点「鵜殿」のアンテナ更新を実施した。

九州地方

2026/08/01 00:00 ~ 2026/08/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 「令和 8 年熊本地震」の地震活動域では、8 月中に震度 1 以上を観測した地震が 301 回（震度 5 弱：1 回、震度 4：6 回、震度 3：22 回、震度 2：56 回、震度 1：216 回）
(注) 発生した。このうち最大規模の地震は、6 日に発生した M5.1 の地震（最大震度 4）である。
- ② 8 月 2 日に日向灘で M5.3 の地震（最大震度 3）が発生した。
- ③ 8 月 17 日に福岡県福岡地方で M4.2 の地震（最大震度 4）が発生した。

(注) 掲載している地震回数は、後日の調査でさらに変更になることがある。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

「令和 8 年熊本地震」の地震活動

2026年 7 月28日16時27分に熊本県熊本地方の深さ16kmでM7.1の地震（最大震度 7）が発生した。この地震の後、今回の地震活動域では、地震活動が活発となった。

今回の地震活動域は、北東－南西に伸びる50km程度の範囲に広がっている。8 月末現在、この領域の地震活動は、地震の発生数は平常時と比べて多い状態が継続しているが、大局的には緩やかに減少している。

今回の地震活動域付近では 8 月に震度 1 以上を観測した地震が、301回（震度 5 弱：1 回、震度 4：6 回、震度 3：22回、震度 2：56回、震度 1：216回）^(注)発生した。8 月に発生した最大規模の地震は、6 日07時59分に発生したM5.1の地震（深さ12km、最大震度 4）である。この地震の発震機構（CMT解）は北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。また、8 月に最大震度を観測した地震は 1 日21時47分に発生したM4.7の地震（深さ11km、最大震度 5 弱）である。これらの地震は地殻内で発生した。

今回の地震活動により、死者38人（災害関連死の可能性のある死者を含む）、負傷者368人、住家全壊 1,796棟、半壊3,457棟などの被害が生じた（被害は2026年 8 月31日17時00分現在、総務省消防庁による）。

（注）掲載している地震回数は、後日の調査でさらに変更になることがある。

表 「令和 8 年熊本地震」による被害状況
（令和 8 年 8 月 31 日 17 時 00 分現在、総務省消防庁による）

都道府県	人的被害					住家被害			
	死者※	負傷者			合計	全壊	半壊	一部破損	合計
		重傷	軽傷等	小計					
		人	人	人		棟	棟	棟	棟
福岡県		1	1	2	2			8	8
熊本県	38	33	331	364	402	1,796	3,457	30,985	36,238
大分県			1	1	1				
鹿児島県			1	1	1				
合 計	38	34	334	368	406	1,796	3,457	30,993	36,246

※災害による負傷の悪化又は身体的負担による疾病により死亡した可能性のある死者 2 人を含む

2000年10月以降の活動を見ると、今回の地震活動域の周辺（領域a）では「平成28年（2016年）熊本地震」が発生している。「平成28年（2016年）熊本地震」では、熊本県で死者275人、大分県で死者3人などの被害が生じた（熊本県は2025年4月11日現在、熊本県による、その他は2019年4月12日現在、総務省消防庁による）。

震央分布図

(2000年10月1日～2026年8月31日
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$)

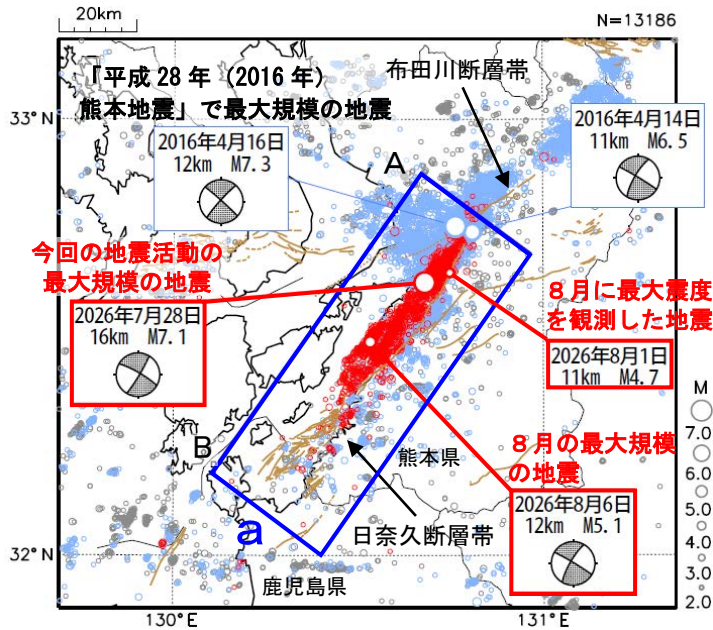
2016年4月14日21時より前に発生した地震を灰色○

2016年4月14日21時以降の地震を水色○、

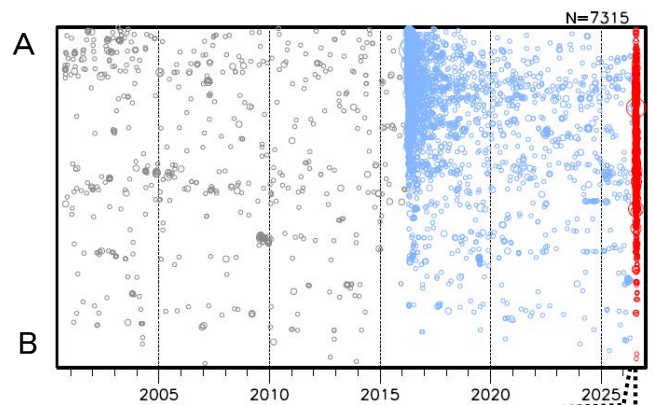
2026年7月28日16時以降の地震を赤色○で表示

茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

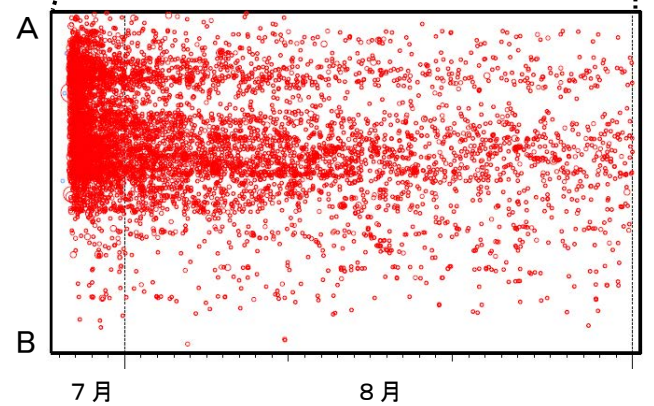
図中の発震機構はCMT解



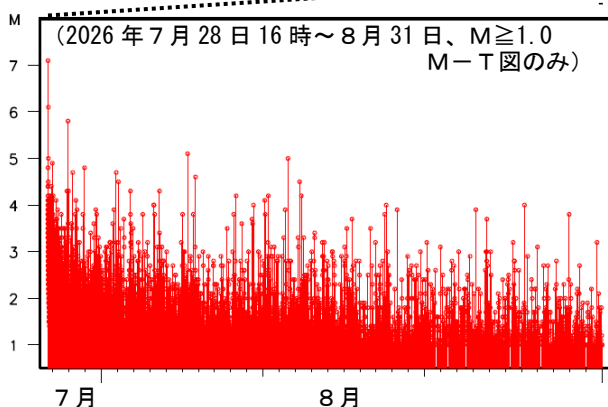
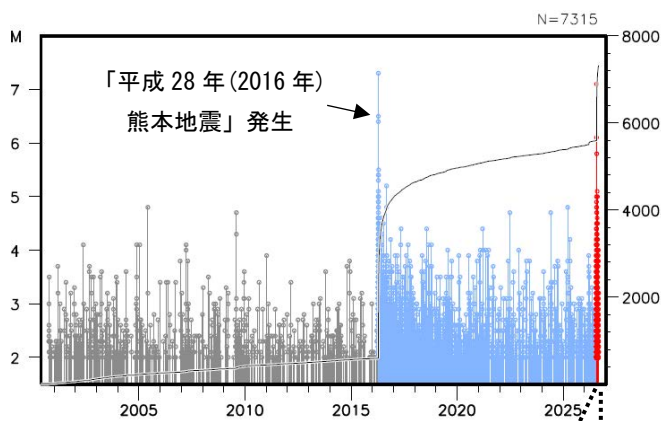
領域a内の時空間分布図（A－B投影）



(2026年7月28日16時～8月31日、 $M \geq 1.0$)



領域a内のM－T図及び回数積算図

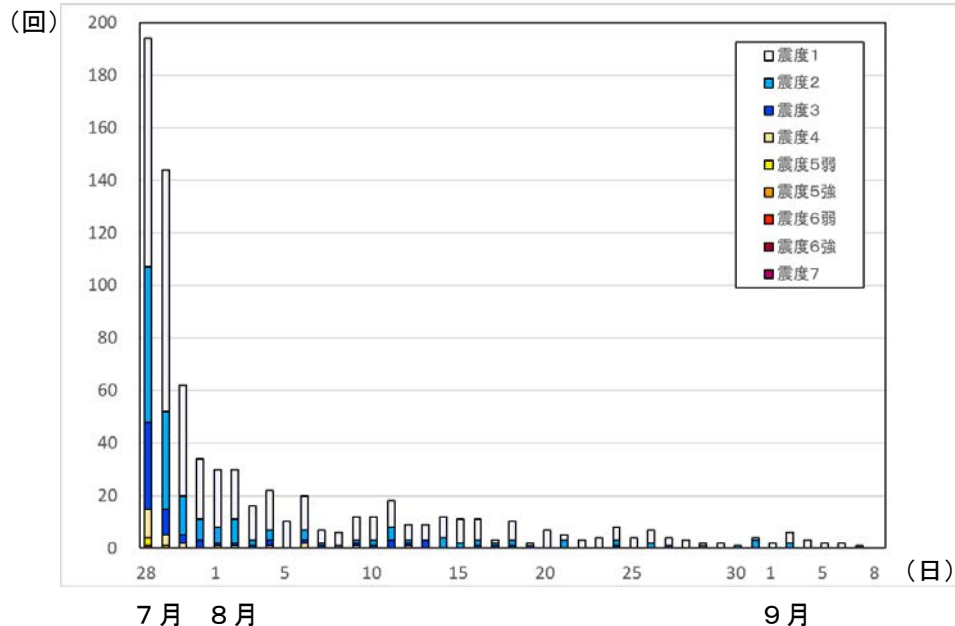


「令和8年熊本地震」の日別最大震度別地震回数表（9月8日08時時点）

月	日	時	最大震度別回数									震度1以上を 観測した回数	
			震度 1	震度 2	震度 3	震度 4	震度 5弱	震度 5強	震度 6弱	震度 6強	震度 7	合計	累計
7	28	16-24	87	59	33	11	3	0	0	0	1	194	194
	29	00-24	92	37	10	4	1	0	0	0	0	144	338
	30	00-24	42	15	3	2	0	0	0	0	0	62	400
	31	00-24	23	8	3	0	0	0	0	0	0	34	434
8	1	00-24	22	6	1	0	1	0	0	0	0	30	464
	2	00-24	19	9	1	1	0	0	0	0	0	30	494
	3	00-24	13	2	1	0	0	0	0	0	0	16	510
	4	00-24	15	4	2	1	0	0	0	0	0	22	532
	5	00-24	10	0	0	0	0	0	0	0	0	10	542
	6	00-24	13	4	1	2	0	0	0	0	0	20	562
	7	00-24	5	1	1	0	0	0	0	0	0	7	569
	8	00-24	5	1	0	0	0	0	0	0	0	6	575
	9	00-24	9	1	1	1	0	0	0	0	0	12	587
	10	00-24	9	2	1	0	0	0	0	0	0	12	599
	11	00-24	10	5	3	0	0	0	0	0	0	18	617
	12	00-24	6	1	1	1	0	0	0	0	0	9	626
	13	00-24	6	0	3	0	0	0	0	0	0	9	635
	14	00-24	8	4	0	0	0	0	0	0	0	12	647
	15	00-24	9	2	0	0	0	0	0	0	0	11	658
	16	00-24	8	2	1	0	0	0	0	0	0	11	669
	17	00-24	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	672
	18	00-24	7	2	1	0	0	0	0	0	0	10	682
	19	00-24	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	684
	20	00-24	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	691
	21	00-24	2	3	0	0	0	0	0	0	0	5	696
	22	00-24	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	699
	23	00-24	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	703
	24	00-24	5	2	1	0	0	0	0	0	0	8	711
	25	00-24	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	715
	26	00-24	5	2	0	0	0	0	0	0	0	7	722
	27	00-24	3	0	1	0	0	0	0	0	0	4	726
	28	00-24	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	729
	29	00-24	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	731
	30	00-24	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	733
	31	00-24	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	735
9	1	00-24	1	3	0	0	0	0	0	0	0	4	739
	2	00-24	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	741
	3	00-24	4	2	0	0	0	0	0	0	0	6	747
	4	00-24	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	750
	5	00-24	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	752
	6	00-24	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	754
	7	00-24	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	755
	8	00-08	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	755
合計			474	180	72	23	5	0	0	0	1	755	

※掲載している地震回数は、後日の調査でさらに変更になることがある。

震度1以上の日別地震回数グラフ（2026年7月28日16時～9月8日08時）

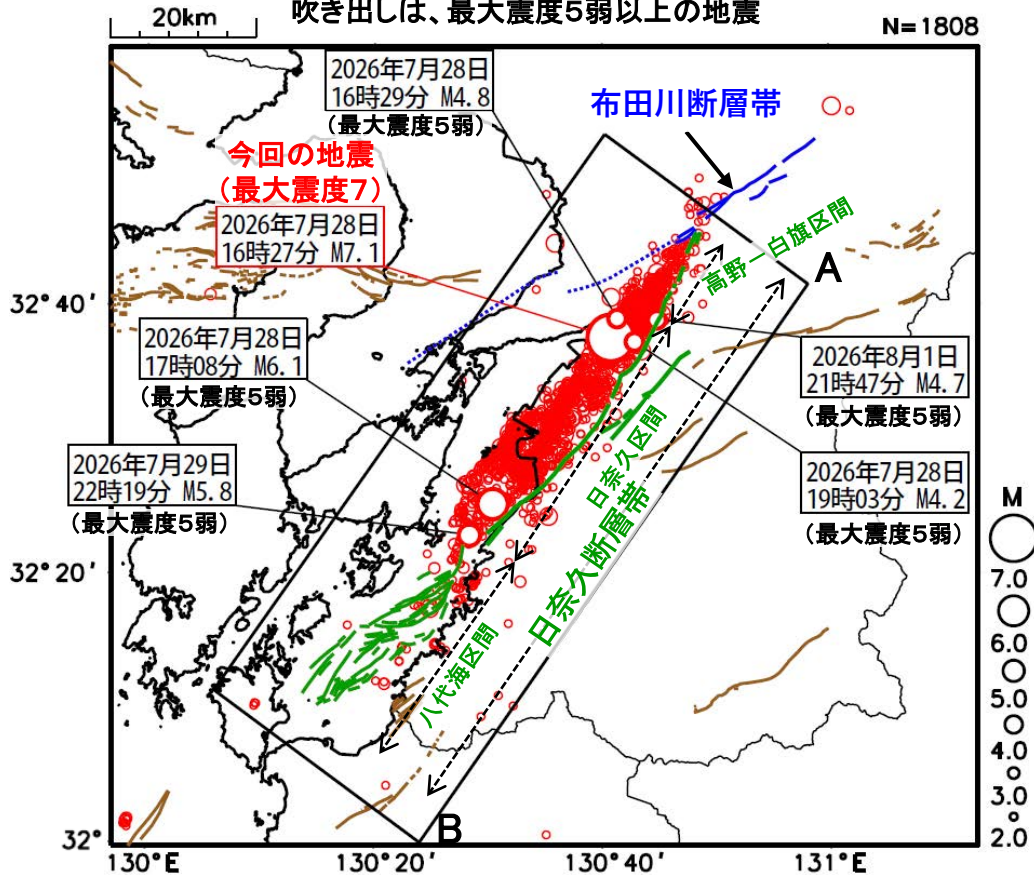


「令和8年熊本地震」の地震活動 (発生場所の詳細)

震央分布図

(2026年7月28日16時～9月8日08時00分、
深さ0～20km、M2.0以上)

吹き出しは、最大震度5弱以上の地震

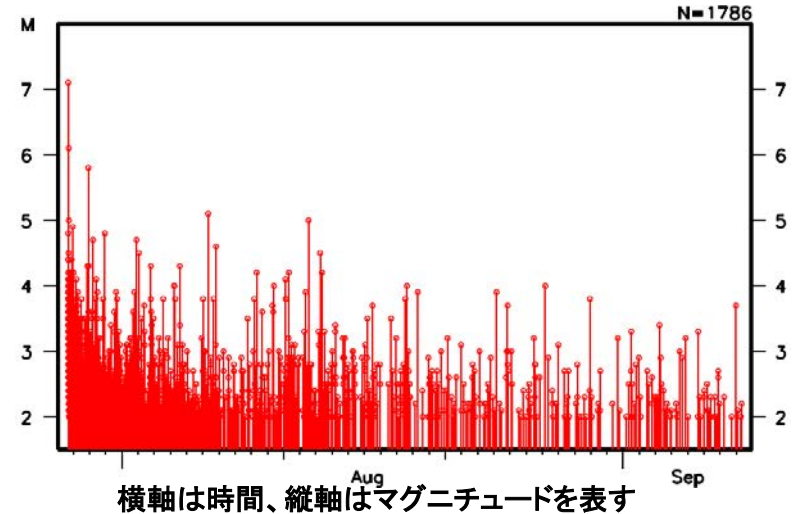


震源は未精査のものを含む

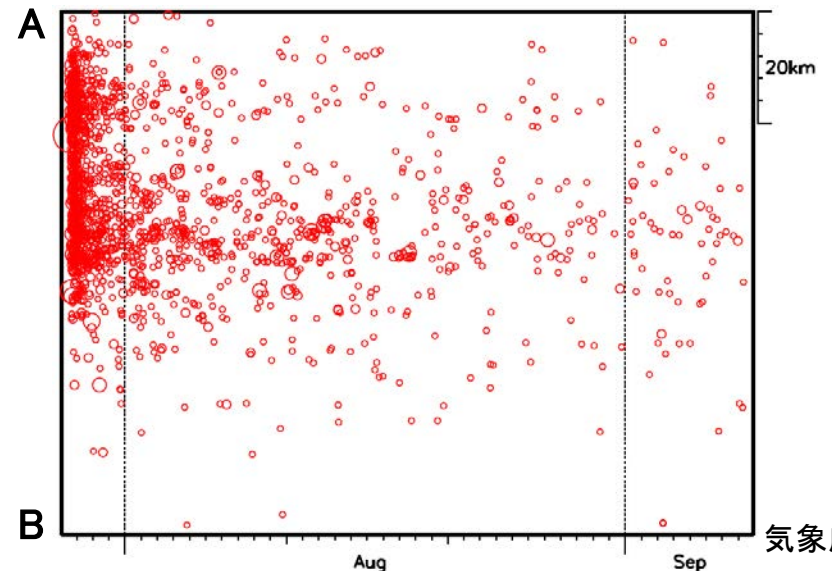
丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す

震央分布図中の青、緑、茶色の線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

左図の四角形領域内の地震活動経過図



左図の四角形領域内の時空間分布図 (A-B投影)



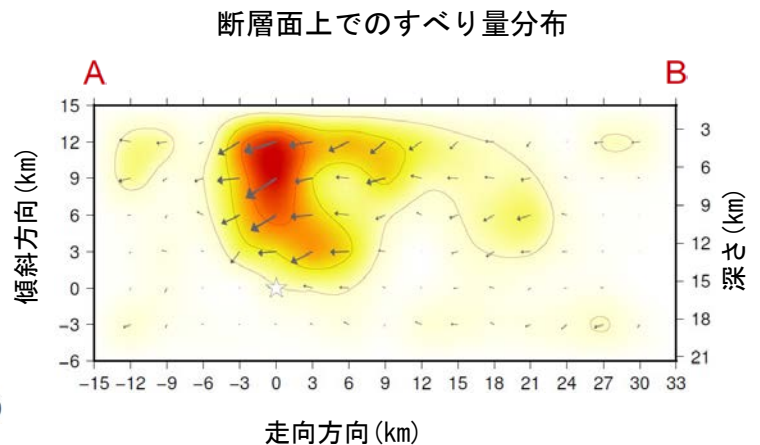
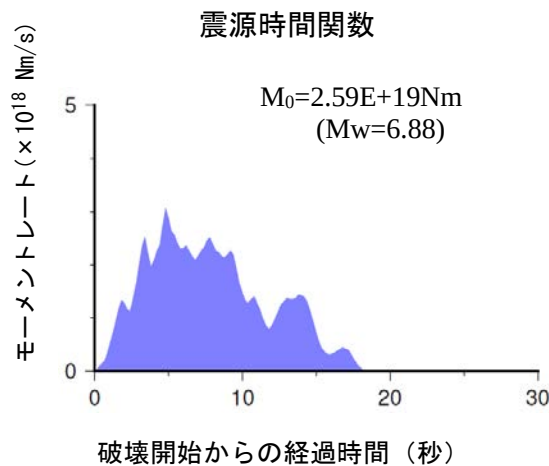
2026 年 7 月 28 日 熊本県熊本地方の地震 ー 近地強震波形による震源過程解析（暫定）ー

2026 年 7 月 28 日 16 時 27 分（日本時間）に熊本県熊本地方で発生した地震（ $M_{JMA}7.1$ ）について、国立研究開発法人防災科学技術研究所の強震観測網（K-NET、KiK-net）の近地強震波形を用いた震源過程解析を行った。

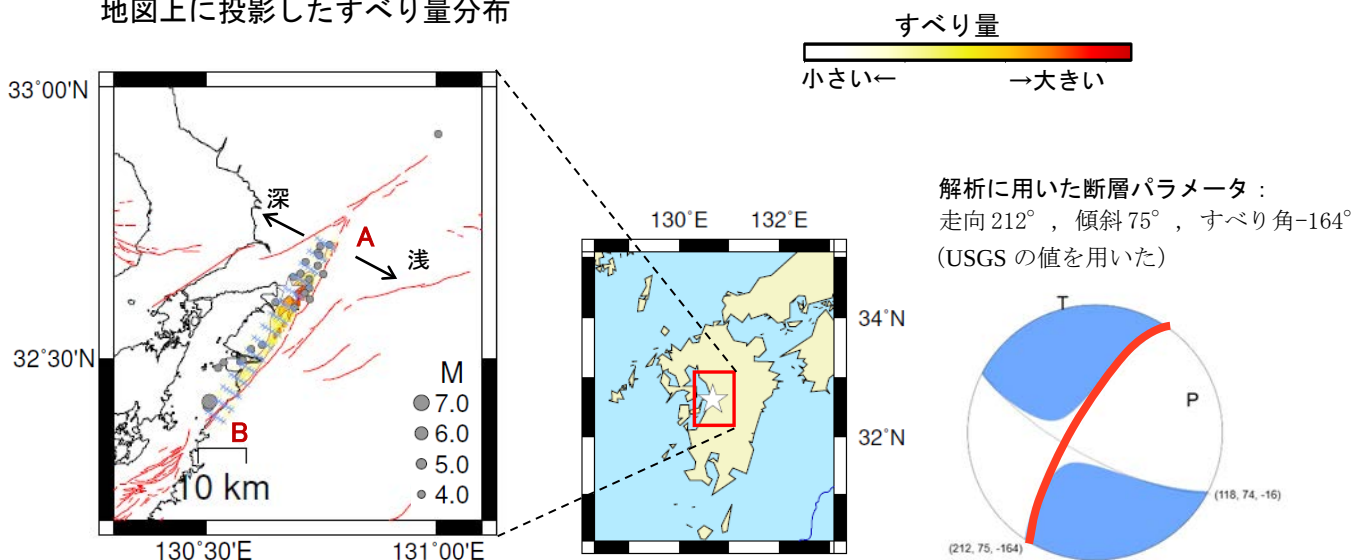
破壊開始点は、気象庁による震源の位置（ $32^{\circ} 37.5' N$ 、 $130^{\circ} 40.7' E$ 、深さ 16km）とした。断層面は、USGS の W-phase 解の 2 枚の節面のうち、北東-南西方向の節面（走向 212° 、傾斜 75° 、すべり角 -164° ）を仮定して解析した。最大破壊伝播速度は 2.0km/s とした。理論波形の計算には、Koketsu et al. (2012) の結果から設定した地下構造モデルを用いた。主な結果は以下のとおり（この結果は暫定であり、今後更新することがある）。

- ・ 主なすべり域の大きさは走向方向に約 30km、傾斜方向に約 15km であった。
- ・ 主なすべりは破壊開始点から浅い領域に広がり、最大すべり量は 3.6m であった（周辺の構造から剛性率を 31GPa として計算）。
- ・ 主な破壊継続時間は約 20 秒であった。
- ・ モーメントマグニチュードは 6.9 であった。

結果の見方は、https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/sourceprocess/about_srcproc.html を参照。



地図上に投影したすべり量分布



星印は破壊開始点を示す。灰色の丸は 7 月 28 日 16 時 27 分の $M7.1$ の地震発生から 24 時間以内に発生した地震の震源 ($M4.0$ 以上) を示す。赤色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

作成日：2026/08/28

気象庁作成

令和8年熊本地震（7月28日 M7.1）のすべり分布モデル(暫定)

2026年7月28日に発生した令和8年熊本地震について、GNSS解析（電子基準点及び民間等電子基準点）およびSAR解析（SAR干渉解析及びピクセルオフセット法）で得られた地殻変動をもとに、矩形断層の推定結果を参考に2枚の断層を仮定して、小断層に分割したうえで地震時すべり分布を決定した。

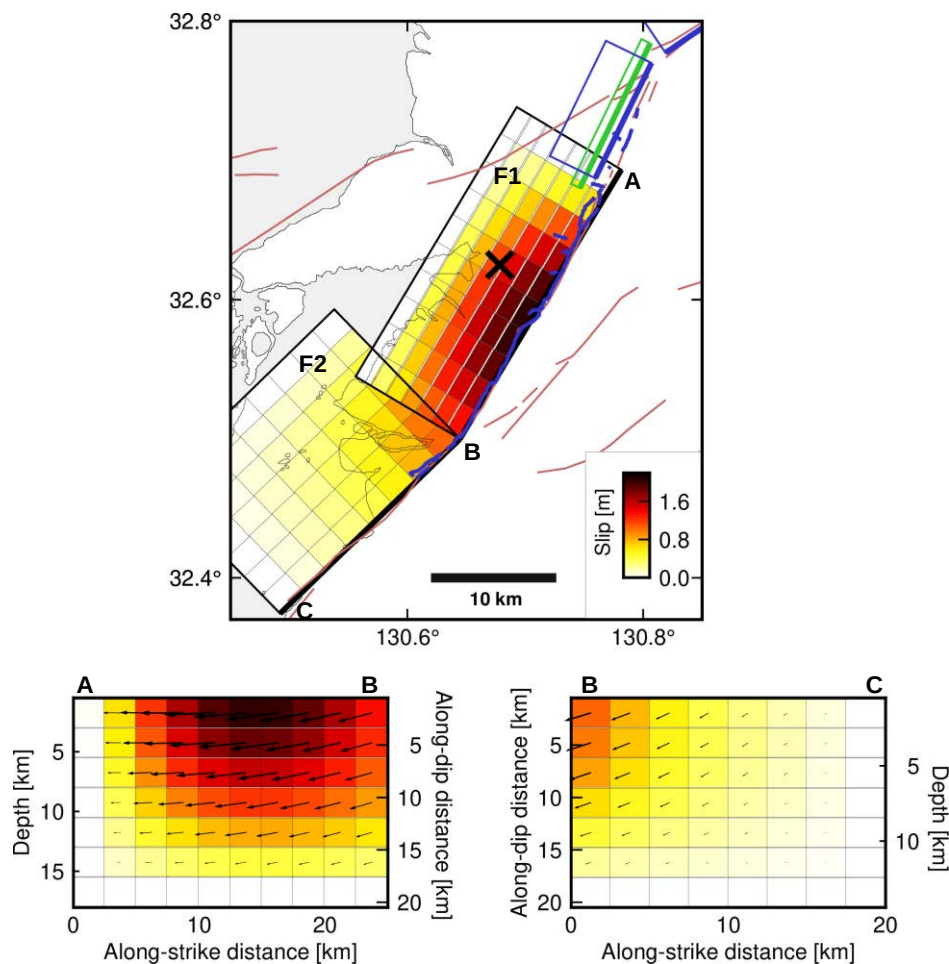


図1 推定された地震時すべり分布モデル。緑及び青矩形は、平成28年（2016年）熊本地震（4月14日 M6.5及び4月16日 M7.3）の震源断層モデル（矢来・他 2016）を示す。太線は断層上端を示す。×印は今回の地震の震央。赤線は主要活断層帯を示す（地震調査研究推進本部）。青線はSAR解析結果から判読した変位不連続のトレース（暫定）。

表1 すべり分布の推定に使用した震源断層モデルパラメータ。

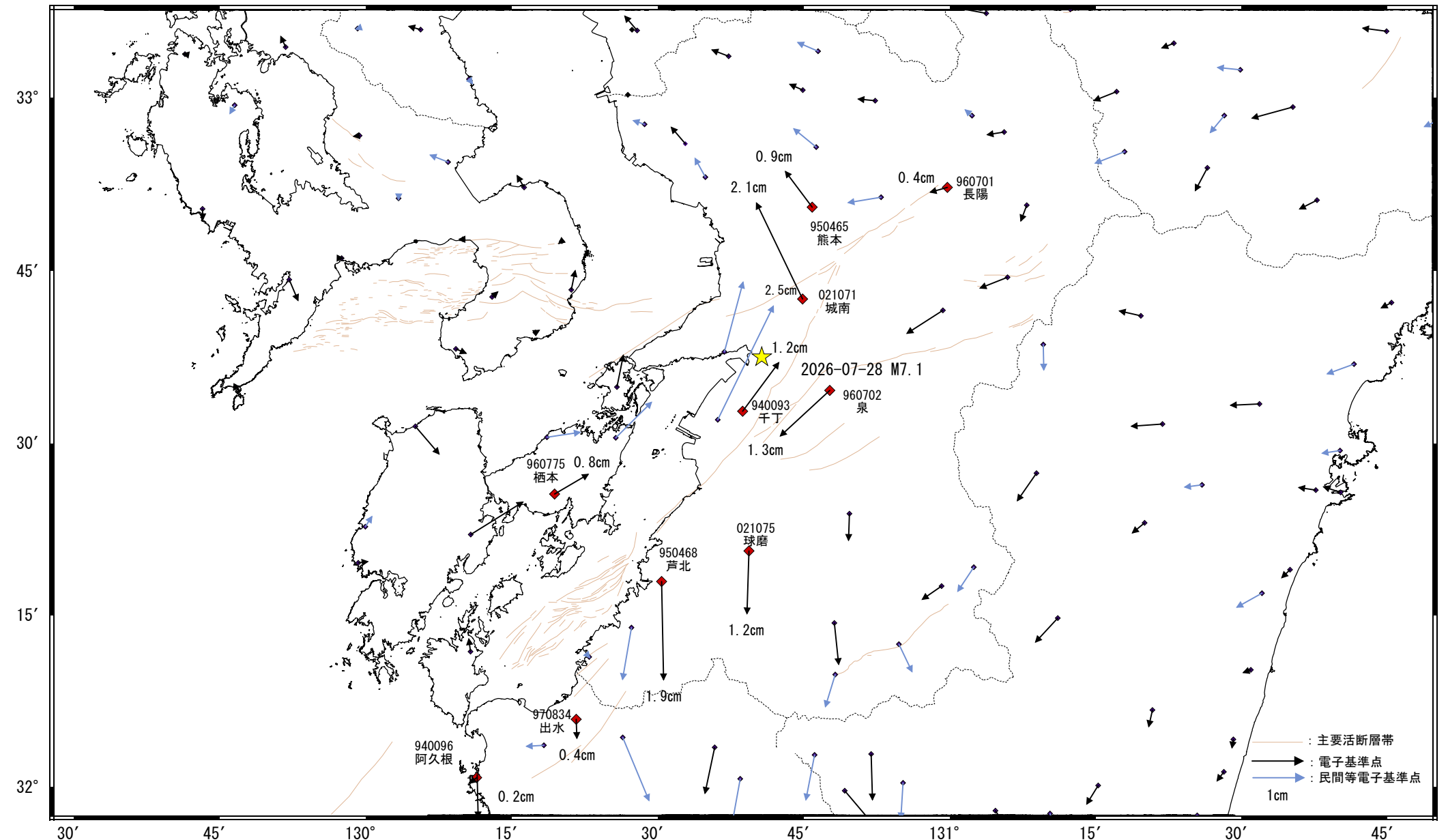
断層	緯度 [度]	経度 [度]	上端深さ [km]	長さ [km]	幅 [km]	走向 [度]	傾斜 [度]	Mw
F1	32.69	130.78	0.5	25	20	210	61	6.74
F2	32.64	130.50	0.5	20	20	225	44	6.33

- 最大すべり量は約2.0mである。
- すべりの平滑化強度は交差検証法により決定した。
- Mwの計算においては、剛性率40GPaを仮定。2枚の断層の合計のMw6.80である。

令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)後の地殻変動(暫定)

地殻変動(水平)

基準期間: 2026-07-29~2026-07-29 [F5.1: 最終解]
比較期間: 2026-08-24~2026-08-25 [R5.1: 速報解]



- ★ 震央
- ☆ 固定局: 上対馬 (950456) (長崎県)
- ◆ 観測局 (グラフ表示)

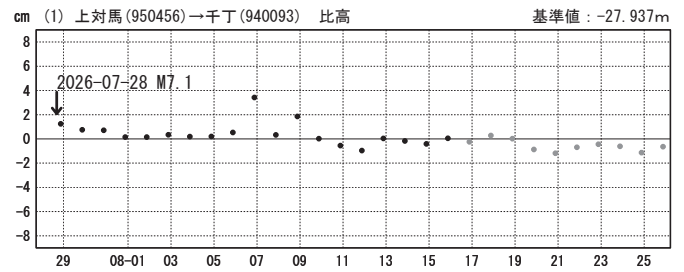
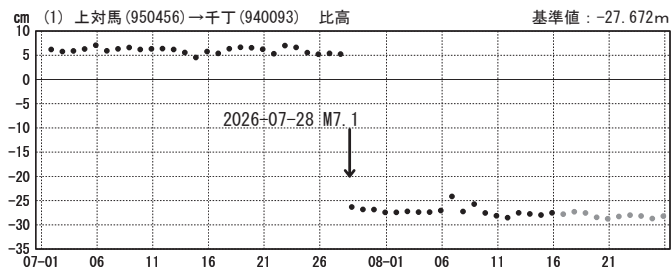
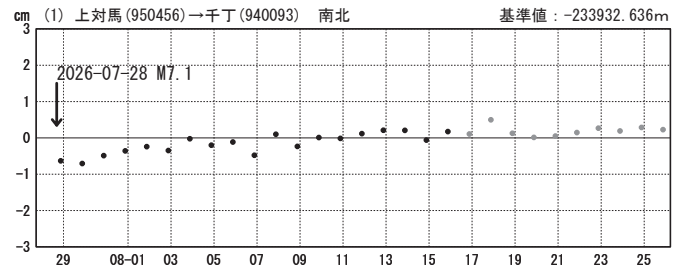
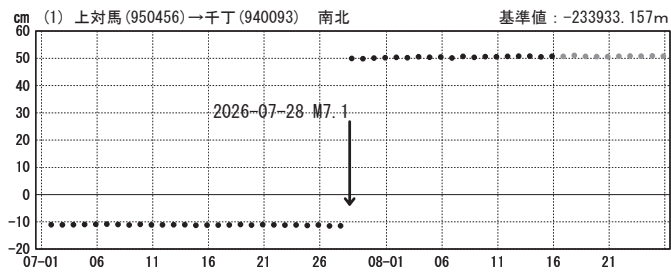
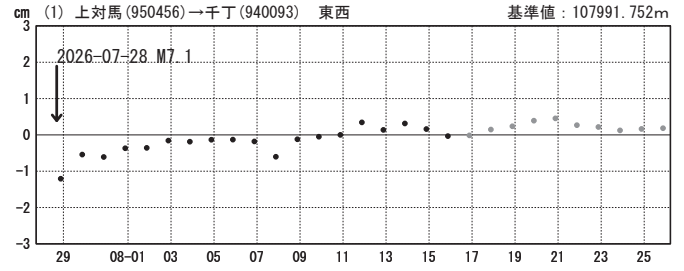
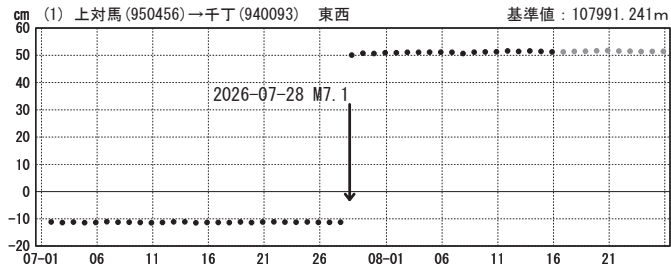
※民間等電子基準点: 株式会社NTTドコモ
※城南: 傾斜による局所的な変化が含まれている
※主要活断層帯 (地震調査研究推進本部による) を重ねて表示

令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

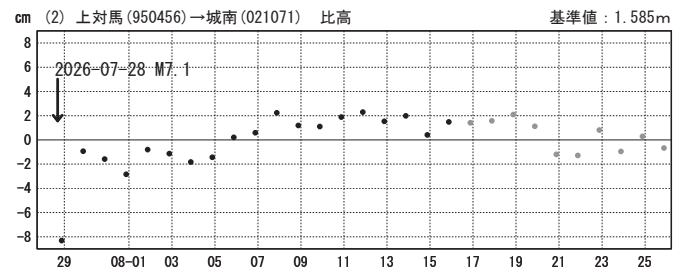
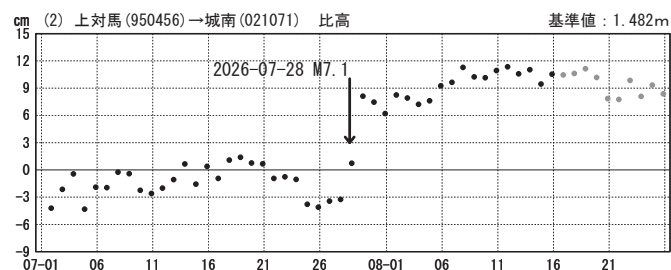
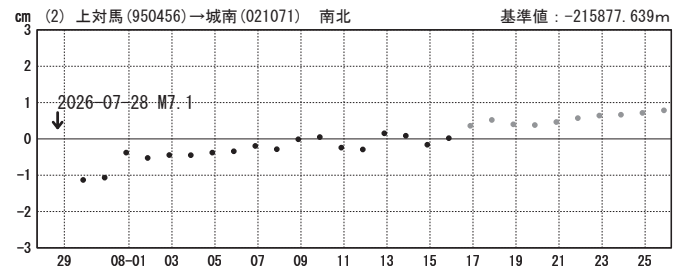
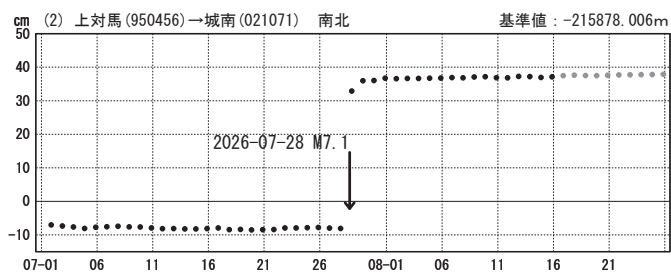
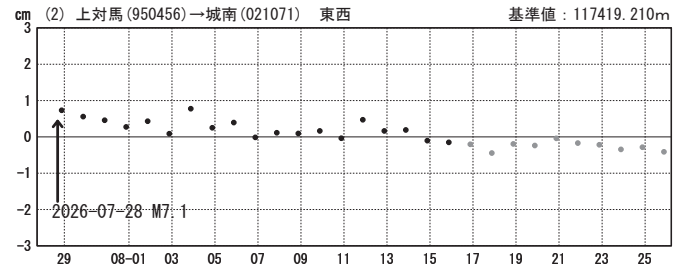
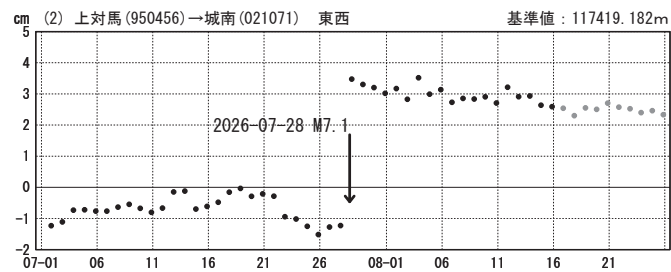
期間：2026-07-01～2026-08-25 JST

期間：2026-07-28～2026-08-25 JST



期間：2026-07-01～2026-08-25 JST

期間：2026-07-28～2026-08-25 JST



※城南：傾斜による局所的な変化が含まれている

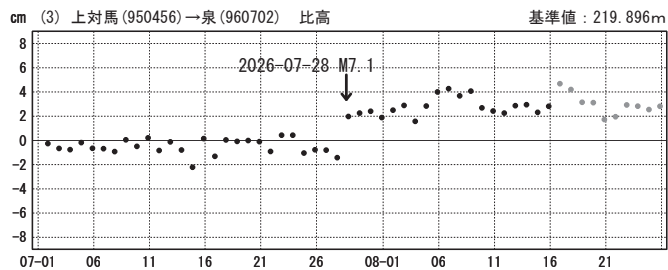
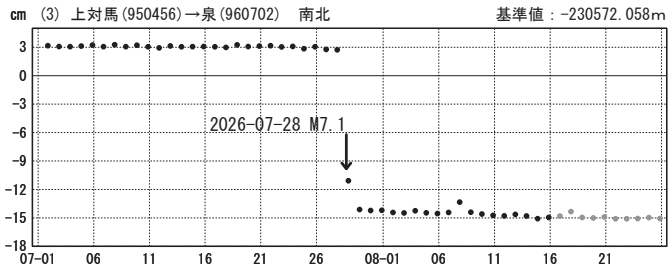
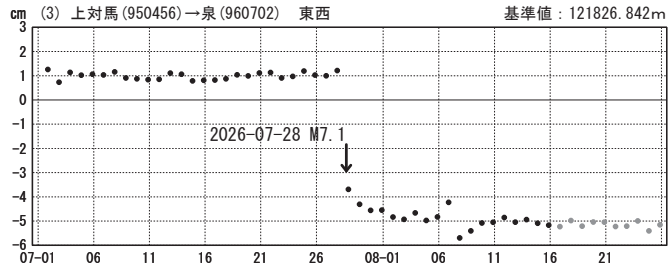
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

国土地理院

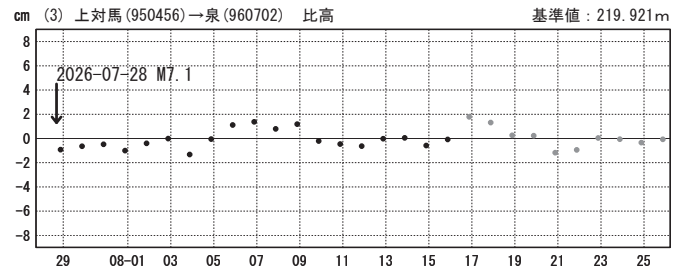
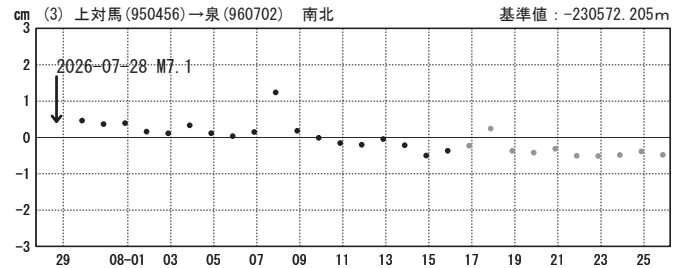
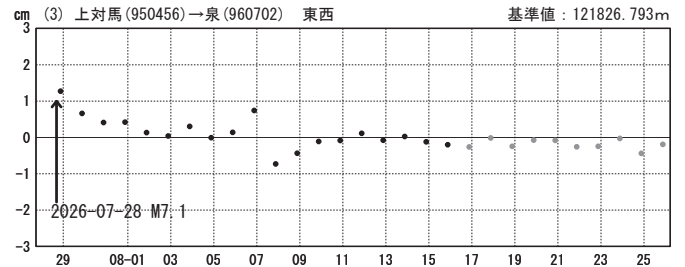
令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

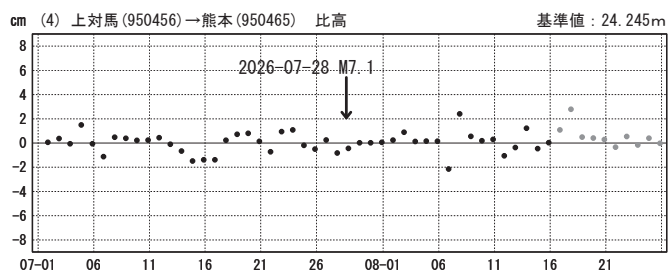
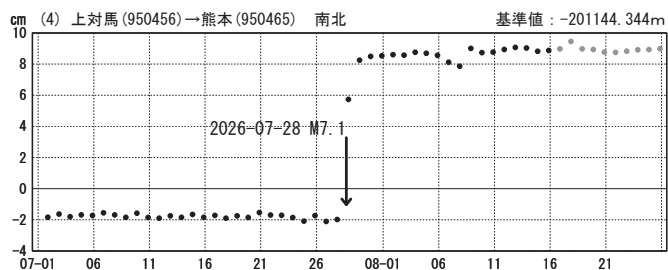
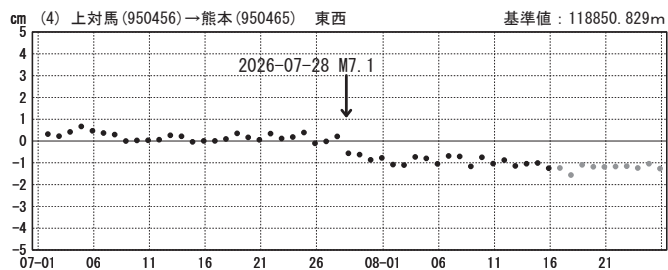
期間: 2026-07-01~2026-08-25 JST



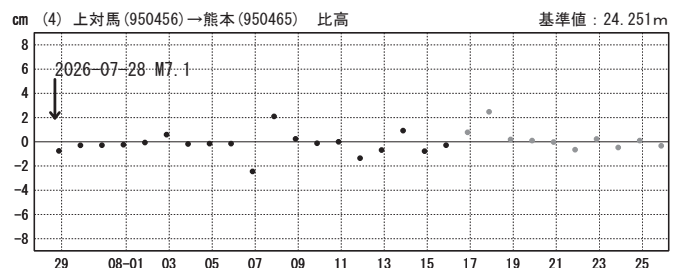
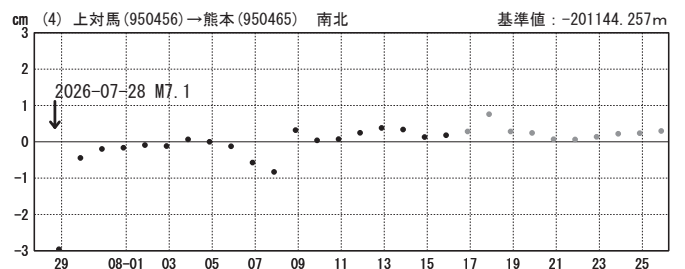
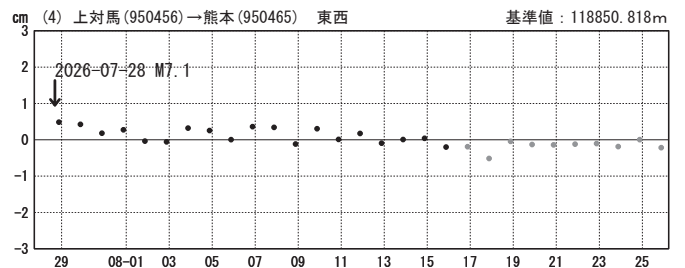
期間: 2026-07-28~2026-08-25 JST



期間: 2026-07-01~2026-08-25 JST



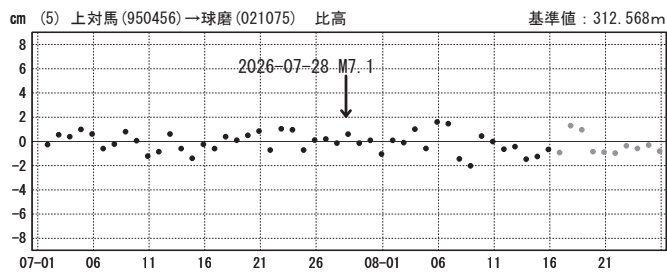
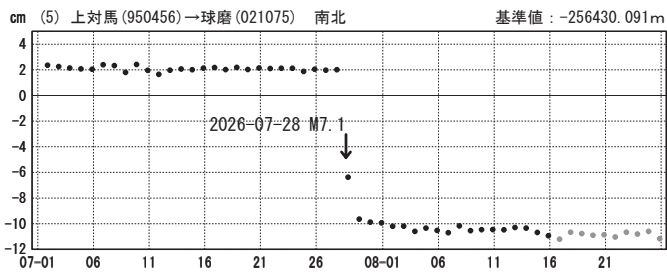
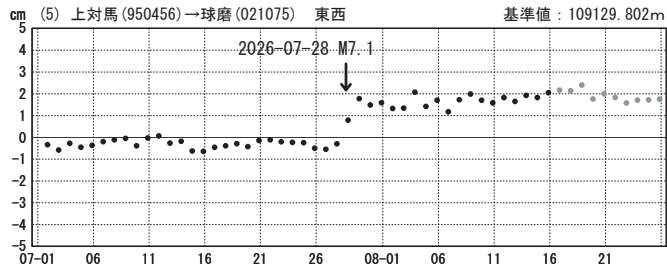
期間: 2026-07-28~2026-08-25 JST



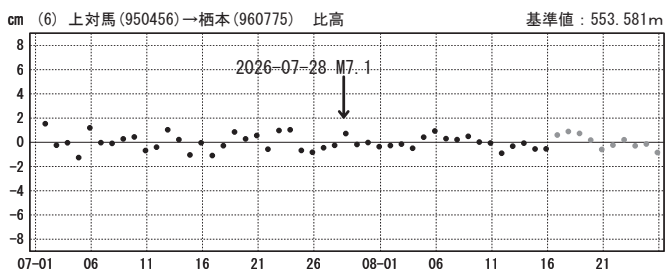
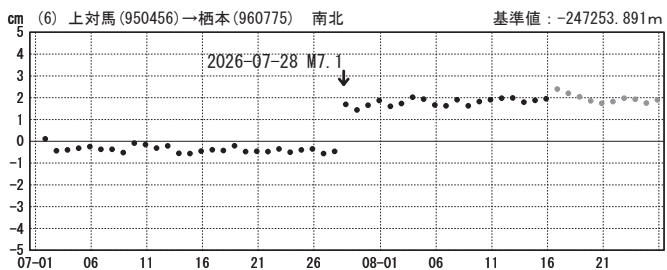
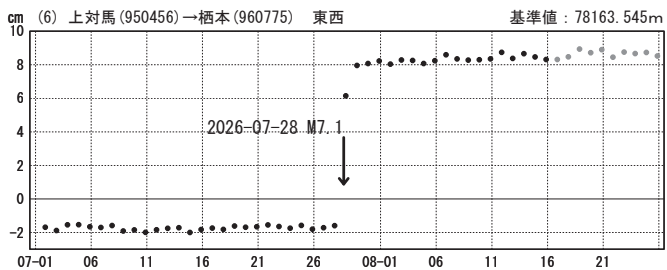
令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

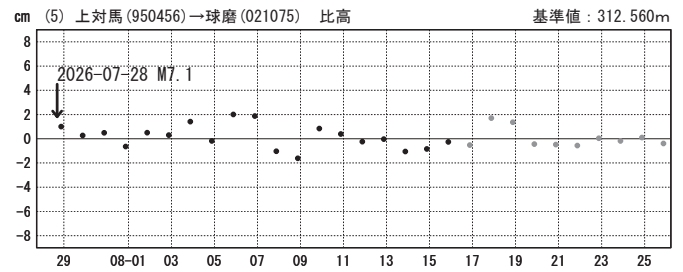
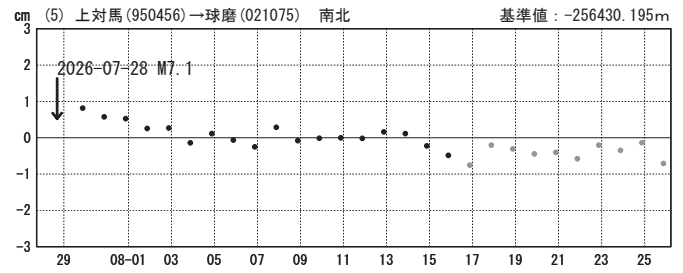
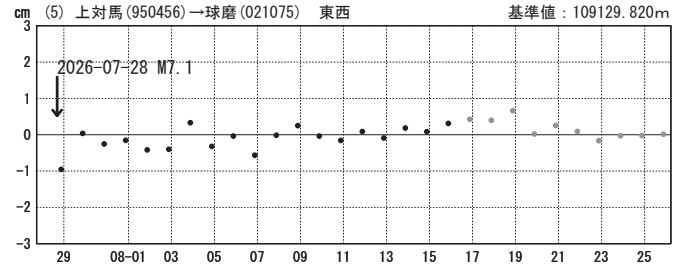
期間：2026-07-01～2026-08-25 JST



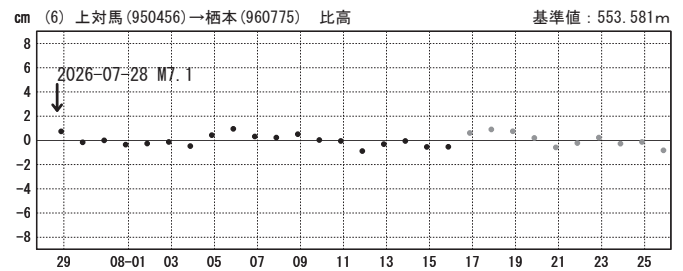
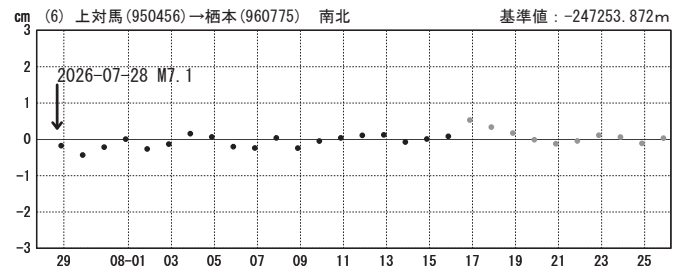
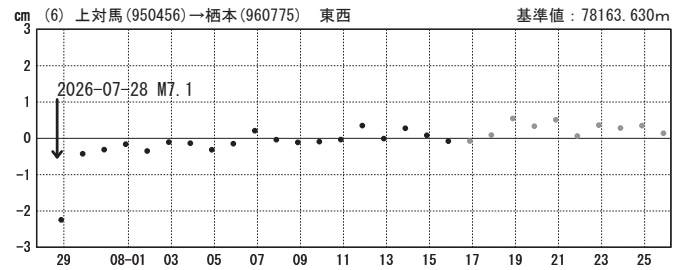
期間：2026-07-01～2026-08-25 JST



期間：2026-07-28～2026-08-25 JST



期間：2026-07-28～2026-08-25 JST



●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

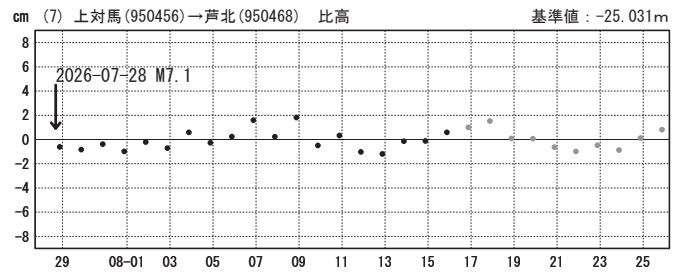
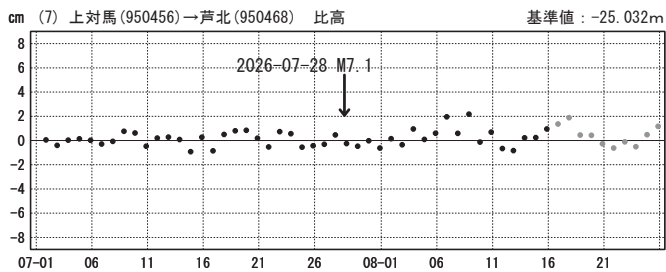
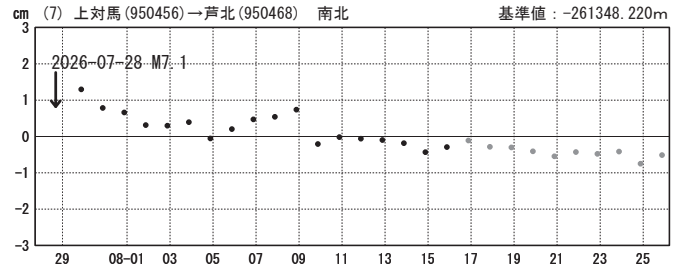
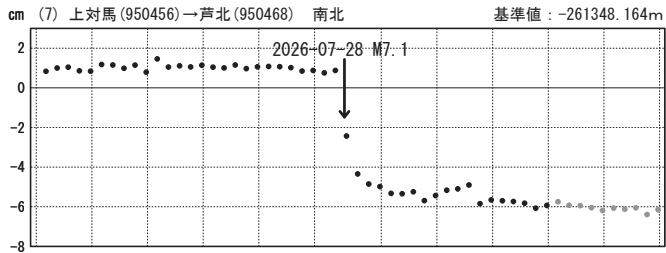
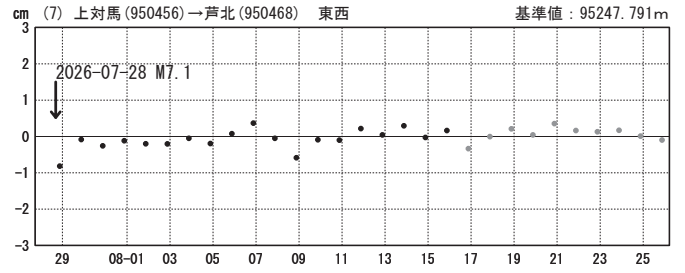
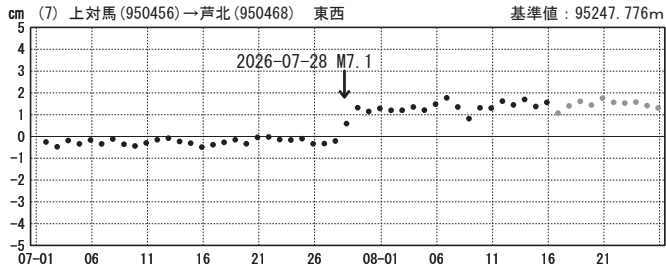
国土地理院

令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

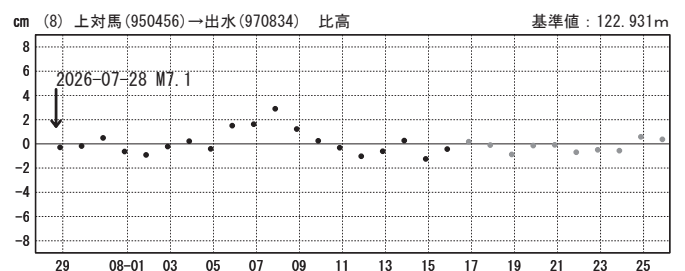
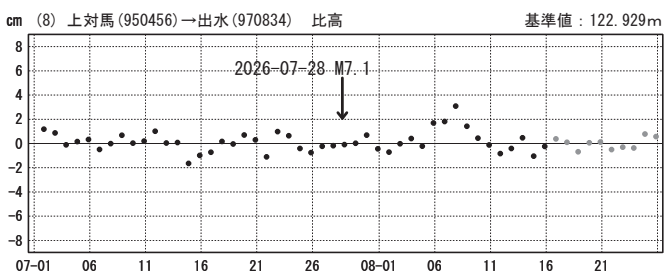
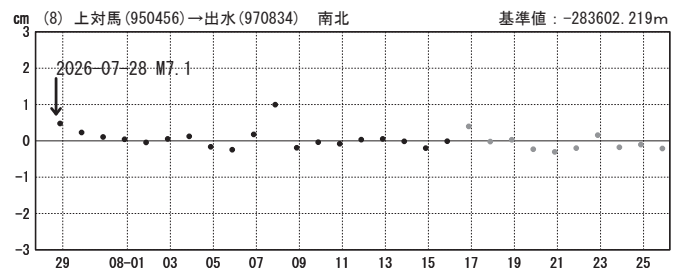
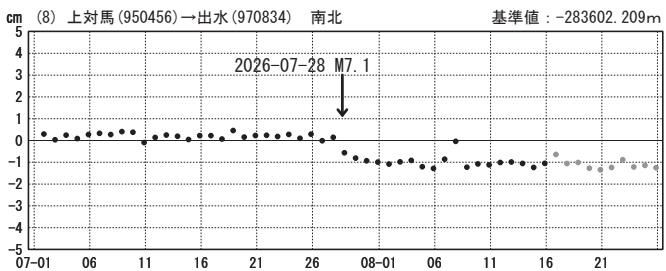
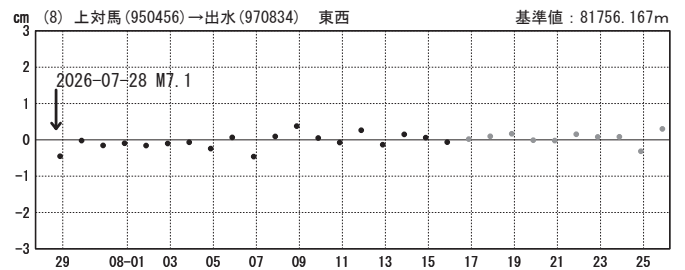
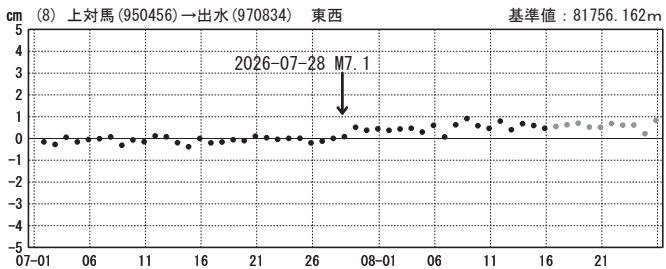
期間: 2026-07-01~2026-08-25 JST

期間: 2026-07-28~2026-08-25 JST



期間: 2026-07-01~2026-08-25 JST

期間: 2026-07-28~2026-08-25 JST

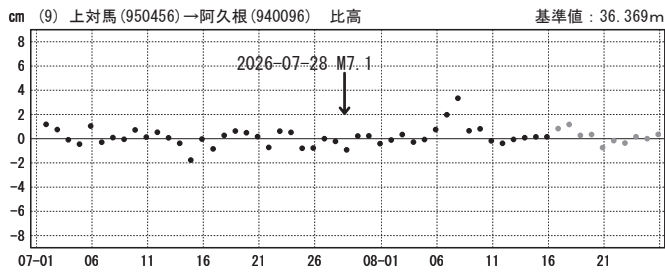
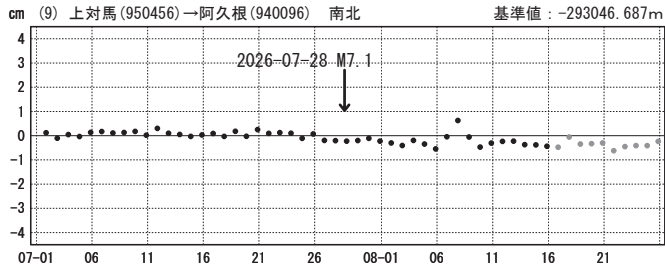
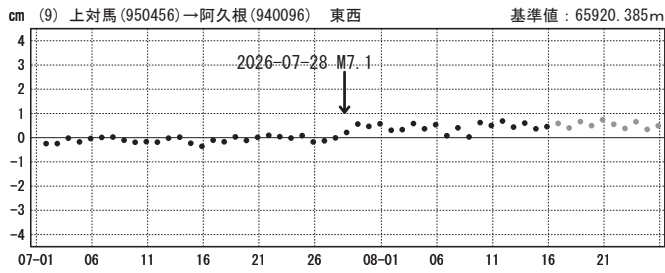


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

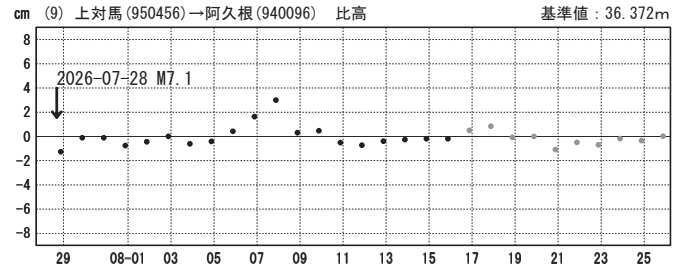
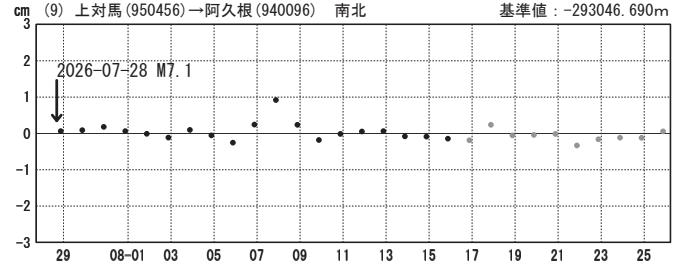
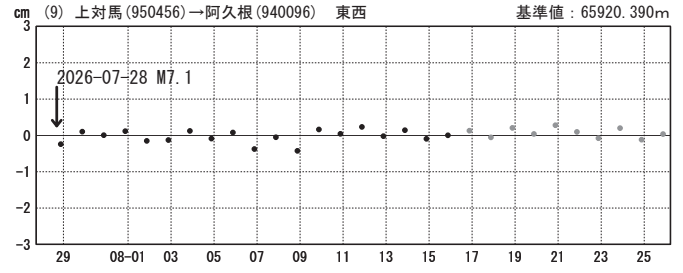
国土地理院

令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定) 成分変化グラフ

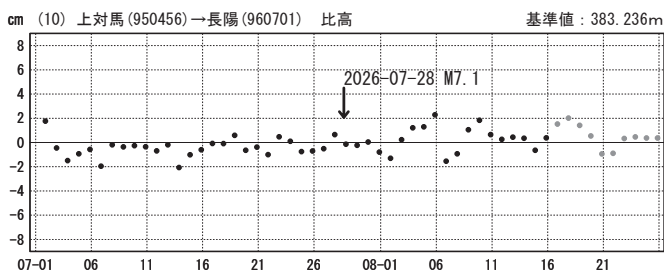
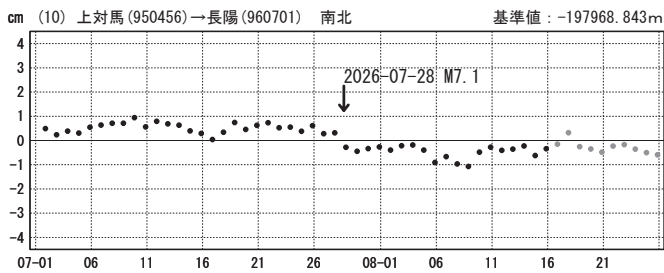
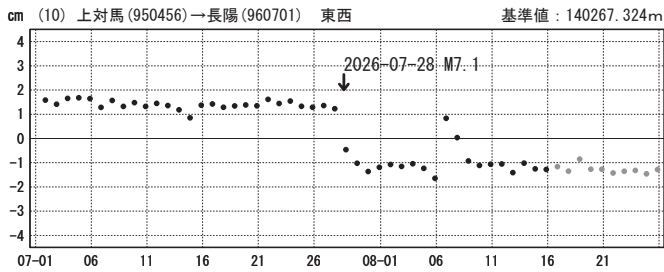
期間：2026-07-01～2026-08-25 JST



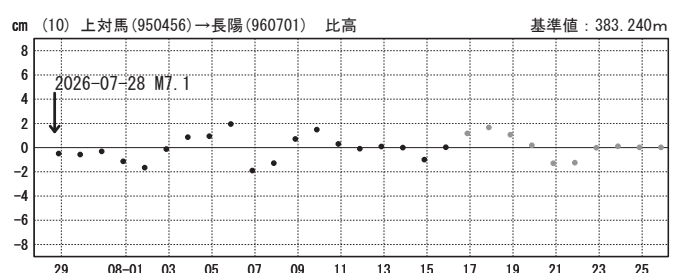
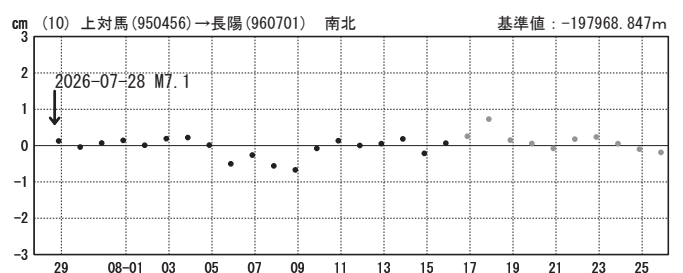
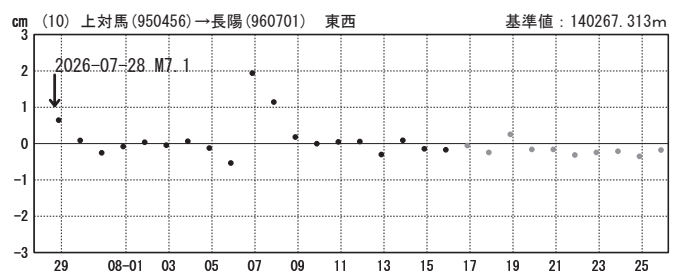
期間：2026-07-28～2026-08-25 JST



期間：2026-07-01～2026-08-25 JST



期間：2026-07-28～2026-08-25 JST



●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

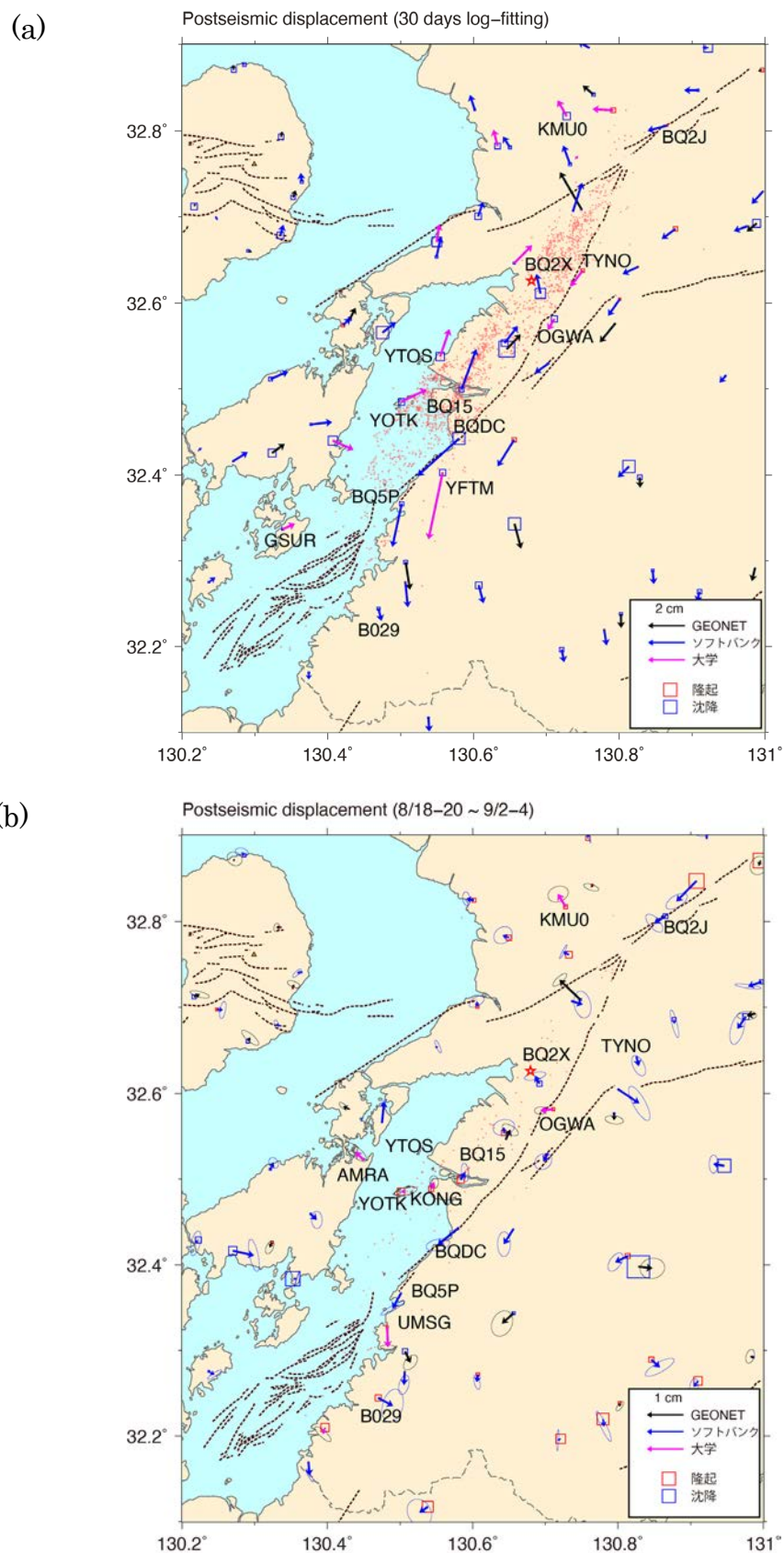


図1 GNSS 統合解析による令和8年熊本地震の地震後地殻変動。星印および赤点は、気象庁一元化震源による本震およびM2以上の震源を表す。茶色の破線は、地震本部による主要活断層を表す。(a)対数関数フィッティングによる地震後30日間の地殻変動。(b)8月18-20日と9月2-4日の座標値の差から求めた15日間の地殻変動。

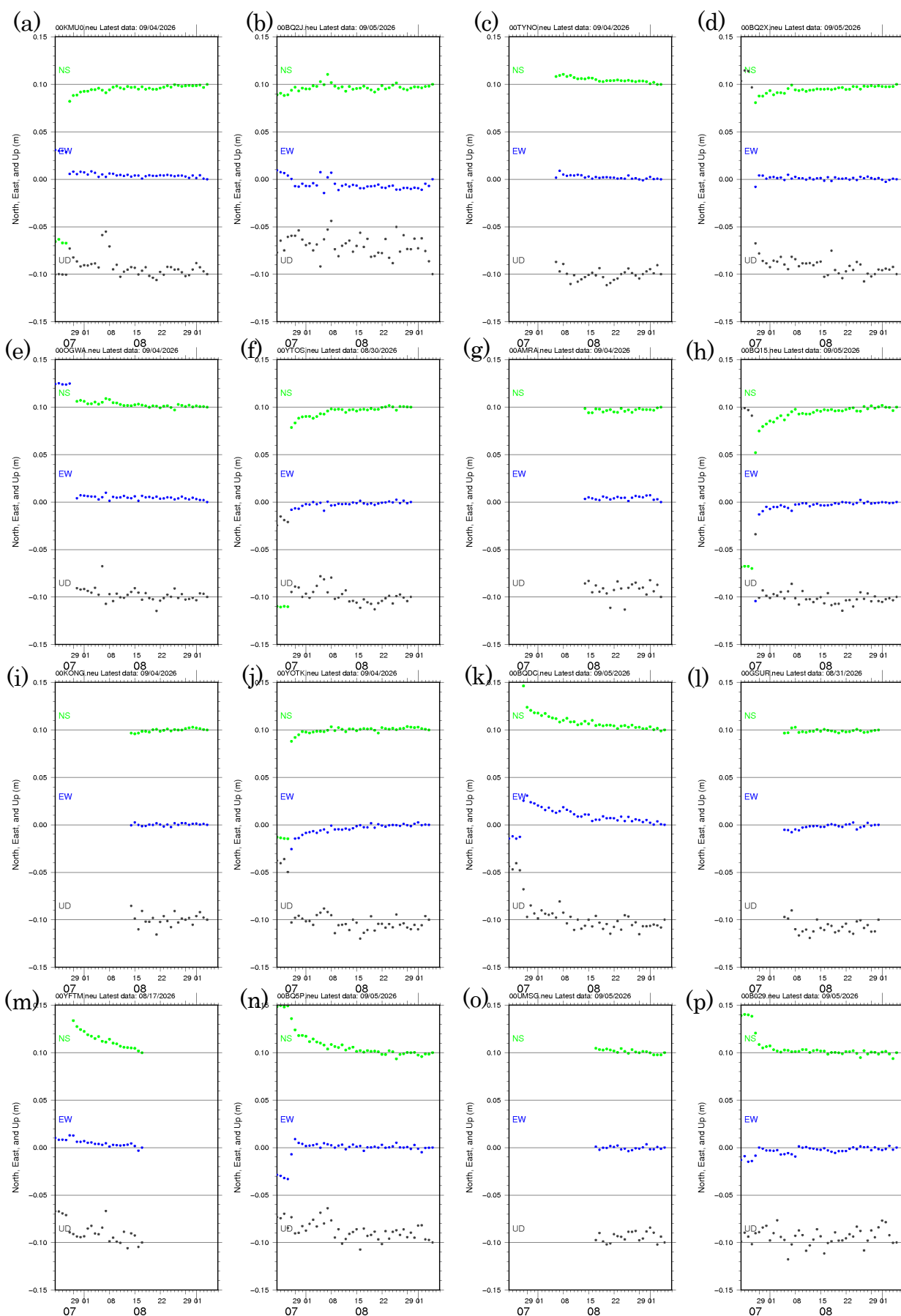
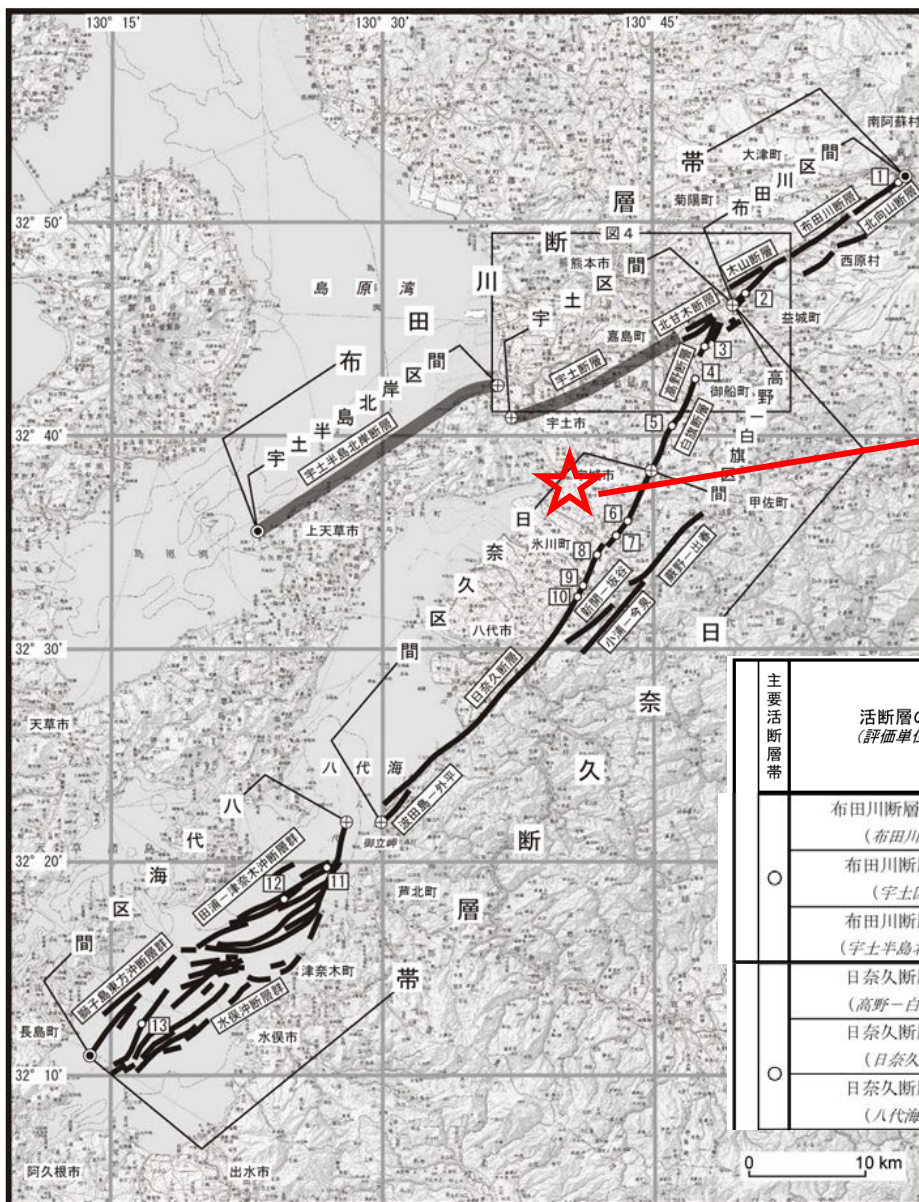


図2 熊本地震余震域周辺の地震後のGNSS時系列(日座標値)。(a) KMU0。(b) BQ2J。(c) TYNO。
 (d) BQ2X。(e) OGWA。(f) YTOS。(g) AMRA。(h) BQ15。(i) KONG。(j) YOTK。
 (k) BQDC。(l) GSUR。(m) YFTM。(n) BQ5P。(o) UMSG。(p) B029。

布田川断層帯・日奈久断層帯の長期評価



1:白川左岸地点 2:田中地点 3:高木地点 4:白旗地点 5:鰐瀬地点 6:南小野地点 7:南部田地点 8:高塚B地点 9:腹巻田地点 10:梶地点 11:八代海白神岩地点 12:八代海津奈木沖地点 13:八代海南西部海底地点

●:断層帯の北東端と南西端 ⊕:活動区間の境界

活断層の位置は活断層研究会編(1991)、熊本県(1998b)、池田ほか(2001)、中田ほか(2001)、産業技術総合研究所・地域地盤環境研究所・東海大学(2011)及び地震調査研究推進本部地震調査委員会長期評価部会活断層分科会による重力異常・地質構造の検討結果に基づく。

基図は国土地理院発行数値地図200000(地図画像)「熊本」「八代」を使用。網掛線は、重力異常、ボーリングや音波探査により位置が特定された活断層。

2026年7月28日 M7.1

「今までに公表した活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧」
(算定基準日：令和8年1月1日)

主要活断層帯	活断層のくくり (評価単位区間)	各区間が単独で活動する場合の地震の規模(M)	複数区間が同時に活動する場合の地震の規模(M)	我が国の主な活断層における相対的評価 (注4)				地震後経過率 (注2)	平均活動間隔
				地震発生確率 (注1)			最新活動時期		
				30年以内	50年以内	100年以内			
○	布田川断層帯 (布田川区間) (注12)(注13)	7.0程度	7.5-7.8 程度以上 ^{※1}	2ランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0-0.001	8,100年-26,000年程度 ^(注14) 平成28年(2016年)熊本地震 ^(注13)
	布田川断層帯 (宇土区間) (注12)	7.0程度	・	Xランク	不明	不明	不明	不明	不明
	布田川断層帯 (宇土半島北岸区間) (注12)	7.2程度以上	7.8-8.2 程度 ^{※2}	Xランク	不明	不明	不明	不明	不明
○	日奈久断層帯 (高野-白旗区間) (注12)	6.8程度	7.7-8.0 程度 ^{※3}	Xランク	不明	不明	不明	不明	不明
	日奈久断層帯 (日奈久区間) (注12)	7.5程度	・ 7.8-8.2 程度 ^{※4}	S*ランク	ほぼ0%~6%	ほぼ0%~10%	ほぼ0%~20%	0.2-2.3	約1,600年前以後、約1,200年前以前 3,600年-11,000年程度
	日奈久断層帯 (八代海区間) (注12)	7.3程度		S*ランク	ほぼ0%~16%	ほぼ0%~30%	ほぼ0%~50%	0.1-1.6	約8,400年前以後、約2,000年前以前 1,100年-6,400年程度 約1,700年前以後、約900年前以前

※1

※2・※4

※3

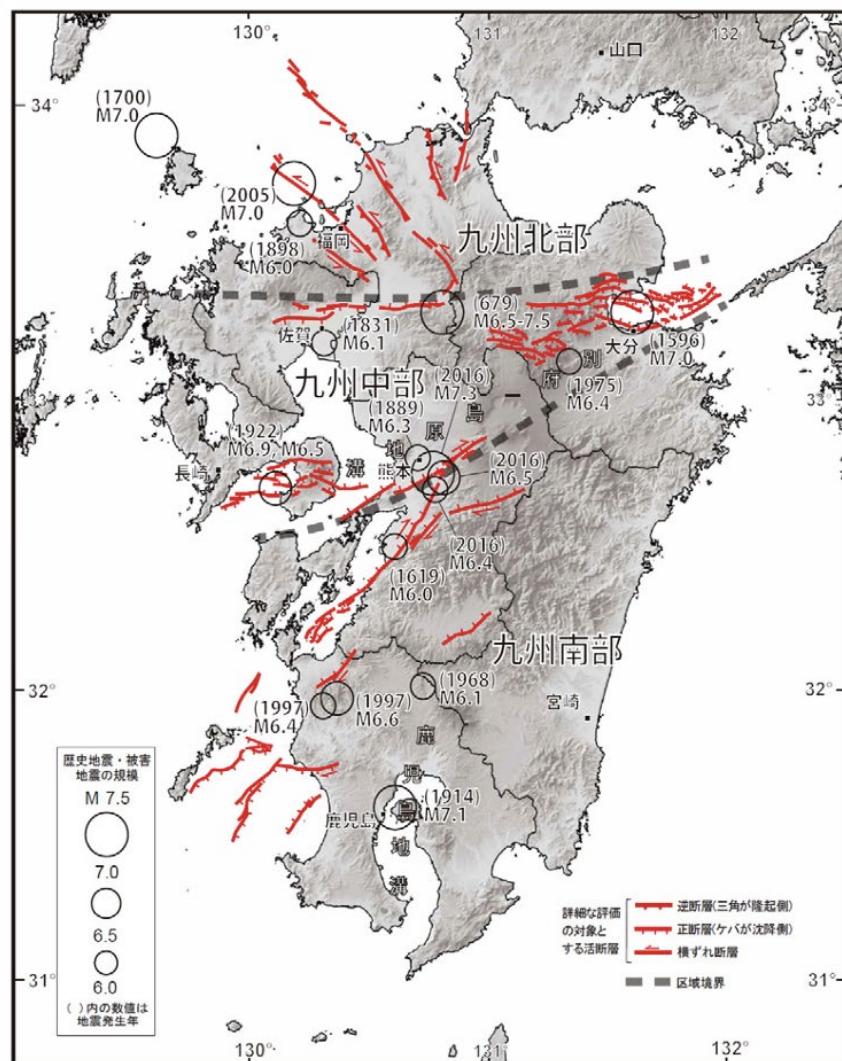
布田川断層帯全体が同時に活動した場合

日奈久断層帯全体と布田川断層帯布田川区間が同時に活動した場合

日奈久断層帯全体が同時に活動した場合

図2 布田川断層帯・日奈久断層帯の活断層位置と調査地点

九州地域の活断層の長期評価



地域区分	地域の長期評価 (M6.8以上、30年確率)(%) (注17、注18、注19)	
	区域別の確率値	九州全域の確率値
	95%信頼区間(中央値)(注20)	
九州北部	7～13 (9)	30～42 (35)
九州中部	17～27(注21) (21)	
九州南部	7～18 (8)	

注17: 個別の活断層の長期評価は、地表に断層活動の痕跡が確認できる「固有地震」(*)の発生確率のみを評価している。一方、マグニチュードが6.8以上の地震でも明瞭な地表地震痕跡が出現しない場合や、出現しても長さやずれの量が活断層の長さなどから推定されるものに比べて有意に小さい場合があることを鑑み、本地域評価では、評価対象とした活断層において地表の証拠からは断層活動の痕跡を認めにくい地震の発生する確率も評価している(地震調査研究推進本部地震調査委員会長期評価部会、2010)(詳細は、本文(https://www.jishin.go.jp/main/chousa/13feb_chi_kyushu/k_honbun.pdf)注17参照)。

※「固有地震」とは、同時に活動すると想定される「活断層帯」や「評価単位区間(詳細は、本文(https://www.jishin.go.jp/main/chousa/13feb_chi_kyushu/k_honbun.pdf))の「付録2-1 1回の地震に対応して活動する断層の長さの評価の考え方(参照)」の全体が活動する固有規模の地震のことである。Schwartz and Coppersmith(1984, 1986)が提唱したCharacteristic earthquake modelについて、垣見(1989)が「個々の断層またはそのセグメントからは、基本的にほぼ同じ(最大もしくはそれに近い)規模の地震が繰り返し発生すること」と解釈しているものである。

地震調査研究推進本部地震調査委員会長期評価部会(2010):「活断層の長期評価手法(暫定版)」, 117p.
垣見俊弘(1989):固有地震説雑考, 活断層研究, 7, 1-4.
Schwartz, D. P. and Coppersmith, K. J. (1984): Fault behavior and characteristic earthquakes from the Wasatch and San Andreas faults, Jour. Geophys. Res., 89, 5, 681-5, 698.
Schwartz, D. P. and Coppersmith, K. J. (1986): Seismic Hazards — New Trends in Analysis Using Geologic Data. In Active Tectonics, National Academy Press, Washington, DC, pp. 215-230.

注18: 「詳細な評価の対象とする活断層」とは、地下を含めた断層の長さが15 km 程度以上で、断層の位置・形状や活動履歴など活断層の特性を詳細に評価したものである。「簡便な評価の対象とする活断層」は、地下を含めた断層の長さが10 km 程度以上、15 km 程度未満で、断層の分布のみを評価したものである。各区域及び九州全域における今後30 年間に発生するM6.8 以上の地震発生確率には、「詳細な評価の対象とする活断層」に基づく確率だけでなく、「簡便な評価の対象とする活断層」に基づく確率も含まれている(詳細は本文(https://www.jishin.go.jp/main/chousa/13feb_chi_kyushu/k_honbun.pdf))(説明)「3. 九州地域の活断層で発生する地震の長期評価」を参照)。

注19: 九州地域の活断層の長期評価(第一版)(地震調査研究推進本部地震調査委員会、2013)時点での活断層区分に基づき算出。

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2013):「九州地域の活断層の活断層の長期評価(第一版)」, 81p.

注20: 確率値は、本文(https://www.jishin.go.jp/main/chousa/13feb_chi_kyushu/k_honbun.pdf)「付録4-3 評価地域の地震の発生確率の幅の統計的扱い」に基づく。

注21: (注13)を反映して算出。

九州地域において詳細な評価の対象とする活断層のずれの向きと種類及び九州地域で発生した歴史地震・被害地震の震央

地震調査委員会「九州地域の活断層の長期評価(第一版)」より

令和8年熊本地震の地震活動の今後の見通し

【地震活動の今後の見通し】

- M7.1の地震で揺れの強かった地域では、
今後2週間程度、最大震度5弱程度以上の地震に注意※
※想定される地震の発生頻度は月に1～2回程度
- なお、最大震度5強程度以上の地震についても、平常時と比べると依然として発生しやすい状況
- 地震活動域は広範囲であり、地震の規模や震源との位置関係によってはM7.1の地震による揺れよりも強く揺れる可能性
- 海底で規模の大きな地震が発生した場合、津波に注意

8月2日 日向灘の地震

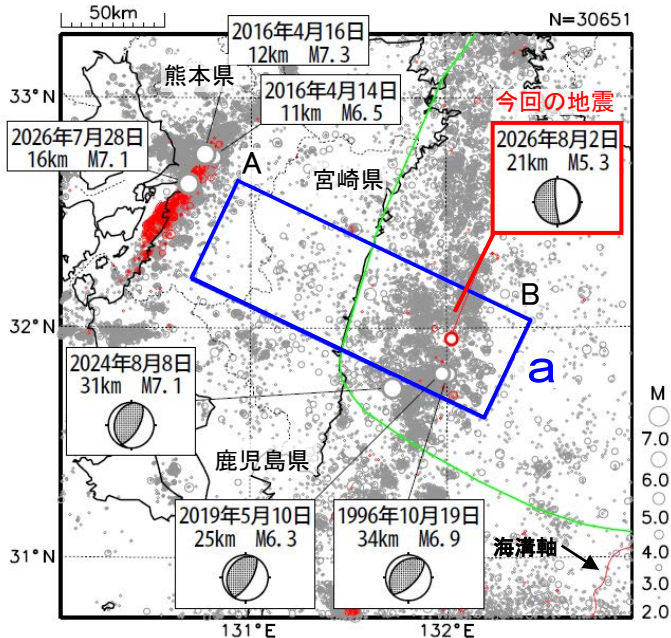
震央分布図

(1994年10月1日～2026年8月31日
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)

2026年8月の地震を赤色○で表示

図中の発震機構はCMT解

緑色の実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す

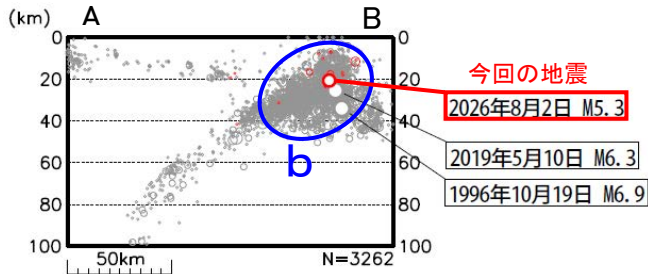


2026年8月2日04時10分に日向灘の深さ21kmでM5.3の地震(最大震度3)が発生した。この地震は、フィリピン海プレート内部で発生した。この地震の発震機構(CMT解)は東西方向に張力軸を持つ正断層型である。

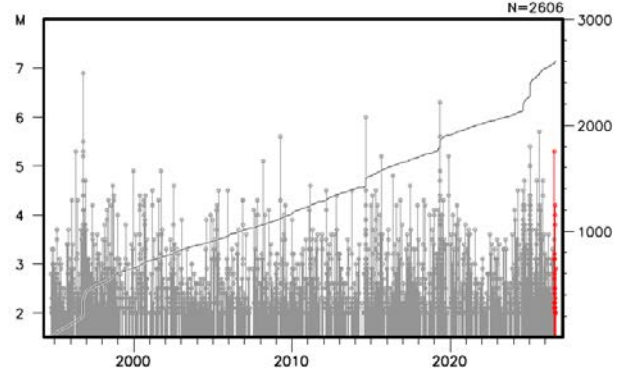
1994年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)ではM6.0以上の地震が2回発生している。1996年10月19日に発生したM6.9の地震(最大震度5弱)では、高知県の室戸市室戸岬、土佐清水で14cm(平均潮位からの最大の高さ)の津波を観測するなど、四国及び九州の太平洋沿岸で津波を観測した。また、今回の地震の震央の南西約35km付近で、2024年8月8日にM7.1の地震(最大震度6弱)が発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)ではM6.0以上の地震が時々発生している。また、1968年4月1日に発生した「1968年日向灘地震」(M7.5、最大震度5)では、負傷者57人、住家被害7,423棟などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。この地震により、大分県の蒲江漁港で240cm(全振幅)の津波を観測するなど、太平洋沿岸を中心に関東地方から九州地方にかけて津波を観測した(「日本被害津波総覧」による)。

領域a内の断面図(A-B投影)



領域b内のM-T図及び回数積算図

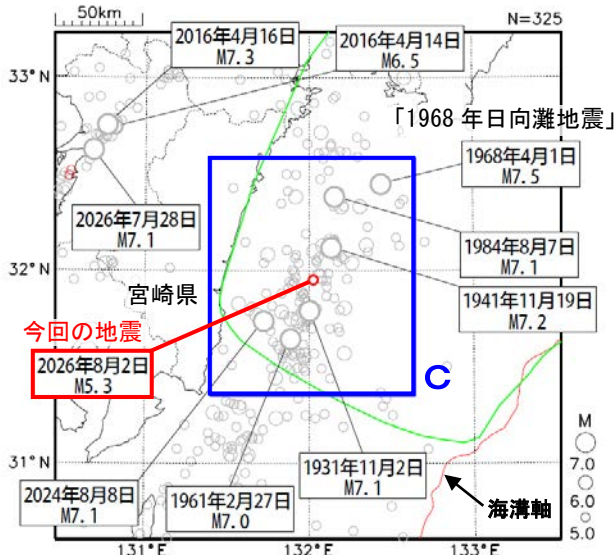


震央分布図

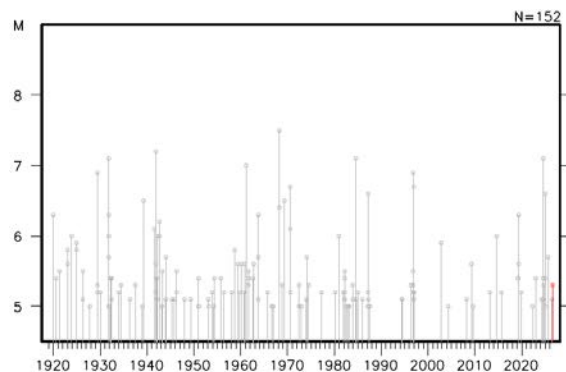
(1919年1月1日～2026年8月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)

2026年8月の地震を赤色で表示

緑色の実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す



領域c内のM-T図



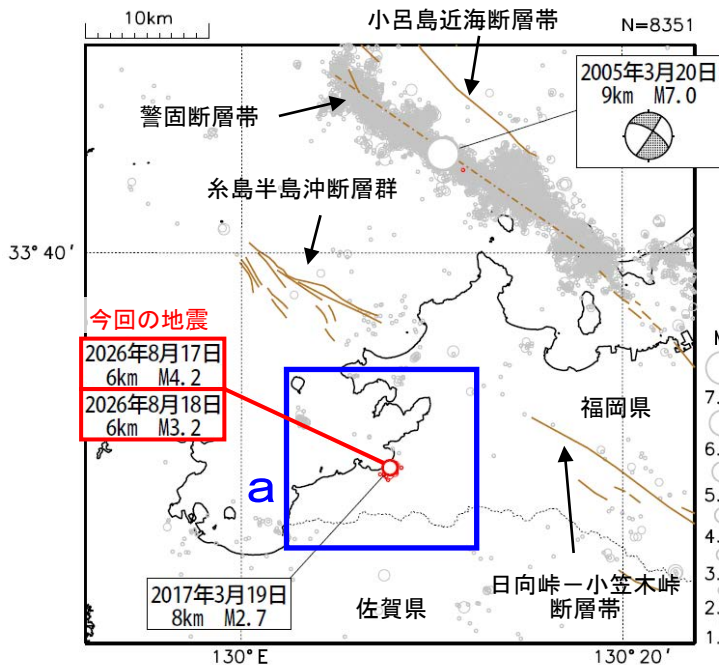
気象庁作成

8月17日 福岡県福岡地方の地震

震央分布図

(2000年10月1日～2026年8月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 1.0$)

2026年8月に発生した地震を**赤色○**で表示
茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による
活断層を示す

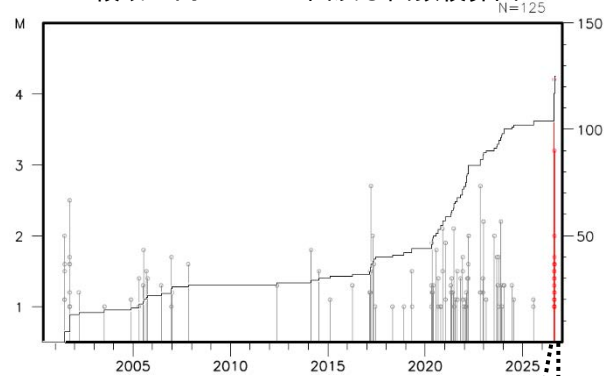


2026年8月17日06時37分に福岡県福岡地方の深さ6kmでM4.2の地震（最大震度4）が発生した。この地震は地殻内で発生した。また、18日08時21分にほぼ同じ場所の深さ6kmでM3.2の地震（最大震度2）が発生した。

2000年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）は、2017年3月19日にM2.7の地震（深さ8km、最大震度1）が発生するなど、M2.0以上の地震は時々発生しているが、M4.0以上の地震は発生していなかった。

1919年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M5.0以上の地震が8回発生している。2005年3月20日にはM7.0の地震（深さ9km、最大震度6弱）が発生し、死者1人、負傷者1,304人、住家全壊144棟などの被害が生じた（被害は2009年6月12日現在、総務省消防庁による）。

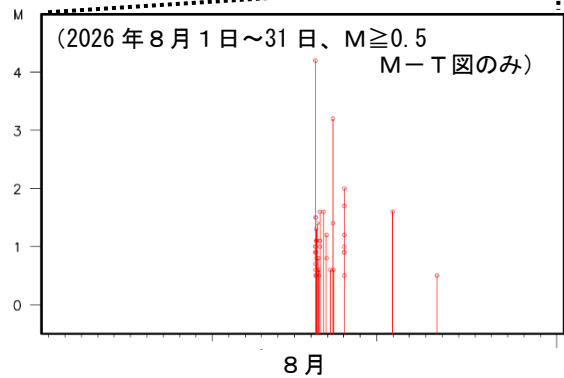
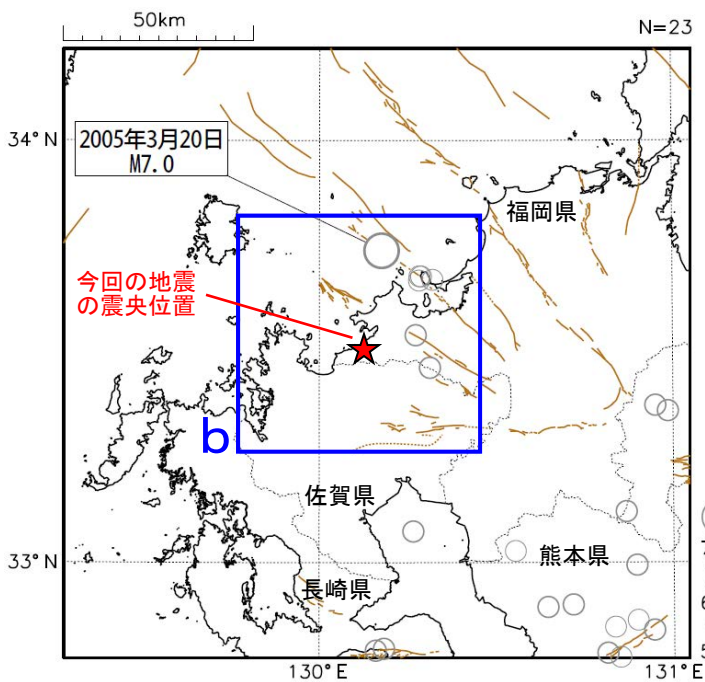
領域a内のM-T図及び回数積算図



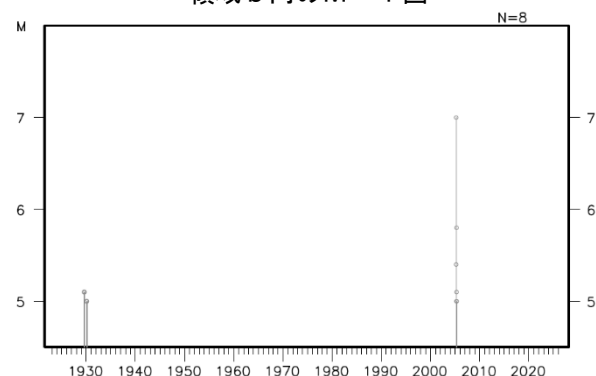
震央分布図

(1919年1月1日～2026年8月31日、
深さ0～50km、 $M \geq 5.0$)

茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による
活断層を示す



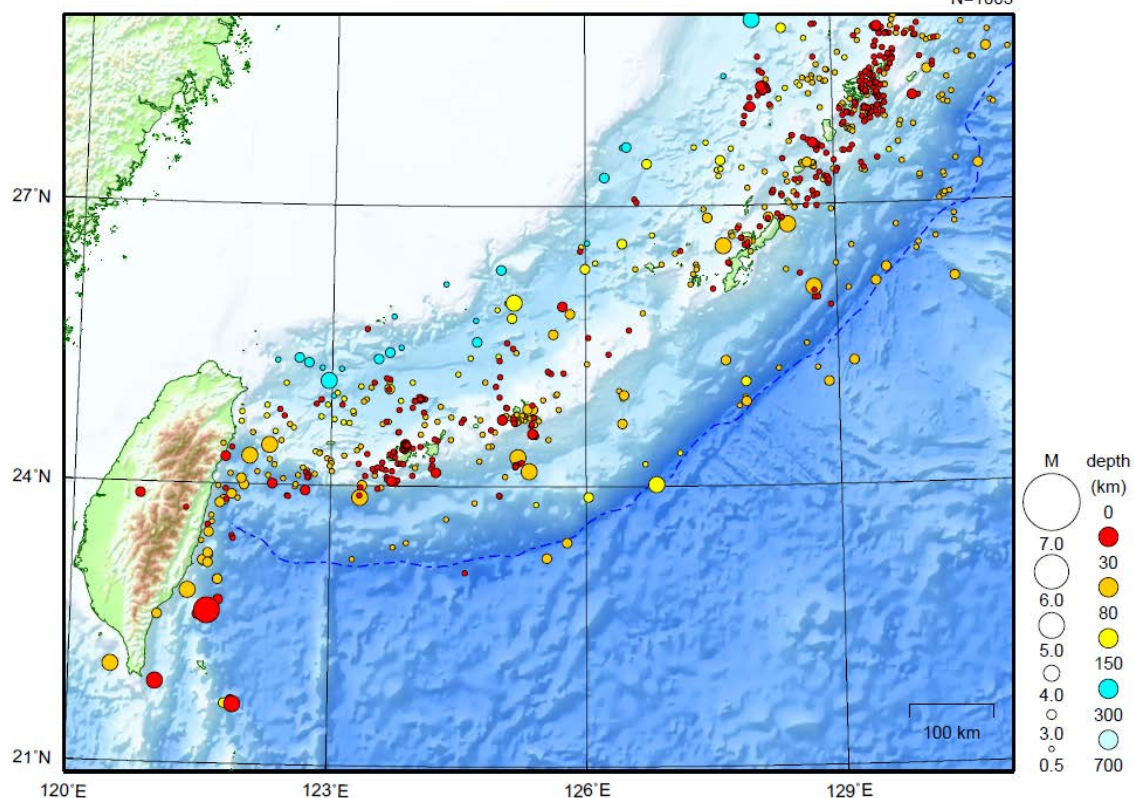
領域b内のM-T図



沖縄地方

2026/08/01 00:00 ~ 2026/08/31 24:00

N=1003



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省